明石中和校著
林善助著

教科摘要

新體日本地誌

中學校及師範學校用書

N=94/XIV

教科摘要

新體日本地誌第一編。

林善助著
明石中和校

總論。

第一章。—天然誌。

世界の地圖を披き之を觀るに、東半球の絶東海端に位置し、太平洋の群島より成れる一帝國あり、之を大日本と稱す、即吾人同朋の住地あり。我帝國の位置たるや、北緯大約二十四度より起り、五十一度に至り、東經百二十六度より、百五十五度に至る。

北は千島海峽を以て魯領カムチッカ(Kamtchatka)に接し、西は日本海を隔てゝ亞細亞大陸、即滿洲、朝鮮及ひ支那に臨み、東南は一

一、日本帝國は何處にあるや。帝國の經緯度を問ふ。他國との境界

帶渺漫たる太平洋を控へたり。

二、本邦は五大陸中亞細亞に屬せり。而して本邦より世界各國に到る海路を記すれは、則武藏橫濱港より、支那香港に到る千五百九十浬（一浬は凡十六丁余）錫蘭に到る四千五百九十浬、佛國マルセール（Marseilles）に到る九千六百三十七浬、米國サンフランシスコ（San Francisco）に到る四千八百八十浬あり。（右は海路の測量なれば、之を以て直に其土地の近遠となすへからす。）

域內群島ノ位置

三、右は我國か地球に於ける位置の關係を示せる大畧あり。今又域內群島の位置及ひ形勢に就て之を論すれは、則全國四個の大島と、無數の小嶼とより成る而して其最大なる中央の一島を本土又本洲とあし、其西南の二大島を九州、及ひ四國とあし、北方に在る一大島を北海道島とあす。而して其北邊カムチッカ半島に連續する者、之を千島群島と呼べり。九州の偏西台灣に連れる群島は、即沖繩諸島あり、又東南遠く太平洋中に星散する者、之を小笠原群島と呼べり。其他著名なる島嶼は、即佐渡、隱岐、壹岐、對島、五島、天卿、種子、屋久、大島（薩摩）、淡路、伊豆七島の如き是なり。

四、本洲は其延長北緯三十三度二十六分より、四十一度三十二分に至り、東經百三十度五十二分より、百四十二度四分に終る。其形狀は、北東より斜に屈折して西南に走る其長大約七百里、幅三十里より九十里を出入す。佐渡、隱岐、伊豆七島等は則之に附屬せり。

五、九州島之北緯三十度五十八分より、三十二度五十七分、東經百二十九度二十分より百三十二度七分の間に塡塞す。其長南北約二百里、幅八十里を出入す。對馬、壹岐、五島、天卿、種子、屋久、大馬及ひ沖繩の諸島は則其附屬なり。

六、四國島は北緯三十二度四十二分より三十四度二十四分、東

三、大島とは何ぞ。且其位置を記せ。
四、本邦は大陸の何れに屬するか。
五、九州島の經緯及び幅員は何？
六、四國島は本邦外國に到る海路如何？

九州

四國

列記せよ。
四、本洲の經緯及び形狀幅員又は屬島如何？
五、九州島の經緯及び幅員屬島ハ？
六、四國の小笠原群島千島及び沖繩の位置を其他問ふ？
島嶼なる名を記せ。

總論

經百三十二度より百三十四度四十五分の間に横り、北は一帯内海を控へて本洲と相對し、西は海峽を隔てゝ九州に臨む。其長東西約百五十里、南北平均六十里あり。淡路島は則之に附せり。

北海道島

七、北海道島は古へ蝦夷島と稱す。北緯四十一度二十分より四十五度三十分、東經百三十九度二十分より百四十六度に至る。其長東西大約百六十六里、幅南北百二十里あり。千島群島は則之に屬せり。本島の正北に當り、一大長島あり、之を樺太島と稱す、洋人はサガレン(Saghalien I.)と呼ふ昔時本邦の所領ありしが、明治八年千島群島と交換して、今は魯領に歸せり。

海名

八、近海名—絶東一帶亞米利加大陸に到る間の宏漠なる海洋は、地球上著名なる五大洋の一にして、即太平洋あり。北方千島及び樺太島の間をオコーツク海(Okhotsk S.)と稱し、我國と滿洲、及び朝鮮とを隔てる内海は、即日本海にして、又沖繩諸島以西を支那

國の經緯及び長幅闊島を記せ。

七、北海道島の經緯幅員闊島に就て？

樺太島に就て？

八、我國四面近海の名稱及び位置を問？

海と稱せり。其他陸他接近の處には大平洋岸に鹿島灘、遠江灘、及び紀州灘等ありて、風濤ともに危險あり。本土と四國の間を瀬戸内海と云ひ、内海には播磨灘、水島灘及び周防灘あり。九州の北邊には玄界灘あり、以て朝鮮に航すへし、之を朝鮮海峽と稱す。其西邊には天草灘及び七島灘あり、東邊には日向灘あり。

海ノ深淺

九、右環海の深淺を概記すれは、我國の地勢たる斜面急激なるの故を以て、之を各大陸諸國に比すれは、近海概ネ深しとなす。而して太平洋を其最なる處となす。今各所に就て之を論すれは、東海に於ける七島、及び小笠原群島に到る方向は、海中山脈の凸處なるを以て、較〻淺しとなすと雖、其他は概ネ深く、而して其深處は四千餘尋に達して世界第一の深處と稱せらるゝ部分あり。日本海に於ては太平洋の如き深處あらざるも、能登沖に於て一深處あり。朝鮮海峽は概ネ淺瀬にして、八十尋を過くる處なく、内海に於て

九、環海の深淺に就て？

總論

面積及ヒ人口

は二三十尋の間を出入すと云ふ。

一〇。面積及ひ人口—全國面積の總數は二萬四千七百九十四方里ありて、之を佛蘭西に比すれは較々小なれとも、英吉利、及ひ伊太利に比すれは大なりとす。住民の總數は三千九百六十萬七千二百三十四人あり（内男二千万八千四百四十五人女一千九百五十九万八千七百八十九人。）

面積并人口表

地名	面積	一方里ノ人口	地名	面積	一方里ノ人口
本土	一、四五七一	二〇六五	蝦夷島	五〇六一	五〇
九州	二六一七	二一六四	四國	一一八〇	二三九七
千島	一〇三三	一	沖繩	一五六	二三八七
佐渡	五六	一九七六	對馬	四四	七一一
淡路	三六	五二五七	隱岐	二一	一五九三
壹岐	八	四四二〇	小笠原	四	一七四

一〇。面積及ひ人口は如何？

一一。前表に據りて考ふるに、人口の粗密は海岸線と、面積との

天然誌

關係に出ることを發見せり。即其最稠密なるは淡路、壹岐、沖繩等にして、四國、九州、本土及ひ佐渡、隱岐、對馬之に亞く。而して小笠原、北海道島及ひ千島等は例外とす。夫レ土地の豐瘠氣候の寒暖、固より人口增殖に關係すると雖、之を要するに較、同一の地勢に於ては海岸線の延長は、其正比例を以て、人口の增加を見る是淡路、壹岐、沖繩の如き、本土及ひ九州等に比して增大なる所以なりとす。

人口粗密に就ての理論を記述せよ。

海岸線

一二。海岸線—海陸分界點自然の屈折凸凹をなす、之を海岸線と稱す。海岸線の長短は已に人口の增減に關するが如く、又邦國の開否を致せり。然り而して今我國の該線如何を檢するに、其延長は殆一萬五千三百餘里に及び、地球上之と比すべき土地あるを見す、乃將來海利と以て國運を振ふべきや知るへきなり。

一二。海岸線とは？海岸線の長短は如何なる關係を邦國に及すや？

本土海岸線

一三。本土の海岸線を分ちて三となす。曰く日本海海岸線、曰く

一三。

大平洋海岸線、曰く瀬戸内海海岸線是あり。右三線中我邦に重大なる關係を與ふる者は、大平洋海岸にして、其屈折殆名狀すへからす。即牡鹿半島、松島灣、以上陸中　總房半島、東京灣、伊豆半島、駿河灣、伊良古崎、衣ヶ浦、知多半島、伊勢海、志摩半島及ひ紀伊の大半島等皆此内に在り。故に本線に沿へるの土地は、則開明の度甚高し。而して東京、横濱、名古屋の如き殷富の都會を有せり。

一四　太平洋海岸に次て重要なるは、瀬戸内海の海岸線にして、屈折亦少がらす。即大坂灣、兒島灣、及ひ兒島半島、廣島灣、室津岬角等あり。和歌山、大坂、神戸、廣島、岡山、馬關の如き良港繁市は、皆此線中に在りとす。

一五　日本海海岸線は三線中最長なれとも、屈折少なし。出雲の地藏岬、丹後の經ノ岬、若狭越前の一灣、能登半島、小鹿半島等ありと雖、要するに一直線となせり。故に其沿道各地は、進歩較、遲く、市

本土の海岸線に就て？

太平洋海岸線とは？

一四　瀬戸内海の海岸線とは？

一五　日本海海岸線に就て？

九州海岸線

街も亦他二線の地方に若かす。

一六　九州は海岸線の屈折本邦無比、長嘴深灣枚舉すへからす。其肥前の如きは四分五裂、東西松浦半島、伊馬里灣、鯛浦、西彼杵半島、野母崎、島原半島、筑紫潟等皆此内にあり。其南方は薩摩及ひ大隅の二大半島、鹿兒島灣あり。其東方は屈折西岸に及はすと雖、猶門司ヶ關、國東山嘴、佐賀關、鶴見崎等あり。故に此地は、或事情に制せられて、八文本土に若かさるか如くなれとも、歴史上最夙に開明に趣けり。

四國及ヒ北海道海岸線

一七　四國海岸線は屈折甚しからす。即土佐海及ひ燧灘の二大灣、伊豫半島、佐田崎、嗟峨岬、浦生田崎、室戸崎等あり。北海道島は海岸線の屈折甚少し。即其岬角に白神、惠山、新室蘭、襟裳、納紗布、知床、宗谷、神威、白糸等にして、灣に箱館、火山、花咲、根室等あり。

一八　海峽―本邦は群島より成る故に、海峽又は海坌と稱すへ

一六　九州の海岸線は如何？

一七　四國及び北海道の同線は如何？

一八

き處許多あり。其著名なる者を列擧すれば、千島とカムチッカ半島との間を、久留里海峽と云ひ、北海道と樺太島との間を、宗谷海峽と云ひ、北海道島と千島との間を根室海峽と云ひ、北海道島と本土との間を津輕海峽と云ひ、本土と九州との間を赤間關海峽と云ひ、九州と四國との間に速吸海峽と云ふあり。

山脈

一九。山脈―本邦の地勢たる海中簇立せる峯巒、水面上に露出し、以て一彙群島國を構造せし者なれば、全州殆ど山骨より成り、平原廣野と稱すべき處甚少しとあす。今其山脈に就ての概形を論すれば、北方樺太及ひ千島の兩山脈、亞細亞大陸より來り、相結合して北海道島をなし、更に南進して本土となり、本土中央に於て二分し、一は西折して中國となり、一は南海に入りて四國島をなす。而して二者復ゝ結合して九州を現はし、再ゝ分れて一は北方朝鮮に、一は西南沖繩諸島となり、台灣となり、共に復大陸に歸納す。

一九。本邦の地勢は如何？其山脈の概勢に就て論せよ。

本邦海峽の多き理由及ひ其著名なる者に就て？

又本土より分れて南走せしものあり、即伊豆七島及ひ小笠原島となりて南洋諸島に及せり。

二〇。又更に之を細別する時は、曰く北海道山脈、曰く本土山脈、曰く四國山脈、曰く九州山脈是なり。而して本土山脈は更に細別すれば、北部山脈、富士山脈、中部山脈、及ひ西部山脈となす。以上の諸脈は實に本邦の諸川分水點をなせり。

北海道山脈

二一。北海道山脈は即北海道島構成の山脈にして、其宗谷岬より起り、北見、天鹽の國界をなし、更に進て十勝、日高の境上を走せ、襟裳岬を突出して止む、是北海道非火山脈なり（其著峯は天鹽、石狩、脈虎諸岳等あり）。其火山脈は即千島連島を現しつゝ來る者にして、石狩、十勝の境上に於て、非火山脈と相交叉し、十字形をなす處、最峻奥を極め、更に膽振後志の境界を劃して、渡島半島をなし海に沒せり（其高峯は硫黄、十勝、夕張、後方羊蹄諸山あり。）

二〇。本邦の山脈を何個に分つや？

二一。北海道に於ける非火山及火山脈は如何。

總論

北部山脈 二二、北部山脈に於ける非火山脈は、之を東岸山脈と稱し、陸中及び磐城の海岸に連亘す。而して一を北上、一を阿武隈山脈と稱す（早池峯、六角牛山、矢大臣、八溝諸山此中に在り。）其火山脈に在りては、中央及び西岸の二派ありて、甲は陸奥より起り、陸羽の背梁を爲して、最峻絶を極め、以て富士山脈に結合す。邦内最大最峻の山脈とす（八甲田、岩手、栗駒、磐梯、那須、日光、諸山此内に在り）乙は陸奥西部を起點とあし、中央山脈と相平行して、又富士山脈に結合す（磐城、鳥海、月山、羽黑、飯豐、穗高、白峯諸山此内に在り。）又別に越后海岸に平行する火山脈あり（角田、燒山、妙高、諸山之に屬す。）

富士山脈 二三、富士山脈は北部火山脈を受け、屈折して南走し、即淺間山、富士山、伊豆半島とあり、以て伊豆七島及び小笠原群島を形成せし、至大の大火山脈あり（此脈中富士山を盟主として淺間、黑姬、鉢岳、乘鞍、八ヶ岳、金峯、箱坂、足柄、箱根、天城の諸山著名なり。）本山脈は古代北部山脈と中部山脈との接合點に於て、日本を横斷する所の大溝谿を地層に生したりしか爲め、地熱其

二二、北部山脈とは？

其火山脈に就て記せ。

二三、富士山脈の所在及び其出現の理由？

噴隙を求めて噴起したる者ありと云ふ。

中部山脈 二四、中部山脈は信、飛、三、遠、諸州に蟠踞する一團の總稱にして、實に日本山脈の中樞とも稱すへきものあり。故に峯巒重疊、信濃の若き飛驒の若き、平地ありと雖、千尺以上に達するを見る（赤石、黑法師、水晶、御岳、惠那、立山等の高峯此に屬せり。）其脈分れて三とある。即一は能登半島とあり、一は南走して紀伊に入り（吉野、大峯、高見、大塞原、諸山となり）一は中國を形成する所の西部山脈とある。其分岐の低地には琵琶湖を現せり。

西部山脈 二五、西部山脈は又中國山脈と云ふ。山陰山陽兩道の分界線にして、山勢甚峻絶ならすとす。其起點は即琵琶湖の北邊より起りて、長門に盡く（比良、比叡、寶來、三國（中國）德佐諸峯は此内に著る。）又山陰道海岸に沿ふて西走する一帶の火山脈あり、之を西部沿岸火山脈と稱す。乃越前に起りて、石見に盡く（大日、白山、大江、鬼城、大山、天狗、三瓶諸山は此内に著る。）又本脈に平行して日本海中に出沒する火山脈あり。乃佐渡、能登及び壹岐の

二四、中部山脈とは何を指すや？其山脈の分脈を記せ。

二五、西部山脈の一名及び所在？同火山脈に就て

總論

諸島は其脈の露出に係る。

九州山脈

二六、九州山脈は其北部肥前、筑前及ひ豐前の間に横る一派と、又之と共に丁字形をなして南走し、九州の背骨をなし、大隅、薩摩を形成する一派とあり、此脈の著山は高南、國見、祖母諸山等なり。其中火山脈に係る者は肥前に起り、薩摩半島をなし、洋中に沒して薩摩群島を現する者と肥後より分れて東走し、豐後の國東山嘴をなす者とあり、開聞、櫻島、霧島、溫泉、多良、阿蘇、英彥諸山は此脈の著山なり。

四國山脈

二七、四國山脈は九州より來る者、四國を横斷して南北の分界線をなし、更に進て紀伊半島に入る其高峯には鬼城、矢筈、石槌、劍山等あり。其火脈は伊豫及ひ讃岐の北端に於て僅に之あるのみ。

二八、左に八千尺以上の高峯を表出して讀者の參考となす。

山名	所在地	性質	直高
富士山	駿河及甲斐	燒火山	一、二四六尺

山名	所在地	性質	直高
針木嶽	信濃及越中	火成岩	九八四七

二六、九州山脈の一體に就て記せ。

二七、四國の山勢は何如。

二八、本邦高峻なる山岳の性質及ひ最高隆なる地方とは？

高山表

山名	所在地	性質	直高
鎗ヶ岳	飛驒及信濃	火成岩	一、一六五二
穗高山	仝	仝	一、一五四三
常念岳	仝	仝	一、〇五一一
御岳	仝	仝	一、〇五一一
大天上岳	仝	仝	一、〇四八〇
乘鞍岳	仝	仝	一、〇四五〇
白根山	甲斐	仝	一、〇二一三
赤石山	信濃	古生紀層	一、〇一三五
駒岳	甲斐	仝	九九三四
大蓮華山	越中	仝	九八七一
錫杖岳	信濃	仝	九八七一

山名	所在地	性質	直高
蓮華山	信濃及越中	仝	九六八三
八ヶ岳	甲斐	舊火山	九六七六
立山	越中	仝	九三七二
前岳	信濃	古生紀層	九一〇八
同上	仝	仝	八九〇七
地藏岳	甲斐	仝	八八五七
白山	加賀	舊火山	八八〇四
國師岳	甲信及武	古生層	八五五三
立科山	信濃	舊火山	八三四九
淺間山	信濃	現火山	八二三〇
男體山	下野	舊火山	八二二〇

右の表によれば本邦峻高なる山岳は、概ね火山脈に當る火成岩質なれは、大古に在て火山噴出の猛烈ありしを知るへく、又一萬尺

火山

以上の高峯、概ね飛騨、信濃の境界に多きを見れは、乃該地方の最高隆あるを知るへし、

二九。火山—右諸山脈中、火山質に係るもの殆五分の一に達すれは、隨て火山に富めり。即火山總數一百七十餘座ありて、之を各地に就て分ては、本土及ひ伊豆諸島に九十座、北海道島に十八座、千島に二十八座、四國に一座、九州に十六座、其他各島にある者十七座ありと云ふ。又之を現火山、熄火山の二者に分ては、即現火山は二十九座、熄火山は一百四十一座ありと云ふ。

三〇。現火山の著明なる者は即淺間山（信濃）三原山（伊豆大島）駒ヶ岳（渡島）惠山（肥後）阿蘇山（豐後）鶴見山等是あり。熄火山に於ては即富士山（駿河）磐梯山（岩代）恐山（陸奥）櫻島岳（薩摩）霧島山（大隅）榛名山（上野）箱根山（相模）黑姬山（信濃）十和田山（陸奥）等是あり。又時々硫黄及ひ其他の瓦斯を噴出する處、凡三十八口ありと云ふ。

二九。火山の總數及ひ現熄二火山の總數を記せ。

三〇。現火山及ひ熄火山の著名なるは？

富士山

富士山

地震

三二。地震—本邦の地たる右の如く、火山及ひ火山の脈頗る饒多なるの故を以て、時々大小の震動に感することあり、而して多きは年に數百回、少きも數十回には下らすとなす。去れは其大なる

三一。就中富士山は實に熄火山の最大なる者にて、本邦第一の高峰偉觀たるは普く人の知る所なり。其高海面を拔くこと一萬二千四百六十七尺、山麓の直徑大約六七里に跨り、以て駿甲の界をなす。其絶頂は未ダ雪線以上に達せされとも、四時概ね白雪を戴き、四望皆同一の觀を呈し、宏壯美觀東洋の仙界茲に至て極ると謂ふへし。

三一。富士山に就て記せ。

三二。本邦地震の多寡及び

總論

るに方りては、或は家屋を振倒し、或は山岳を崩壞し、或は陸地を變して海とおし、或は海嘯とおり、以て人畜財物を傷害せしとおゞ、古來史上に著し。

三三. 今內務省地理局の調査に據るに、震數最多きは東京に去て、一年平均七十回以上、其他の地方は鹿兒島及ひ陸奥半島にして、十一回以上、美濃、尾張地方は六回以上なりとす。又北海道に於ては未だ細密の調査を得されとも、明治十六年一月より十七年六月に至るまて、根室及ひ札幌に起りし震數は、六十回に及へりと云ふ。

三四. 温泉—右の如き地質に於ては、温泉の噴出富饒なる亦勿論ありとす。今其著名なる者のみにても四百餘個所に及へり。即本土に三百九所、四國に九所、九州に七十所、北海道に四十四所ありと云ふ。

温泉

三三. 各地地震の多少に就て？

其殘害を論せよ。

三四. 温泉に富める理由及ひ其數を記せ。

三五. 其浴客の以て噪く所となる者は、箕根七湯、上野の草津、及ひ伊香保、伊豆の熱海、攝津の有馬、伊豫の道後、肥後の山鹿、肥前の溫泉岳湯、下野の鹽原等あり。就中道後の溫泉は其名夙に高く、一千三百年代、聖德太子入浴の碑文今尙存せり。

三六. 河川—本邦の形勢已に延長分裂するを以て、巨浸大流と稱すへき者少し。獨り百里以上の長流は北海道に石狩川あるのみ。今其著名なる者を概舉すれは、北海道に於て石狩及ひ天鹽の二川、本土に於て北上、利根、信濃、天龍、木曾、最上、阿賀野、新宮、阿武隈、及ひ富士、澱の諸川、九州に筑後、四國に渡川等あり。

三七. 就中石狩川は石狩國の域內に浸漫して、北海に注き、其兩岸は所謂北海道の沃野をなせり。北上川は陸中、陸前を貫流して陸の平原をおし、利根川は上野に發し、關東の曠野を蜿轉して、日本第一の廣沃野を現し、以て東海に注き、信濃川は信濃、越後を串

河川

三五. 著名なる浴場を記せよ。

三六. 河川の長流なき理由は？

著川の名目を問？

三七. 右著川の所在及ひ其沿岸地に就て？

き、日本海に注ぎ、而して其兩岸又富饒の沃地をなせり。濱川は琵琶湖に發し、大坂灣に入る。是皆舟楫魚漁の利を兼ねたり。左に舟筏航行三十里以上の延長を有する、名川を表出して讀者の參考となす。

名川表

川名	所在地	通舟延長	川名	所在地	通舟延長
石狩川	石狩	未詳	渡川	土、豫	三八 未詳
信濃川	信、濃、越後	一六七 一〇〇余	吉野川	土、阿	三七 四一
北上川	陸中、陸前	六三 七六	新宮川	和、紀	七九 三七 未詳
利根川	關東	七一	雄物川	羽、後	未詳 三六 仝上
天龍川	信、遠	五六	阿武隈川	岩代、磐城	六〇 三五 七七
木曾川	信、濃、尾	五五	紀ノ川	和、紀	六六 三二 四七
最上川	兩、羽	五四	荒川	武、藏	六二 三二 五六
阿賀野川	岩代、越後	四五	日高川	紀、伊	五七 三一 五五

三八。湖沼の著しき者を列記せよ。北海道

湖沼

三八。湖沼。—本邦湖水の著名なる者は、近江の琵琶湖、常陸の霞浦、岩代の猪苗代湖、出雲の中海、及ひ宍道湖、羽後の八郎潟、陸奥の小河原湖、下總の印幡湖、陸奥の十輪田湖、遠江の濱名灣、信濃の諏訪湖、下野の中禪寺湖、伊豆の蘆湖等あり。北海道に於ける湖水

は、未だ著名あらざれとも、大なる者少からす。即膽振の有珠湖、及ひ支笏湖、釧路の阿寒湖、及ひ屈斜路湖、北見の猿舞湖等是なり。是等は未だ詳細なる測量を得す。

三九。凡ゝ湖沼の成立に就て四類の別あり。第一、地層自然の低窪なる處に、水の瀦溜せる者。第二、地震の爲に地盤陷沒を生し、流水の之に注きし者。第三、舊噴火洞に水の湛ゆる者。第四、洪水海嘯等の爲めに、土砂を堆積し、河水を堰溜して成れる者是なり。而して霞浦、印幡沼等は第一種に、琵琶湖、猪苗湖、及ひ支笏、阿寒、屈斜路等は第二種に、中禪寺湖、十輪田湖、諏訪湖等は第三種に、濱名湖、宍道湖等は第四種に屬せり。

三九。湖沼の成立種類とは？右の湖水を種別せよ。

平原

四〇。平原。—本邦に於て平原と稱すへき地は、河流の作用に因り、上流の土砂を搬運して成れる砂地を多しとなす。即其著名なるは關東の曠野にして、利根、荒川の二幹流よりなり、陸中、陸前の

四〇。本邦平原の成立に就て

平原は北上川にあり、美濃、尾張の平野は木曾川にあり、越後の平地は信濃川にあり、四國の曠原は吉野川にあり、九州の平野は筑後川、及ひ肥後諸川にあり、北海道の平原は天鹽川、石狩川の沿岸にありしもの多し。此故に本邦平原の地たる、土質沃美、灌漑宜しく、最水田に適せり。

○四一、地熱の作用は間、地盤を陷沒せしむることありと雖、多くは之を突起せしむるにあり、然るに流水の作用は全く之に反對せり。夫と雨水なる者い、空氣中の酸素を抱和し、常に物體を腐蝕磨碎するの化學的作用を有せば、乃其常に降下するや、山頭或は岩石を破碎し、之を川流に致して土砂とあす。而して一朝暴雨に會すれは、其破碎せられし所の土砂は、急流の爲めに下流に搬運せらるへし。斯くの如くにして、大古より未曾て止まされば、則下流の低地は次第に砂泥を累積し、以て平面的の地盤を構成し

四一、地熱と流水との作用を論じて造化の妙作を悟らしめよ？

て？平原の著大なるは？

氣候

太平洋暖流

止まさるあり所謂沖積層是あり。是に於てか火熱は地盤を不平均とあし、流水は之と平均とあし、共に其面積の增加をあす造化の妙作亦驚くへし。

四二、氣候—本邦の氣温、南北各地固より其差違あきと能はず。然れとも之を要するに、中和其宜きを得、雨雪亦時を以て至り、八生の快適、艸木の播殖甚可ありとあす。而して之を對岸支那、朝鮮及ひ魯領等の地方に比すれは、幾分の温氣を加ふ。是蓋東、太平洋を控へ、其暖流來て、東南海岸を洗條し去るに基因せすんはあらす。

四三、本邦の氣候をして沍寒に暖風を輸し、旱天に雨雪を送り、以て之を調和せしむる者、即太平洋暖流は、其始め赤道直下に於て、充分ある日熱を含有する者、次第に西流し、ヒリッピン群島(Philippine I.)邊に達すれは、台灣の東岸に沿ふて北折し、沖繩連島を過

四二、本邦氣温に就て？

本邦氣温を大陸各地に比すれは如何？

四三、本邦の氣候を調和する者は何ぞや？

きて二派となり、支流は日本海に入り、本流は九州及び四國の南岸を洗ひ、伊豆諸島に至り、有名なる黑瀨川となり、猶北方に進み、北緯凡四十度、東經百六十度の邊に達すれば、次第に其流動を消滅す。是を黑潮と云ふ。

四四. 日本海に入る所の支流は、日本海の寒潮を暖め、本邦の氣候を暖和あらしむると雖、北海より來る寒流の爲めに其熱を奪はる。故に本邦の氣候は、其緯度相等しきも、日本海々岸地方と、大平洋海岸地方とは、著しき差違あるを常とあす。左に最近三年間に係る各地氣温の概表を掲く。

各地氣温

地名	最高度	最抵度	平均度	雨量
長崎	四八度〇分	零下三、六	一五、六	二〇九九ミリメートル
廣島	三五、五	六、九	一四、四	一四九〇
大坂	三四、八	四、二	一五、二	一二〇〇

四四. 黑潮の流行に就て？

黑潮の支流に就て？

何故に本邦東海と日本海とは氣候に差違あるや？

並雨量表

			雨量
東京	三三、三	八、二	一三、三	一三九一
金澤	三五、二	七、四	一三、四	二六四六
函館	三〇、一	一六、一	八、五	九四四
札幌	三二、七	二二、八	八、〇	九二五

本書ノ温度ハ皆攝氏ノ寒暖器ヲ用ウ。

四五. 各地雨量の多寡を檢するに、平均春季に於ては第一、飛驒、第二、志摩、及び紀伊東岸第三、四國南岸より日向、大隅の東岸第四、九州西岸夏季は第一、飛驒、美濃地方第二紀州東岸第三、遠、三、信の國界近隣第四、土佐及び九州西南部秋季は第一、九州東岸第二、日向海岸第三、土佐、對馬、山陰、北陸、地方、及び三、遠、信の國界、伊豆の東岸より常陸海岸に到る大平洋面冬季は第一、加賀、越前、能登第二、越後、山陰道諸國、及び兩羽、陸奥並に北海道西岸あり。其他の地方は凡へて之より下れり。

四五. 四時に於ける各地の雨量如何？

四六、又全年に於ては、第一紀伊東岸、及ひ伊勢南岸第二、飛驒、第三遠州北部、日向、大隅の東岸、及ひ土佐第四、九州南部、及ひ能登、越後、信濃、美濃、伊豆以東の東海道諸國、及ひ出羽地方あり。而して其他の地方は其以下に在りとす。

降雪

四七、降雪期の遲速に就て檢すれは、其最早きは則北海道にして、最晩きは九州あり、而して其數年平均の調査に據れは、全國最早地は札幌、最晩地は宮崎にして、其差殆ト一百餘日あり。又其多寡に就ては、其最深あるは加賀、越後、兩羽の地方にして、冬期は全く雪中に住居せり、而して薩摩及ひ沖繩の如きは、終身雪片を知らさる者あり。

風

四八、風の方向及ひ多少は氣候上大關係を有する者あれば、今其概梗を記すへし。本邦の風位は山岳、或は谿谷等の支障物の爲メに、各地一定せさるか如くあれとも、仔細に之を檢する時は自ら

四六、全年に於ける各地の雨量は？

四七、降雪の遲速及ひ其多寡に於ける地方は？

四八、風の方向及ひ多少は

一定の順序あり、即冬期は西風及ひ西北風多く、春期は次第に南に傾き西南風となり、夏期に至れば全く南風に變し、秋季は次第に變して東風となり、而して復北風西風に變するを常とす。

四九、又其多少に就て論すれは、西風最多く、北風之に次き、北西風、又之に次き、南東風最少し、蓋し其然る所以の者は、本邦の位置赤道以北に在りて、北は大陸及ひ日本海に臨み、東南一帶太平洋に面するを以て、冬期太平洋南部の熱するや、亞細亞大陸の寒風は日本海を渉り、本邦を通過して之と塡充せんと欲す、即是西風若くは北風の多き所以あり、而して夏日は本邦殆ト熱點に在るを以て、南東風の僅少なる所以あり。故に又西風若くは北風は、勢威常に、銳く、南東風は、常に、微弱なる所以ありとす。

五〇、東風或は南風は、熱帶地方の太洋より吹き來る者あるを以て、多量に水蒸氣を含有せり、故に其風候初夏より盛夏に及ぶ

何に關するや？

本邦の風位に就て？

四九、本邦風位の多少及ひ其強弱を問？

風位の因て生する原因は如何？

五〇、東南風の雨氣

總論

して、常に霖雨又は驟雨多き所以とす。而して該風は年々一定せる期節に於てするを以て、之と季候風と稱す。

梅雨

五一、本邦霖雨年々一定の期節に於てする者、之を梅雨と稱す。乃季候風の齎らす所の水分を降らす者にて、其季は初夏六月中頃より凡ゞ三十日間にありとす。而して其間陰濕最甚しく、鉄器は爲に酸化し、諸品は概ね黴菌を生す。邦人之を五月雨又ッユ露の意と稱す。

暴風雨

五二、夫レ暴風は大氣溫度の不平均より生し、渦旋をなして進行す、又之を颶風と稱す。其猛力あるは砂礫を飛し、家屋を倒し、樹木を拔く。本邦襲來の暴風は支那海より來る者多くして、始めは九州南岸より東北に進み、本土を通過して日本海に入るを常とす。而して其期は概ね八、九月頃にあり。此暴風は唯に風勢のみにあらず、多量の水氣を含有するを以て、暴風の襲來するや、暴雨概

を帶ふる所以？季候風とは？

五一、梅雨とは何ぞや？

梅雨の候及び邦名に就て？

五二、本邦の暴風は？

暴風襲來の狀態及び期季は？

暴雨の襲來及び其露荒に就て？

之に伴へり。邦人古來之を二百十日、或は二百二十日の驚荒と稱して恐怖せり。

氣候ノ概論

五三、本邦氣候に就て之を概論すれば、太平洋沿岸地は冬期溫暖にして夏季清冷を覺ゆ、日本海沿岸地は冬期烈寒に比して、夏季酷暑あり。九州、四國は暑氣最高を占むと雖、冬期の寒冷亦甚しからず。北海道は緯度の高きが爲めに、冬期は概ね寒暑針氷點下に在りて、雖ひ炎威あるも三十二度に昇ると稀なりとす。又海濱地と內部山地とは、寒暖著しき差違を呈す。即山城、大和、近江、美濃、飛驒、雨野、及ひ磐城、岩代等の無海國は、他の同緯度の地よりも寒冷あるが如し。

物產

五四、物產—本邦の地味概して豐腴、不毛の地あく、氣候可適、許多の動植物を繁殖せしむるに宜し。凡ゞ溫帶に生すべき動植物は、一として生茂せざる者あきに似たり。故に地の出す者、海の藏

海濱及び山地の寒溫如何？

五四、本邦の地味及び物產の繁殖

總論

其種類

する者、枚擧に遑あらざるあり。左に其著しき者のみを列記す。

五五、其植物に於ては五穀蔬菜の類、綿、麻、甘藷、蜀黍、蕎麥、茶、烟草、藍、松、杉、檜、欅、樟、櫧、楪、山毛欅、栗、楼、竹、柿、蜜柑、柚、梨、李、梅、桃、櫻、諸花卉、甘蔗、藥草等にして、動物の主要なる者は牛、馬、犬、豚等の家畜類、及ひ猴、猪、熊、鹿、兎、狐、狸、家禽は雞、家鴨の類、其他は鴈、鴨、鶴、鷹、鷲、及ひ諸吟鳥あり。蠶は本邦物産中特に有益なりとす。又鑛物に於ては金、銀、銅、鐵、鉛、錫、及ひ石炭、黃硫、泥炭、石油、花剛石、瑪瑙、水晶、其他建築石材、諸寶石類に富めり。水産物にては魚類のみにて殆ト五百餘種の多きに至り、其植物は鹿角菜、和布、荒布、昆布、鹿尾菜、石花菜、海苔等饒に、其獸類は鯨、海貂、獺、虎等あり、介類亦數ふへからす。

勝景

五六、勝景―讀者は前諸節に於て、天の我民物を保祐するや、其地味に於ける、其氣候に於ける、又其物産に於ける、夫と至厚なるを記憶せん。而して此天祐の我日本人は、其内地を旅行せは、又更

に就て？

五五、植物動物の重なる産物は如何？

鳥獸類の重なる者は？

礦物は如何？

水産物に就て記せ？

五六、内地を旅行して得る所の愉快とは何ぞや？

に山水海陸の明快清愉ある、花卉草木の瀾縵愛すへき者、一として吾人の心目を喜はしめさるあきを見ん、豈に多福多幸の仙樂境にあらさるを得んや。

五七、今夫と天然の名區勝地の海内に鳴る者を擧くれは、幾内に山城峽間の清境あり、東海道に三保、松原、芙蓉峯あり、東山道に琵琶湖の八勝、中禪寺湖の仙幽、松島の明眉あり、山陰道に天橋立の奇觀、山陽道に舞子、明石の清閑、嚴島の美境あり、南道海に和歌浦の佳景、西海道に耶馬溪の鬼工あり。

國土成立

五八、日本國土の成立―今や天然に關する本邦地理學上の記事を了せんとせり、而して茲に其國土發育の概畧を記して、讀者の參考に資せんと欲す。是固より地文學の與かる所あるを以て、本書は其詳を說くを要せさるあり。

五九、凡ソ陸地即乾面の性分を、岩石及ひ土砂の二とあせとも、土

五七、全國著名の勝地を枚擧せよ。

五八、國土成立等を講する學は？

五九、

總論

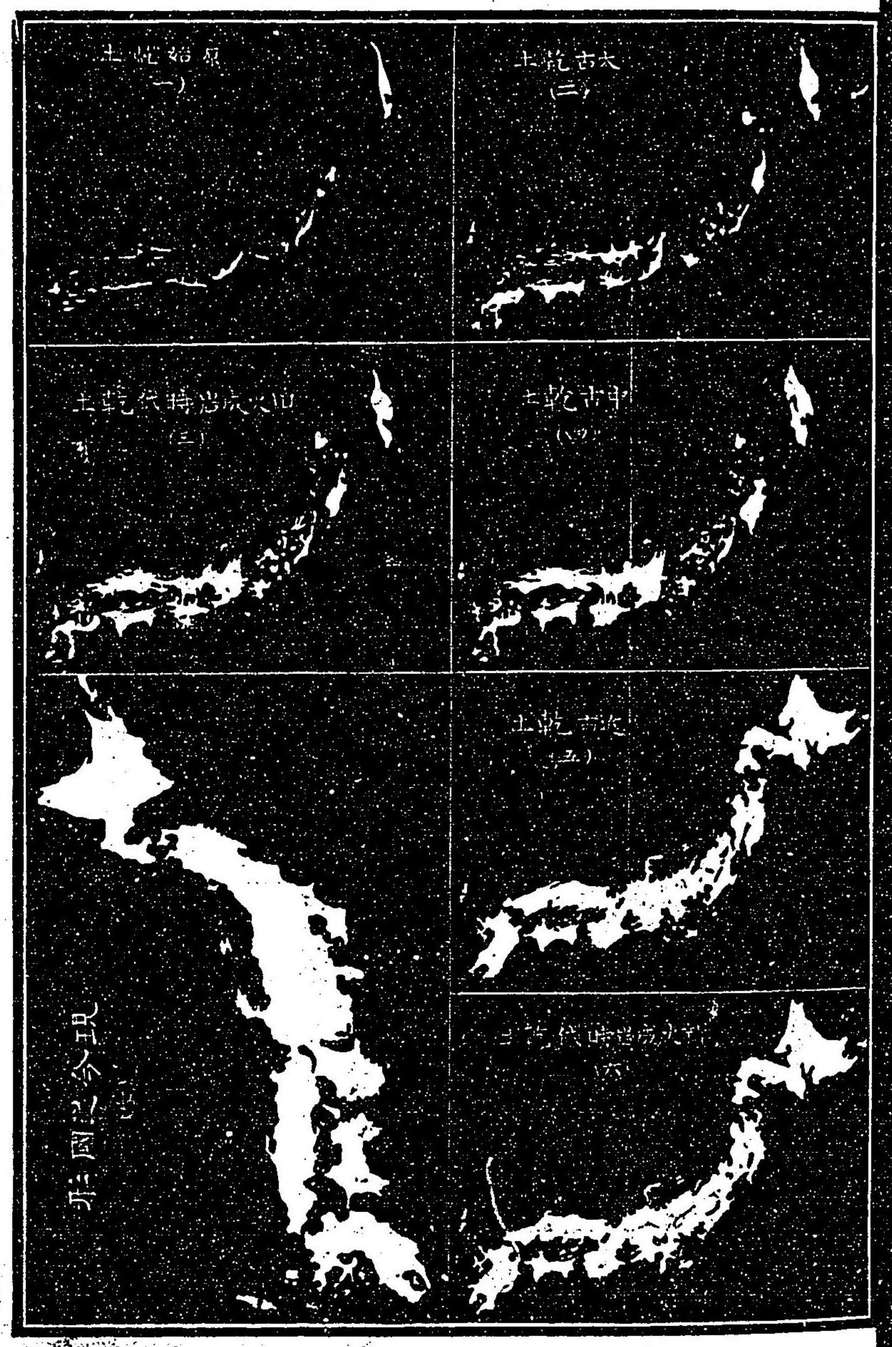
砂は、元、岩石の破碎に因て來る者ありとす、故に、陸地の原起は、岩石に、あり、とす。然り而して岩石に又凡そ三種の別あり、即第一、古生岩、第二、火成岩、第三、壓成岩是あり。其壓成岩ある者は、即岩石一度流水の爲に破碎し、土砂となれる者、重力の作用によりて、岩石となれるを云ふ。

六〇　近來學者の推理に據れば、地球は其初め非常猛烈ある熱氣を有する氣體ありしか、其次第に熱度を放散するや、終に液體となり、更に凝結して固体となり、以て現形に至れりと。其將に固體に變せんとするや、其殼皮は、爲に、無數の、皺面を、生し、以て、山、岳、丘、陵、若くは、平原、谿、谷、となれり、此事月球を望遠鏡にて仔細に親ふ時は、月球も亦其初め液體なりしことを明知するを得へし。

陸地即乾面の性分に就て？岩石の三種とは何ら？

六〇　地球原始は如何なる物体なりしや？地球の固體に變せんとするに際して生ずる雜面とは？

日本乾土發生畧圖



總論

三四 原紀層成形ニ就テ

六一. 斯の如く液體か固體に變するに方りて、生したる乾土、即陸地は、所謂古生岩にして、今之を本邦現存の地層に徴せは、則北海道中部を南北に縱斷する者、最廣大に、本土は陸中及ひ磐城の地方、中部は信、三地方より、紀州半島の中部を横斷し、以て四國に渡りて、長大なる層を現せり、其他は九州中國に無數の小點となりて散布す。是に依て考ふれは、最初日本の形狀は、殆ト無數の小群島にして、其幅員は現形の大凡五十分の一にも若かさりしなり、是を原紀地層と稱す。

六二. 原紀地層の凝集と、同時に水と大氣と相分離せしかは、暴雨流水の作用は、原紀地層岩を破碎分解して之を平敷し、著しく乾土を廣けり、是を第二紀地層と稱す。本紀地層は元來砂土なれとも、所謂重力の作用に基き、多くは壓成岩と變したり、即各種の砥石は是なり。而して本紀よりは、往々下等なる植物及ひ介

六一. 原紀地層の成立及ひ本邦に於ける同層の所在に就て?

六二. 第二紀地層とは何ぞや?

本紀に於ける動植物は如何

天然誌

殼等の發生を初めたりき。

六三. 第二紀地層の增加せし地方は、四國島の南部一圓、紀州半島の中部、山城、丹波、丹後、近江、若狹、越前、美濃の一帶、遠信の或部、武藏秩父郡、陸中一圓、北海道は原紀地層の兩傍著大に、及ひ渡島半島の一部、中國及ひ九州も亦著しく增加せし者の如く見ゆ。對島及ひ薩摩諸島の如きは、此時に成れり。

舊火成岩

六四. 第二紀地層の方に構造せられつゝあるや、日本各處に至大なる噴火起り、爲に前乾土の變形著しとなす。其變化の著大なる地方は、中國西部第一にして、之を次くは中部山脈の地方、即信飛濃の地其他東山道北部にして、九州及ひ中國の如き又多少の變化ありし是を舊火成岩と稱す。

六五. 右の大噴火止むや否や、水力作用は第三紀地層の經營を始めて、乾土又增加せり、即四國吉野川近傍、淡路の南部、紀伊の南

第三及ヒ第四紀地層

六三. 本邦に於ける第二紀地層の增加せし地方は?

六四. 舊火成岩の噴起及ひ其著大なる地方?

六五. 第三紀地層に

總論

部、陸前の一部及び、北海道の中部等なり。之に尋て水成乾面の增加、又は火力の爲めに其突起を來し、廣大なる日本方域を擴張せり。即北海道全部、北陸道沿岸、及ひ東山道北部各所、東海道は總房半島、幷に九州あり。就中北海道及ひ九州は、此時殆ど現狀をなせるに似たり、是と第四紀地層と稱す。本紀に至りては、動植物も現存の者と殆ど異ならず、氣候も亦大同ありしと云ふ。

新火成岩

六六、第四紀地層の增加せられつゝあるや、再ひ日本各處に大噴火起りて、復地形の著變を呈せり。即其著大なる地方は本土中央、所謂富士山帶にして、之に亞くは陸羽地方、及ひ九州中部とす。現今の生熄二火山は皆當紀の噴起に係る、是を新火成岩と稱す。

而して伊豆半島、壹岐島、隱岐島、佐渡島、及ひ伊豆諸島は此時に現出せりと云ふ。

第五紀地層

六七、右新火成岩の噴出やむや否や、水力作用は第五紀地層の

就て？

第四紀地層發成の模樣及ひ其生物に就て？

六六、新火成岩噴起に就て記述せよ。

天然誌

經營始より、又著大なる乾土を增殖せり、今日は方に其營作紀中にあり、而して人類も亦本紀に至りて、始めて發生するを得たりと云ふ。方に增加せられつゝある地方は、關東八州の曠野、其他は尾張の平地、瀨戸內海の沿岸、北陸道海岸地方等著しとす。之を要するに沿河の平地に多しとなす。右發生の概勢は、前圖に就て參看すへし。

人種

六八、人種—本邦人種は、世界五人種中の所謂蒙古人種に屬す

白人黃人ノ對比

るを以て、之を高加索、即白人種に比すれは、軀幹短小、皮膚は概して黃褐色を帶ひ、頭髮は眞黑に、鬚髯疎ありとす。故に又黃人種と稱す、而して性敏捷あり。今黃白二人種の心智如何を比較するに、古來黃人と白人と、生存上正面的の競爭おかりしかは、未遽に其優劣を判し難しとなす。假令現社會に文野の別はありと雖、然れとも其別は或る特別の原因に出て、心智の優劣に基因せす。

新火成岩噴出後の地層增加に就て論せよ。

六八、本邦人種の所屬及ひ形容性質は如何？黃人白人の心智優劣は如何之を判斷し得

總論

黄白二人種ノ競爭

況や歴史上黄人か白人と征服したる事はあれとも未〻白人の黄人と征御したるを見さるをや。

六九。今や邦人は白人と交通を開き、日未淺しと雖、彼我の長短を斟酌し、非常の進歩を現出せり。乃彼か學術、法律、商工業等の錯綜玄微なる者と雖、一として邦人の理解應用なし難きを檢出せさりき。今後愈交通頻繁なるに至らは、競爭場裏果して我の彼に一歩を輸するや、或は我の彼に凌駕するを得るや否やは、之を豫知するを得されとも兎に角黄人、白人心智上優劣の試驗は、本世紀に於て初まれり。

本邦人種

七〇。本邦の人種を分ちて二とあす。即一は日本の主民とあり、日本現在の開化社會を構成せし者、歴史上所謂天上人種の苗裔是あり。一は北海道土人にして、所謂埃乃、即蝦夷人種ありとす。古來亞細亞大陸より歸化せし黄人種、亦尠からさるとも、今は混

六九。邦人か白人の文明的事業に於ける作用にして？

七〇。本邦人種を分ちて何となすや？

蝦夷人ニ就テ

北海道土人酋長の像

して判別し難し。

七一。蝦夷人種は軀幹較々長大鬚髯密にして長く、頭髮卷縮せり其智力の如き、常に劣等なるを免れず。此人種は大古にありては、全國到處に部落をなし、其人口も大に蔓延したるか如くなれとも、天上人種遷移後は、次第に其驅逐又は風化を得たり。而して其古俗を現存する者は、悉く北海道に退きたり。其人口概〻五萬に過きすと云ふ。

七一。蝦夷人種の形容智力及び其沿革の畧如何？

第二章 邦制誌。

總論

國名ノ起元

七二 國名—日本と云ふ名稱の因て來る沿革を考ふるに、神武天皇都と大和の地橿原に定め玉ふや、依て以てヤマトの名我國の總名とあり、其字を倭、又大倭に作れり。其後天智天皇の御代、大倭の總稱を廢し、改めて大日本國とあせり。蓋日本の意は、聖德太子曾テ書を隋朝に通するや、日出之國とあり、之に基きし者の如し。

邦制區劃

七三 區劃—全國を大別して一畿八道とあし、更に又八十五國とあし、又國を分ちて八百五郡とあし、郡を三十七區、一萬二千三百五十三町、五萬九千二十一村とあす。而して別に之を一廳、三府、四十三縣とし、府縣を三十區役所、五百二十七郡役所に分轄す。

右ノ沿革

七四 古、全國と道、國、郡、村に分ちたる所以は、山川自然の限界に基き、政治上分轄の便宜に出てたり。即道に按察使、又は節度使等

七二 日本國名の起元及び其沿革に就て？

七三 邦制上の區劃とは何ぞ？

七四 古代全國を道國郡村に分ちたる所以及び其沿革を問？

道路

を置きて、之を統へ、國に國造、縣主又は守介を置き、郡に郡領、村里に首長を設け、各其限界内の政務を分轄せしにあり。然るに中古封建の代とあり、此制廢れ、大小侯伯之を分領したれは、郡國の分界は、全く政治上の關係を絶てり。王政維新後は、則土地の便宜廣狹を程し、府縣の分轄する所とあれは、則今は郡國の區別は、只地理學上の必要あるのみとあれり。

七五 道路—本邦道路の種類四あり、曰く國道、縣道、里道、村道、是あり。其國道あるものは、東京即中央政府所在地を起點とあし、之より全國各府縣廳（北海道廳）を連接する者、昔時の所謂街道あり、縣道は府縣廳所在地を起點とあし、其各郡區役所を連接する者あり、里道は郡區役所を起點とあし、各町村役場に達する者あり、以上を官道と稱す。村道は町村人民の往來を利する私道是あり。

七六 今國道通過の概畧を記すれは、東京より東海道沿岸を西

七五 道路の種類は？又其性質に就て？

七六

走し、京都に達する者、所謂東海道にして、全國第一の街道あり、東京より東山道を經て、京都に達する者、之を中仙道と稱し、東京より北方福島、仙臺及ひ盛岡等を經て、青森に達する者、之を陸羽街道と稱す。其他濱街道は東京、水戸、仙臺を聯ね、羽州街道は福島より岐れて、山形、秋田を經て、青森を聯ね、北國街道は中仙道より岐れ、長野を經て、新潟に達し、參宮街道は名古屋より伊勢大廟に達し、北陸街道は新潟より海岸を西走して、富山、金澤、福井等を經て、中仙道に聯り、京都に達す。

七七　東國より來る諸道は、京都に至りて一に集點をなし、是より又諸方に分派す、即京都より大坂に出て、山陽道の海岸に沿ね、馬關に達するを、中國街道と云ひ、京都より取鳥に出て、山陰道海岸を西して、山口に達するを山陰街道と云ひ、大坂より和歌山に達するを和歌山街道と云ふ。九州は門司海峽に於て、中國街道を

東國に於ける國道の分布を畧記せば可なり。

七七　京都以西の國道に就て？

九州の國道如何。

鉄道

受け、小倉に至り、岐れて一は福岡、佐賀を經て長崎に達し、一は熊本に出て九州西岸を南して、鹿兒島に終り、又一は九州東岸に沿ひ大分、宮崎を終て又鹿兒島に終る三街道あり。四國は德島より高知に至る沿海の街道と、丸龜及ひ松山を聯ぬる者と二あり。

以上は參謀本部測量地圖による。

七八　北海道は箱館を以て本道街道の起點とし、森より火山灣を經て室蘭に至り、夫より札幌に達する一線あるのみ。本道は人口稀疎なるの故を以て、道路の如きも未た其全通を得さるもの許多ありとす。

七九　鐵道―は明治五年創設以後、頓に其延長を增加したり、今二十三年五月の調査によれは、既設千百七十九哩餘に達し、而して方に其延長を增加しつゝあり。一哩八十四町四十五間。是か本幹とも稱すへきは、東京を中心とし、以西は京都、大坂を聯ぬ、馬關に達し、

四國に於ては？

七八　北海道の國道に就て？

七九　鉄道創設後の增設に就て？本幹及

總論

以北は仙臺及ひ青森に達せしむるにあり、然れとも未〻着工せさ處あり。其支線は所在各地本線より分岐する者にて、枚舉に遑あらされば、之を各國誌に詳記するを見るへし。

八〇。今や鐵路の布設全國蜘網の如くあらんとせり。若夫レ然らは、青森の北隅、鹿兒島の南端も、其近接するや比隣の觀あらん。若夫レ然らは諸地特產の物品を容易に交換して、物價を平準あらしむるを得ん。若夫レ然らは吾人か內地を旅行するに方り、從前の如く脚を擧けて峻陂を攀ち、衣を揭けて川流を涉るの苦境あく、座して日本の山水を眸裏に集るを得ん、豈快ならすや。

八一。電信。—電信線創架は明治二年にあり。爾後是亦非常の增進をあし、局三百七十五、線路六百一里、延長七千六百三十里に達せり（二十二年現在）。之を創設後二十一年間に平均すれは、毎年三百六十三里餘の延長を見る割合とあれり。未〻海外に之を架設するに至らすと雖、各外國の該線と相連接するを得たれは、五大洲中の出來事は瞬間に之を聞くを得へし。

ひ支幹の分布ヲ記セ。

八〇。鉄道布設後の便利公益に就て論辨せよ。

八一。電信の創架及ひ其局線路等に就て？

邦制誌

八二。傳話機。—傳話機取扱所は、明治二十二年十二月の現在は、三百七十五所、其線路は三百十四里、同延長は六百十五里あり。本機の如き創設日淺きを以て、其後來非常の增設を見るや疑あしとす。

八三。郵便。—該局の總數は三千七百十所、函二萬七千二百三十六個、線路一萬七千九百四十里、內外發着郵便物一億五千九百八十一萬八千百五十五個（二十二年現在）に達せりといふ。

八四。海港。—全國著名の海港は、即所謂武藏の橫濱、攝津の神戶、肥前の長崎、越後の新潟、渡島の箱館にして、之を外國互市五港と稱す。左に五所各一歲の內外船舶出入噸數を揭けて、其比較と示す。

八二。傳話機は如何？

八三。郵便の統計に就て？

八四。五港とは且其出入船數及ひ噸數等を記臆せは示せ。

橫濱—四百九十五艘　三百八十四萬三千十二噸。

總論

都會

神戸―七百六十三艘。百七萬百三十四噸。

長崎―四百八艘。五十萬二千二百六十三噸。

箱館―二十六艘。二萬四千三十五噸（以上二十年調。）

新潟―（未統計を得ず、然れども五港の最下に在り。）

八五。其他の良港好灣は駿河の清水港、伊勢の四日市港、和泉の堺港、備後の尾道港、長門の下關港、筑前の博多港、薩摩の鹿兒島港、越前の敦賀港、越中の伏木港、羽後の酒田港、陸奥の青森港、陸中の宮古港、陸前の荻濱港、膽振の室蘭港等著名あり。

八六。都會―本邦既に土地と人口との比、之を他邦に較ふれは、已に高點に達せり。之を以て人家櫛比、人口稠密、所謂都會、又は都邑と稱すへき處全國到處に散置するを看る。今其人口二萬以上を有する者を數ふれは、六十二、五萬以上の者十五、十萬以上の者六ありとす。其著名あるは即東京、京都及ひ大坂の三府、其他

八五　五港外の良港に就て著名なる者を記せ。

八六　本邦に於ける都會又は都邑市に就て論せよ。人口二萬五萬及ひ十萬以上

五港を初めとして、尾張の名古屋、加賀の金澤、安藝の廣島、陸前の仙臺、阿波の德島、越中の富山、紀伊の和歌山、肥後の熊本、筑前の福岡、薩摩の鹿兒島、和泉の堺、備前の岡山、駿河の靜岡、越前の福井、出雲の松江、陸中の盛岡等是あり。

八七。案するに京都及ひ五港の地を除かは、凡ゞ全國都會の地たる、其由來多くは德川氏封建後、三百年間に成立せし所の者ありとあす。故に其地の斯、現況をなせし者は、則覇府若くは諸侯の居城地にして、而して貿易運輸交通等自然的其物に在らすして、全く邦制即政治的其物に在り。否らざれは、東海道各驛市に於けるか如き沿道の市街地なり。今や鐵道電信及ひ航海の便開け、而して封建の政治的去れり。故に爾來都會の地とあるへき者は、則貿易運輸交通三者の利を占むるにあり。而して現都會の地或は後來其中心を變する者あるや、疑なし。

八七　都會地成立に就て？今後鐵道電信及ひ航海等の便開けば都會の地に如何なる影況を及ほすべきや論せよ。

總論

都會

神戸—七百六十三艘。　百七萬百三十四噸。
長崎—四百八艘。　五十萬二千二百六十三噸。
箱館—二十六艘。　二萬四千三十五噸（以上二十年調。）
新潟—（未統計を得ず。然れども五港の最下に在り。）

八五。其他の良港好灣は駿河の清水港、伊勢の四日市港、和泉の堺港、備後の尾道港、長門の下關港、筑前の博多港、薩摩の鹿兒島港、越前の敦賀港、越中の伏木港、羽後の酒田港、陸奥の青森港、陸中の宮古港、陸前の荻濱港、膽振の室蘭港等著名あり。

八六。都會。—本邦既に土地と人口との比、之を他邦に較ふれば、已に高點に達せり。之を以て人家櫛比、人口稠密、所謂都會、又は都邑と稱すべき處全國到處に散置するを看る。今其人口二萬以上を有する者を數ふれば、六十二、五萬以上の者十五、十萬以上の者六ありとす。其著名なるは即東京、京都及ひ大坂の三府、其他

八五。五港外の良港に就て著名なる者を記せ。

八六。本邦に於ける都會又は都邑は市に就て論せよ。

人口二萬五萬及ひ十萬以上を有する都會の數？

著名なる都會の名を列記せよ。

五港を初めとして、尾張の名古屋、加賀の金澤、安藝の廣島、陸前の仙臺、阿波の德島、越中の富山、紀伊の和歌山、肥後の熊本、筑前の福岡、薩摩の鹿兒島、和泉の堺、備前の岡山、駿河の靜岡、越前の福井、出雲の松江、陸中の盛岡等是あり。

八七。案するに京都及ひ五港の地を除かは、凡そ全國都會の地たる、其由來多くは德川氏封建後、三百年間に成立せし所の者あり、といふべし。故に其地の斯の現況をなせし者は、則覇府若くは諸侯の居城地にして、而して貿易運輸交通等自然的其物に在らずして、全く邦制即政治的其物に在り、否らざれは、東海道各驛市に於けるか如き沿道の市街地なり。今や鐵道電信及ひ航海の便開け、而して封建の政治的去れり。故に爾來都會の地とあるべき者は、則貿易運輸交通三者の利を占むるにあり。而して現都會の地或は後來其中心を變する者あるや、疑なし。

八七。都會地成立に就て？今後鐵道電信及ひ航海等の便開けば都會の地に如何なる影況を及ぼすべきや論せよ。

総論

政治

族制

八八。族制—法律上人衆を四種に分つ。曰く皇族、曰く華族、曰く士族、曰く平民是なり。昔時は皇族を宮方、華族を公家、及ひ諸侯、士族を武士、平民を農工及ひ商と稱し、而して四族各權力を異にせり。然れとも現時は、皇族を除き、他三族は公權上較々差違あきにあらされとも、私權上に於ては毫も別あるにあらす且結婚等に於ては、四族通して制限を置かす。

八九。政治—政體は古來君主國ありしが、今日は立憲君主國とあれり。蓋君主は人民之を天皇と奉稱し、且皇位は萬世一系皇族にあらさるよりは、他人敢テ凱覦するを得す、其大權は、神聖にして、毫も侵すへからす。又四民皇上に對する時は、皆一視して臣民と稱す。然れとも君主無限の權力を弄用し、暴威を恣にして、臣民を奴僕視するか如きとあし。況や明治二十二年二月、今上憲法を、親裁あらせ、之を布告し玉へば、則至尊と雖、其制定する所の矩

八八。四族とは？四族に於ける昔時現今の別を論せよ。

八九。政體は？君主の名稱及ひ君主と人民との關係に就て？

規を越え玉はさるをや。所謂立憲國是あり。

中央政府

九〇。政府を立法行政の二大部に分つ。其行政部最高の府を内閣と稱し、之を宮中に置き、各國務大臣參集して大政を議するの所となす。而して内閣總理大臣之を統ふ。其下に内務、外務、大藏、海軍、陸軍、文部、司法、農商務、遞信の九省を置き、各國務大臣一人ありて之を分擔す。

九一。立法部は元老院ありとす。元老院は國家の元老を以て其議官とあし、内閣より提出せし所の法案を議決し、或は否決するの權あり。然れとも我邦未立法行政の二權分立せされは、乃元老院に於て否決せし者と雖、内閣に於て強て決行するとあきにあらす。然れとも凡法令とありて布告する者は、必天皇の裁可を經さるへからすとあす。故に行政の大權は全く天皇の掌中に在りとす。

九〇。政府の二大部とは？行政部の最高府及ひ九省とは？

九一。立法部とは？元老院の組織に就て？元老院と内閣との關係を記せ。政行の大權は？

總論

九二、又樞密院なる者あり、是國家重大事件ある時は、天皇の御問に備ふる最高顧問府とす。然れとも時に或は立法府の一部とあり、憲章を議定するの特權あきにあらす。其顧問官は又國老を以て之とあす。

九三、以上閣一、院二、省九、之を中央政府と總稱す。九省の外に宮內省あり、之を合せて十省とあす。然れとも宮內省は全く內閣に屬せす、獨立して皇室內外の事務を管理する所とあす。

地方分治

九四、地方の分治は所謂三府一廳四十三縣にして、府縣に知事、廳に長官各一人を置き、管下を統轄す。府縣の下又之を數區に分ち、郡區役所を置き、郡の下、又町村を分ち、町村役場を設け、以て人民直接の吏務を扱ふ郡區以下各長一人を置く。

九五、裁判權は民事刑事を論せす、皆司法大臣の直轄にして、其官吏は專任とあし、他官之に干與するを得さらしむ。裁判所の

九二、樞密院の組織及び權限に就て？

九三、中央政府の組織及び宮內省は？

九四、地方の分治は？

九五、裁判權及び裁

種類は治安裁判所百九十四始審裁判所四十六支廳五十三控訴院七大審院一高等法院是あり。高等法院は皇室及國事に關する重罪を判決する所にして、常には開かす。

九六、我皇上は明治二十二年二月十一日、發布の憲法に基き玉ひ、貴族及ひ衆議二院を設け、本年十一月、初めて全國の代議士を招集し、以て立憲君民政治の政體を實行せられんと欲す實に本邦未曾有の一大改革東洋列邦の先覺ありとす。其貴族院議員は皇族華族及ひ國家に大功ある者、博學多識ある者、及ひ民間の多額納稅者を以て組織し、衆議員は直稅十五圓以上を納むる、各府縣撰出の士民を以て之に充つ。

兵制　陸軍

九七、兵制。—海陸二軍に分つ。先つ陸軍に就て其概畧を記すれは、全國皆兵の主義にして、壯丁滿十八年以上、二十年以下の者を撿し、其不合格者と猶豫者とを除きて、之を徵集す。徵集人員

判所の種類？

九六、貴族院及び衆議院創開に就て？其各議員の組織は如何？

九七、兵制の二大別は？陸軍徵兵法は如何？

總論

海軍

又現役、補充、豫備の三兵に分ち、現役兵は直に所管の師團に編入するあり。現今兵員二十四萬五千三百十一人あり。

九八。兵馬の大權は元より天皇の掌中にありと雖、其陸兵の軍務は、總へて陸軍省直轄にして、他の文官之に干與せず。乃全國を六師團、十二旅團、及ひ四十八大隊區、七警備隊區とおし、以て各區防衛徴兵の事を司らしむ。之を軍管と稱す。

九九。海軍も亦徴兵法にして、其制陸軍と等し。而して之を海軍鎮守府に支配す。現今軍艦總數は三十艘、四萬八千八百二十噸、五萬二千四百八十一馬力、乘組人員一萬二千二百五十二人とす。

一〇〇。陸軍管區は左表の如し

陸

師團	旅團	大隊區	警備隊區
第一	第一 東京	麻布	小笠原島
		横濱	
		高崎	
		長野	
第三	第五 名古屋	名古屋	靜岡
		豐橋	

現兵員の總數を問ふ？

九八。陸軍の所管は何れぞ？

軍管とは何ぞ？

九九。海軍制は？

船艦兵員等を記せ。

一〇〇。陸軍管區の表を製せよ。

軍管區表

東京	第二 佐倉	水戸	佐倉
		本郷	宇都宮
第二 仙臺	第三 仙臺	福島	仙臺
		新發田	柏崎
		佐渡	
仙臺	第四 青森	盛岡	青森
		秋田	山形
名古屋	第六 金澤	富山	金澤
		岐阜	福井
第四 大坂	第七 大坂	和歌山	大坂
		大津	京都
大坂	第八 姫路	岡山	姫路
		神戸	宮津
第五 廣島	第九 廣島	廣島	廣島
		尾道	山口
		山口	松山
第六 熊本	第十一 熊本	熊本	熊本
		宮崎	大島
		八代	沖繩
		鹿兒島	
第十二 小倉	小倉	佐賀	福岡
		福岡	五島
		長崎	對馬
第十 松山	丸亀	德島	松山
		松山	高知

一〇一。海軍管區は全國の海岸及ひ海面を區劃し、之を五海軍區とおし、各一鎮守府を置く。乃鎮守府所在の港を軍港とし、鎮守府に屬して常に守衛を置く處を要港とおす。第一海軍區は横須賀鎮守府、第二海軍區は吳鎮守府、第三海軍區は佐世保鎮守府、第四海軍區は舞鶴鎮守府、第五海軍區は室蘭鎮守府是なり。

一〇一。海軍管區は？

總論

一〇二。學制。—男女滿六年以上十四年以下を學齡とおし、必ず小學校に於て普通初等の修學をおすべきの制あり（或特別の事故ある者は此限にあらず。）學制は文部省の管督にして、全國を一萬九百三十三學區に分ち、大小公私の學校貳萬七千九百二十三、三百五萬五百三十八人の生徒あり（二十一年。）學校の種類は小學校、中學校、高等中學校、帝國大學校、高等師範學校、各種專門學校、高等女學校及び學習院、華族女學校等あり。

一〇三。帝國大學及び高等師範學校は東京にありて、全國中一所、高等中學校は第一東京、第二仙臺、第三大坂、第四金澤、第五熊本に在り、皆文部省直轄とおす（別に山口、鹿兒島に特立高等中學校あり。）尋常師範及び中學校は、各府縣に一所、小學校は町村之を設立せしむ。

社寺

一〇四。社寺。—神社總數は十九萬三千三百三十一（二十一年）にして之を神宮、官幣大中及び小社、別格官幣社、國幣大中及び小社、府縣社、鄉村社、無格社の十一種に分つ。寺院總數は七萬千九百七十三（上）にして、之を天台、眞言、淨土、臨濟、曹洞、黃檗、眞、日蓮、時、念佛、法相、華嚴の十二宗に分つ。

一〇二。學制及び大小學校其生徒の統計に就て？學校の種類は？

一〇三。大學中學及び師範學校小學校に就て？

一〇四。寺社の各總數及び社格宗派に就て？

財政

一〇五。財政。—明治二十三年、政府歲入の總額八千四百五十七萬九千四百四十三圓外に地方稅收入千六百八十八萬九十七圓（廿二年調）及び區町村費收入千二百七十四萬二千六百二圓（二十年調）を合計すれは、一億一千四百二十萬二千百四十二圓とす。今試に之を人口三千九百六十萬七千二百三十四に平賦すれは、則人民一人の負擔、一歲二圓八十三錢餘に當れりとす。

貨幣及び紙幣

一〇六。政府貨幣發行の總額は一億六千百十六萬圓（明治三年十一月創業より廿三年十一月に至る）にして、而して最近一年間の鑄造額は千百六十萬圓とす。又流通紙幣の總額も、二十二年の調査によれは、一億三千六百五十三萬圓なりとす。

一〇五。政府の歲入及び地方町村費は如何？公費一人の負擔に就て？

一〇六。貨幣及び紙幣の額？

一〇七。國債は本年の調査に基けば、總額三億八十三萬圓にして、其内内國債に係る者、二億九千五百萬圓、外國債五百八十三萬圓となす。

一〇八。外交。—安政元年三月三日即二千五百十六年、北米合衆國と始めて締約せしより、今日に至るまで、漸次外交及び互市を擴張し、已に二十一國の多きに達せり。則其國名は、曰く合衆國、曰く大不列顛、曰く佛蘭西、曰く露西亞、曰く和蘭、曰く葡萄牙、曰く獨逸、曰く瑞西、曰く白耳義、曰く以太利、曰く丁抹、曰く瑞典、曰く諾威、曰く西班牙、曰く澳地利及び洪嚩利、曰く布哇、曰く清、曰く秘露、曰く朝鮮、曰く暹羅、曰く墨西哥是なり。

一〇九。右諸外國に於ける貿易の盛大なるものは、第一合衆國、第二支那、第三英吉利、第四佛蘭西、獨逸及び朝鮮等なりとす。而して本邦將來屬目すべきは、其隣邦交通の便あると、國力の富大

一〇七。國債は？

一〇八。外交創開後の盟約國に就て？

一〇九。貿易盛大なる邦國は？

あるとに在る、支那及び合衆國の二邦あるへし。實に此二邦は、商業上邦人の忽視すへからざる者ありとす。

輸出入額 一一〇。一歲貿易の總額は、最近三年間の平均、一億二千百三十四萬五千七百十六圓二十、二十一、二十二年の平均にして其輸出額は六千二百七十二萬四千六百三十二圓、輸入額は五千八百六十二萬一千八十四圓。全上而して輸出の輸入に越すと、四百十萬三千五百四十八圓ありとす。左に輸出入品の主要ある者と表出すれは、即

輸出品
- 蠶絲—二千九百二十五萬五十三圓
- 食用品—千二百二十萬千百五十八圓
- 雜貨—千百七十萬九千六百七十七圓
- 製茶—六百十五萬六千七百二十九圓

輸入品
- 布帛材料—三千八十三萬千九百九十六圓
- 械器諸類—六百五十一萬四千百三十九圓
- 砂糖—六百二十九萬二千四百九十三圓

二十二年度の調査

後來屬目すべき國とは？

一一〇。一歲の貿易額及び其輸出入に就て？

外交の結論

一一一、要するに我輸出の諸品は、概して天産及ひ粗製品に多く、輸入の諸品は精製品に多しとなす。乃我より致せし粗製品は、彼か精製を經て、再ヒ我内地の市場に上る者あり。嗚呼本邦は天産の饒富なる割合に人力之に伴はざるを見るなり。更に換言すれは邦人の智と勞とは、未以て本邦天祐に對ふる能はざるなり。吾人其務めさるへけんや。

金屬及器—六百十七萬三千六百七十五圓
油及蠟類—四百八十一萬四千五百八十六圓

總論　第一編　第三章。

第三章—民業誌。

一一二、凡民業は千種萬樣、之を枚舉形容すへからされとも、然れとも其大別を記すれば、曰く農業、曰く工業、曰く商業、曰く漁業、曰く鑛業、曰く航業、曰く陸運業等是なり。而して民業なる者は、

一一一、輸出入品の性質を論して本邦人の注目すへきを記せ？

一一二、民業の種別は？

實に社會存立の基本、即國家の大富源にして、吾人の最講究せさるへからさる者なりとす。然れとも其利害、及ひ得失等を講するは、固是理濟學の預る所にして、本書即地理學の論辨すへき者にあらず。唯地理學に於ては過去若くは現在の形勢を記するに止るのみ。

民業の要用なると、及ひ之を講究する學問は何ぞや？

農業

一一三、農業—本邦古來、農を以て國本となし、他諸業の如きは一種の間業の如く見なせり。故に昔時は課稅の如きも、亦農家に限れりとす（但政府の撿束すへき類の如きは課稅したりき。）而して農産物中、米は邦民の常食にして、需用最大なれば、則稻作は最利益ある最主要なる者とおれり。

一一三、昔時農業及ひ其他業の關係に就て？

農産物の主要なる者？

一一四、去れは全國を通して、少しく水利を得るの地は、概して水田おらさるはおし。其乾田とあるへき地は、水利の不便已むを得さるに出てたるのみ。今全國民有總反別を記すれば、千三百

一一四、水田及ひ陸田に就て？

八十萬五千百五十四町歩にして、内水田二百七十七萬六千五百六十四町歩、陸田即乾田二百二十七萬三千二百二十二町歩、其他は山林原野居宅鹽田池沼等の地なりとす。

總論

米産地

一一五　全國著名なる米産地は、關東以北に於ては武藏、相摸、下總、常陸、及ひ陸前、陸中の地方、北陸道に於ては越前、加賀、越中、越後諸國、關西に於ては尾張、美濃及ひ伊勢、中國に於ては播磨、九州に於ては肥後、四國に於ては土佐等是なり。就中、肥後、武藏及ひ美濃の如きは、最良品として其名著し。

各種ノ農業

一一六　稻作に次て主要なる者は、陸田産、即大小麥、大小豆、甘藷、蔬菜の類にして、而して其一歳の所産亦莫大なりとす。其他粟、黍、稗、蕎麥、蜀黍等の雜穀、及ひ甘蔗、煙艸、油菜、楮、桑、茶、麻、棉、席草の類あり。以上は全國各地到處産せさるはなしと雖、就中麻の北海道及ひ下野に於ける、甘蔗の薩摩及ひ土佐に於ける、煙艸の薩摩、

民有地各種の反別は？

一一五　米産地を列記せよ。

一一六　稻作に次ける陸田の産物及ひ其特産物に就て？

肥後、相摸及ひ常陸に於ける、藍の阿波に於ける、棉の畿内中國に於ける、席草の琉球及ひ備後に於ける、皆特産の名あり。

養蠶

一一七　桑田は外國貿易創開後、蠶絲の輸出歳々增加し、輸出品の第一品を占むるに至れば、則隨て之が增加を來したり。而して今や方に蠶業は、稻作を壓倒し、日本の田園は過半桑田に化せんと欲するの勢ありとす。

一一七　桑田及ひ蠶業に就て？

一一八　去れは各地に於ても、新に飼蠶の業に着手する者多きを見ると雖、其特に産地として著名なるは、信濃、上野、岩代及ひ武藏秩父郡となす。而して是等の地方は、生絲となして横濱に輸するの餘は、各種の織物となす。其收額多き地は一歳七八百萬圓、少きも百萬圓を下らすといふ。

一一八　蠶業地の著名なるは何處ぞ？

製茶

一一九　蠶業に次て輸出上主要なる農産物となりしは、製茶なり。而して其著名なる産地は、山城の宇治、近江の設樂、駿河、遠江

一一九　茶の物

總論

牧畜

の地方、及ひ武藏の狹山となす。就中宇治は品質純良、本邦第一なれとも、其目的は專ら輸出にあらす其他の產は品質其より下ると雖、其目的は專ら輸出にありとす。

一二〇、牧畜は從來肉食盛ならさるの故を以て、使用の牛馬に止り、家禽の如きも亦農家か私用に供するに過きす。然るに近來肉食流行の點より、牧畜も亦大に其面目を改め、乳牛、肉牛及ひ羊豚飼育等に從事する者日を逐て增加せり。

一二一、從來牛馬產地の著名なる者は、東海道にては安房、山陰道にては但馬、九州にては肥前五島、東山道にては陸中地方の牛に於ける、又東山道にては陸中、東海道にては下總、九州にては薩摩地方の馬に於ける等是なり。又沖繩諸島に於ては、養豚盛なりとす。

一二二、左に農產物主要品の產額を表出して、其概形を知らしたる及ひ其產地は如何？

一二〇、牧畜の形勢は如何？

一二一、牛馬產地は？沖繩の牧畜を記せ。

ひ。

農產物表

米	三千八百六十二萬五千百四十六石	最近三年間平均數
大麥	七百二萬四千三百四十石	
裸麥	五百三十六萬三百六十六石	
小麥	三百十二萬九百六十一石	
繭	百十七萬二千百八十三石	
蠶絲	九百九十六萬五千九百九十五貫	
蠶紙	二百六萬三百六十枚	
製糖	千九十一萬八千四百八貫	
製茶	七百四萬八千七百八十九貫	
牛	百一萬八千六百五十一頭	現在高
馬	百五十三萬五千八百三十六頭	

一二三、本邦農業の概

一二三、要するに本邦農業の概形を論すれは、即小農的組織にして、歐米諸州に於けるか如き、大農的組織にあらされば、則其か

田園の區劃も、一町歩を出る者稀に、其か器械も牛馬人力に適する鋤鍬鎌鋸の單一なる者に止り、歐米の如き大仕掛の農具適せず、故に耕作運搬等は浪費なきにあらざるなり。然れとも本邦に在りては、獨北海道を除けば、未墾の曠野少く、人口稠密、隨て小農に適して、大農に適せず、故に目下の急務は、之に適する農具改良に在りとす。

一二四　又其肥料は人糞、魚滓を最として、其他は雜艸枯艸の類のみ、未だ化學的肥料の實用普からざるなり。凡、肥料は農具の如く、大農小農に關せされい、宜く歐米に於けるか如く、學術的改良を施すへきなり、決して天然の腴饒をのみ是賴むへからす。我政府は夙に此等の點に着目せる所あり、爲に農科大學、及ひ農產物競進會等の設けありて、之か奬勵と怠らさるなり。

一二五　工業。—邦人の工藝に於ける、東洋諸國に冠絕する者の

形に就て將來の改良を論究せよ。

一二四　肥料の種類は？肥料改良に就て？

一二五　政府の奬勵は如何？

民業誌

織物

如し。就中織物、陶器、漆器、金屬及ひ牙角彫刻等の美術品に係る者は、常に歐人も賞嘆する所あり。然れとも實利實用品の製造に至りては、從來規模の大なる者なく、隨て廣大なる器械なく、言は個人の、手細工たるに過きさりき。近來は大に其面目を改むる者ありて、即造船、製紙、織帛等は西洋の蒸氣器を裝置し、一工場數百の工人を役する者あり。

一二六　各種織物に於ける全國著名の者は、山城西陣織、筑前の博多織、豐前の小倉織、筑後の久留絕、近江の濱縮緬、越前の奉書紬、越後の縮及ひ上布、大和、和泉の綿布、甲斐の郡內絹、武藏の秩父絹、及ひ太織、下總の結城紬、上野の桐生及ひ下野の足利織、陸前の仙臺平、陸中の南部織、羽後の秋田織等是なり。

工業上に於ける概勢に就て論せよ。

一二六　織物の著名なる者は？

陶器

一二七　陶器に於ては、肥前の有田及ひ伊万里燒、薩摩の薩摩燒、山城の清水燒、尾張の七寶燒、瀨戸及ひ常滑燒、加賀の九谷燒、岩代

一二七　陶器の產地に

總論

の會津燒等あり。而して各地其品質の純雜、及ひ巧拙はありと雖、要するに全國に鳴れる者なりとす。就中伊万里、九谷、薩摩及ひ清水燒の如きは、洋人の甚尊重する所となる。

漆器

一二八、漆器に於ては其最良なる者は、東京及ひ西京に出て、其廉價なる者は、岩代の會津塗、羽後の能代及ひ秋田塗、能登の輪島塗、越前及ひ若狹塗、駿河の靜岡塗、大和の根來塗、紀伊の和歌山塗等は共に著名なりとす。漆器亦各種にして、各地其技を異にす。其蒔繪塗の若き、東京京都二地の恣にする所にして、而して海外絶て斯種の製品を觀さる所なりとす。

清酒及ヒ醬油

一二九、又右に次て製出の巨大なるは、清酒、及ひ醬油釀造なりとす。清酒は各地多少の釀造所之なきはなしと雖、其最佳良にして、所產の巨額なるは、攝津の池田及ひ伊丹なりとす。即每歲の造額凡二十八萬石前後に達せり。醬油の著產地は下總の流山

一二八、漆器に著名なる產地を記せよ。

一二九、清酒及ひ醬油の釀造地は？

商業

及ひ野田等にして、是亦造額大なりとす。

一三〇、左に各酒及ひ醬油造釀の總額を記すれば、則最近三年間の平均は（十八、十九、二十年の平均）

酒—三百二十四萬九千四百八十九石。
醬油—百二十萬千八百三十石。

一三一、商業—今試に本邦の商況を概言せんか、則皆內國の買賣のみにして、未曾て海外の旅商を企てし者あるを聞かす。又遠大なる大取引に熟せす、各自目前の小取引なる者のみ。德川封建の代以前に在りては、我商民の海外に航して、盛に外國貿易を營みし者なきにあらさしりか、其一度外遊の國禁ありしより、商勢自萎非振はす、以て現今の勢を馴致せり。嘆すへし。

一三二、內地に於ける商品の賣買最大なる者は米にして、其一歲の價六千萬、或は五千萬圓に降らす。之に次は諸織物にして、

一三〇、酒類及ひ醬油造石高は如何？

一三一、本邦商勢の概況は如何其然らしめたる所以を論せよ？

一三二、巨額なる商品

是亦二千萬圓前後なるへく、清酒は三千萬圓以上なりとす。其他雜穀、雜貨、諸鑛物等は、未〻其概算を得されば、其賣買額如何を知らされとも、蓋〻此等の總計は前三者の合計の右に出るや疑なし。

一三三、又內地商業の頻繁なる地は、第一大坂にして、之に亞くは東京なり。京都は商業盛ならさるにあらされとも、三府に在りては寧製產地なり。其他五港は外國貿易の壟斷地なれば、其商勢の盛なるは論を待たす。而して橫濱第一に、神戶之に次く。又地方にありては、陸羽に於ては青森仙臺、北陸に於ては金澤富山、關東に於ては水戶宇都宮高崎、關西に於ては名古屋、畿內に於ては堺、中國に於ては岡山廣島、九州に於ては博多熊本等は何れも、其地方商賣の中心地なり。

一三四、又銀行及ひ諸會社等は、商業の如何を代表する者なれば、左に其統計を表出す（十九、二十、二十一年平均。）

一三三、內地商業の盛なる地方に就て？

一三四、銀行及ひ諸會社の統計は如何

銀行（店數—千八十八。資金—九千七十二萬八百七十圓。）

會社（社數—千六百五十七。資金—五千六百三十三萬四千二十八圓。）

人口一人ニ付二圓三十二錢余。

但平均一社資本三万六千二百六十九圓。

漁業

一三五、漁業—凡〻世の富源を分ちて二となす。即一は陸地に生する者と、一は蒼海に生する者と是なり。而して漁業は蒼海の利を收拾するに在れば、則其巨利あるは論を待たず。況や陸地の產は限りあれとも、海產に於ては其無盡藏なるをや。是經濟上、斯業は吾人の忽視すへからさる者なりとす。

一三六、本邦四圍皆海洋なり。而も其所產の魚鼈藻介、其饒多なること、他邦多く其比を見ず。之を以て、古來漁業の發達ありて、而して之に隨事する者衆く、邊海の民は概して農業と兼ねさる

一三五、漁業の必用なる所以を論せよ。

一三六、本邦漁業の有樣は如何

はなく、其收獲も亦甚巨大なり。

一三七. 然れども現今之を歐米諸國の漁業に比すれは、漁舟の脆弱、魚具の粗笨なるを免れず。故に近海淺瀨、或は河湖の漁獵に過きすして、而して遠洋深海を探くる者あるなし。是を以て魚群陸地に近つけは、漁人は之を喜ひ、來らされは其不漁を嘆するなり。

一三八. 今左に本邦と諸外國とに於ける、漁夫及ひ收獲の比較表を示して、其盛微如何を知らしむ。

漁業表

國名	一年の收獲……圓	漁夫の人數	一人平均の捕獲……圓	……錢
日本	一八、〇〇〇、〇〇〇	八六〇、一八九	二一	……
佛	二一、四四五、三八四	一五三、一〇〇	一四〇	……
那威	一二、五〇〇、〇〇〇	五八、〇〇〇	二一五	三一
北米	四五、〇〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	四三五	……
英	五五、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一一〇	……

本表ハ元老院議官村田保君ノ水產擴張意見書ニヨル。即明治二十年ノ調査ナリトス。

又收獲と漁舟との比は、左の如くなりと云ふ。

日本—十九萬艘.

佛……—四萬艘.

那威—一千五百艘.

一三九. 前表に於ては、其收獲を金額に折算せし故、其國に於て魚價に高卑あるへけれは、乃未〻以て本邦の收獲と、他國との比、眞に斯の如くなるや否やを直斷し能はされとも、然れ共次表に至りては本邦漁舟の小形脆弱なるの致す所なるは蔽ふへからさるなり。是即遠洋漁業の企なき所以なりとす。要するに是亦歐米諸國の漁具漁業を摸式となし、以て我に適する改良を試む

何?

一三七. 本邦と外國との漁業に就て?

一三八. 本邦と諸外國とに於ける漁夫及ひ收獲の比は如何?

漁舟と收獲との比例は?

一三九. 前表に就て本邦の漁業を論評せよ。

るは、又目下急務の一なるべし。

一四〇。本邦に於ける漁獲地の重なる者と記すれば、即北海道近海の鯨、臘虎、鱈、其川河の鮭、鯡漁、上總九十九里濱の鰯漁、伊豆沖の鰹漁、瀬戸内海の鯛漁、紀伊土佐及ひ長門の鯨漁、北陸諸國の鯛及ひ烏賊漁に於ける等著し。又其製品に於ては、薩摩及ひ土佐の鰹節、北海道の魚粕、肥前及ひ上總の乾鰒等著名なり。其他海濱に於ける各地は皆多少の漁利を見さるはなしとす。

一四一。左に水産物一歳の統計を掲けて、其梗概を知らしむ。但生魚としての總數は、日々の消費に係りて、其額巨大なるへけれとも、今其統計を得されば之を缺く。

乾鰒	五百八十九萬五千三百七十石。	十九、二十、二十一年の平均。
搾滓	二千三百九十四萬四百五十九貫。	
魚油	六十八萬九百二十二貫。	
鹽物	七百三十萬六千六百九十三貫。	二十年度の現在。
乾物	千八萬八千二百八十六貫。	

一四〇。漁獲地の著名なる者を列記せよ。

鑛業

一四二。鑛業。—本邦古來、金銀銅其他の諸鑛に富めり。即佐渡の金鑛に於ける、但馬石見の銀鑛に於ける、世人の熟知する所なり。而して近來は採掘の技術大に進歩せしかは、則到る處諸鑛の所産を見さるはなく、就中陸羽地方の金銀坑、及ひ下野足尾銅山の如き、頓に其名を著し、且採掘も巨大なりとす。

一四三。近來又石炭の需用日を逐て盛なれは、則其採掘及ひ産地の發見增加せし事著大なりとす。即其著産地は肥前の高島炭坑、筑後の三池炭坑、及ひ石狩幌内炭坑等是なりとす。其他全國中富饒の炭坑枚擧すへからす。其越後遠江の若きに於ては、石油を出す地あり。

一四四。左に重要なる諸鑛の産額を表出す。二十一年の現在。

金	七十一貫十七匁。
銀	千七百十七貫六百四十九匁。

一四二。金銀銅諸鑛の著産地は？

一四三。石炭の産地は？

官行
- 銅…一五千二百四十六貫八百八十匁。
- 鉄…一八十五萬三千六百三十七貫。
- 石炭一一億二千六百七十九萬九千九百七十七貫。

民行
- 金…一九十六貫六百二十六匁。
- 銀…一九千七百二十二貫二百三十六匁。
- 銅…一三百五十七萬九千八百五十八貫九百七十匁。
- 鐵…一四百萬七千百八十八貫。
- 石炭一四億六百四十六萬五千七百八十九貫。
- 石油一三萬九千六百五石。
- 硫黃一二萬二千五十二石。

獵業

一四五。獵業—本業に從事するの民は、山間の農夫等、耕作の餘暇若くは野獸の田園を荒害するを防くに止り、之を以て正業となす者あるとあし。且人口の增大あるが爲め、山林原野の開拓日を逐て張り、野獸野鳥の數隨て減せり、獨北海道に於ては土人

一四五 獵業の有樣は如何？

之を以て業とあす者ありとす。

一四六。其獸類の獵獲多き者は、猪、鹿、熊、羆、猿猴、狐、狸、兎、羚羊等にして、而して或は其肉を食ひ、或は其皮を主とあす。就中其鹿皮は之を革して種々の物品を製して甚佳なり。鳥類に於ては鴈、鴨の銃獵最多くして、之に亞くは雉子、山鷄及ひ其他各種の小鳥類あり。

航業

一四七。航業—本邦の地勢に於て、航業の必要あるは、識者を待て之を知るへきにあらす。而して是か充分ある擴張をあさは、則其利決して小少にあらさるあり。然るに從來斯業の有樣を看るに、是亦微々として振はす。其船舶の如きも、小形薄弱、僅に濱海航行に堪うるのみなり。其航行固より遲緩、風を候ふて僅に開帆するにあり。例へは北海より西海に航するや、各處の港灣に依泊して、幾十日を費すを知らさりき。其然る有樣に陷りしも、亦

一四六 獵獲多き野獸及ひ鳥類に就て？

一四七 航海の必要なる所以及ひ本邦從來の形勢に就て？

昔時封建の餘弊にてありき。

一四八。去れは從來內國航運の有樣を論すれは、則西海の貨物を東國に輸せんと欲せば、其產地の港灣を發船して、直に需用地に達するを得ず、乃一度之を大坂に委するを常とす。又北海道の貨物を內地に輸するや、東海の難航なるを以て、日本海沿岸を航し、馬關を經て大坂に致せり。大坂は實に海運の中樞要約の地となり、東國の貨物は之を西海に繼き立て、西海の貨物は之を東海に分配し、以て非常なる繁盛を來せり。

一四九。近來は大に其面目を改め、大小漁船及ひ西洋形帆船漸〻行はれ、運輸交通復昔日の觀に似す。然れとも海外航行の權は常に外人に歸して未タ曾て驥足を伸すを得す、只僅に隣邦支那朝鮮及ひ魯領に向て、定期航通を開けるあるのみ。

一五〇。現今海運の業を盛に營む者は、即日本郵船會社あり。

一四八。從來內國航運の有樣は如何？

一四九。近來海運業の面目は？

一五〇。

同社は兼て政府の貨物及ひ郵便物を搬運するの故を以て、其組織半官半民あり。而して其線路は十八、大小漁船五十余艘を有せり。日本郵船會社に次く者は、大坂商船會社にして、線路十五、漁船大小又五十余艘を有し、專〻瀨戸內海を航運せり。其他各地多少の航海者ありと雖、記するに足らす。

一五一。左に大小漁船、及ひ帆船の總數を表示す（廿一年の調査）

西洋形	漁船	五百二十四艘	八萬千六十六噸。
	帆船	八百九十六艘	六萬三千百廿八噸。
日本形	大船	一萬九千三百四十二艘。	
	其他	六十萬二千六百三十九艘（但漁舟遊舟及ひ各種の小船を合算す。）	

日本郵船會社及ひ大坂商船會社に就て？

一五一。西洋及ひ日本形船舶の統計を記せ。

陸運業

一五二。陸運業—本業は鐵道漁車の外、人力及ひ牛馬の力と以て物貨乘客を搬運するに在り。近來道路の修開、橋梁の改架等、大に其面目を改め、隨て該業の頻繁迅速を來し、從來人力馬背を

一五二。陸運業は如何？

以て辛く運送をおせし者、今は牛馬諸車の絡繹たるを觀る處少しとせず。左表に據りて其一般を知るへし（二十一年調査。）

人力車―十八萬二千四十九輛。　馬車―二萬千八百七十一輛。
牛車―八千四百七十二輛。　荷車―六十四萬七百五輛。

總論

風俗誌

第四章―風俗誌。

總說

一五三。總說―本邦古來特立せる文明的元素あり。故に亞細亞大陸、即朝鮮支那又は印度より傳來せし事物は、大に我古風と親和し、以て一種の言語、衣服、飲食、禮節、宗教、政體、人情とあり、而して東洋特異の現社會即我風俗習慣を造成したり。然り而して今や又歐米の風化熾行の傾向あり將來の著變想ふへきあり。

言語

一五四。言語―固有の邦語は名詞先立ち、動詞之に後するを常調とあし、而して其音は母韻多しとす故に言語自優長あり。然

一五三。本邦獨特の風俗を造成したる所以及ひ其將來に就て？

一五四。固有の邦語に就て？他國雜入語は如何？蝦夷語に就て？

るに漢字傳來後既に千數百年を經過せしかは、則漢語の日常語に雜はれる者多し又佛教熾あれは、則間々梵語あきにあらす。蝦夷語は又一種特別ありとす。歐米諸國と交通以來、學術及ひ商業等の關係より、邦人歐語を學ふ者衆し。而して今其最熾あ

文字

る者は、英語にして、之に亞くは獨、佛、魯、以等なり。

一五五。文字―は古代其發達おかりしかは、則固有と稱すへき者あし、而して普通の文字は、漢字折製より來りし片假名及ひ平假名の兩音字と、漢字是あり。又梵字あきにあらされとも、然れとも實用にあらす。近來又羅馬字行はる。

衣服

一五六。衣服―昔時封建の代に在りては、士と庶民とは服裝上較々其別を存し、即士は兩刀を横へ、袴を着くるを常とあせしが、現今は此別を去れり。而して其通常一般の衣服を記すれは、上衣と下衣を分たす、濶袖にして廣裾、袴は胸前に於て深く重ね、帶

一五五。文字は如何？

一五六。昔時封建に於ける服制？通常一般の服

總論

を以て纏ふ。特に婦人は大帶を用ふ。二百年以來の事とす。其他衣服の種類には上衣に羽織（ハフリの誤）半纏、被布、合羽、下衣に股引、脚袢、足袋等あり。

其材料

一五七。其材料には絹布、綿布、毛布、麻布等あり。綿布は一般の常服に用ゐ、絹布は晴裝とおし、麻布は夏服とおし、毛布は稀に服する者あり。就中絹布の若き、錦繡綾縮皆ありて、精好美麗愛すへき者尠しとおさす。

一五八。又出るには、頭に頭巾帽子及ひ各種の傘笠を載せ、以て日光を避け、足には皮履、木履、草履を穿つ。之を要するに本邦服裝の制、其遠源は支那古代の者より、斯く脫化變遷し來りたる者多しとおす。

一五九。近來歐洲の服裝、即羊袖、羊袴、絨帽、皮靴の類熾行するの みならす、官服の制洋風に一定し、陸海軍服亦然りとなす。去れ

製に就て及び衣服の種類を概記せよ。

一五七。衣服の材料に就て？

一五八。被り物及ひ穿つ物は？

服制の淵源は？

一五九。近來衣服頭髮の變遷は如何？

風俗誌

頭髮

は是より絨布漸く其需用を增し、服裝隨て著變あるへし。

一六〇。頭髮—中古以來男子は前髮を剃去して之を椎髻となせし者、近來は歐風に化し、概ね剪髮となれり。然れとも猶僻隅の民は舊樣を存せり。婦女結髮の樣は種々あり、一言以て形容し難く、各地亦其赴を異にす。而して之を飾るに簪櫛香油を以てす。又婦女の異風として見るへきは、眉毛を剃去し及ひ涅齒是なり。

一六一。沖繩島の風俗は其服裝內地と大同小異なれとも、頭髮は男女共に結髮にして兩簪を以て之を留む。北海道土人は風俗甚野卑、衣服は羊袖其材料は魚皮、獸皮、アッシ（木皮の纖維を以て織る）等なり。頭髮は被髮にして、男子は額上少許を剃去す。又其女子は耳環を穿つ者あり。男女ともに跣足を常とす。

黥身の俗

一六二。黥身—自ら其身に黥するか如き野風は、政府之を禁すれとも、沖繩及ひ北海道土人の婦女は、頑として悟らさる者の如し。

一六〇。男子頭髮の變化如何？

婦女の結髮及ひ其異風は？

一六一。沖繩及ひ北海道土人の衣服頭髮等に就て？

一六二。黥身の風俗は如何？

北海道土人の風俗

沖繩人の風俗

即北海道土人の婦女は、口の周圍及ひ手背手腕に文し、沖繩人の婦女亦手背に種々の紋樣を黥するを常とす。又內地都會に住する役夫等は當時猶竊に軀體を文彩して同互相誇示するの風間々あり、嘆すへし。

一六三、飲食—食事は一日三回とし、其食物は五穀蔬菜を常とし、魚肉獸肉も亦盛に行はる。就中本邦地勢環海の故を以て魚肉を嗜む者許多あり。而して諸穀中米は常食の主要品なれは、都人或は中等以上の生活者は、米食せさる者なし。今食物調理の種類を概記すれは、飯、粥、麵、餅、汁、漬物、膾、製菓子等是あり。

一六四、人民常食に就て面白き統計を得たれは、左に出して讀者の參考とす。

本邦人常食の重なる者、米麥之に亞くは雜穀、及ひ薯菜類とし、此他に蔬菜、海草、木實等を食する者あり。此品種を四個に大別して、其割合を見るに、百分中米五一、二、麥二七、〇、雜穀一三、二、其他八、六に當れり。

此割合を以て人口三千九百二十三万四千七百九十五の調査（廿一年沖繩を除く）に別ては米食者—二千八万八千二百十五人。

一六三、食事及ひ食品は如何？

常食の要品及ひ其調理に就て？

一六四、人民常食の種類及ひ其比較を記せ。

右比較の人別は如何？

麥食者―千五十九万三千三百九十五人。
雜穀食者――五百十七万八千九百九十二人。
其他――三百三十七万四千百九十三人。

右の比例を以て食米を算出すれば、則男女老幼平均一人一日三合の消費と假定し、乃一歲に就き、二千百九十九万六千五百九十五石なりとす。而して廿一年の產米三千八百六十四万五千五百六十三石中、海外輸出百三十九万五千百九石を引き、輸入米五千百二十七石を加へ、差引三千七百二十五萬五千五百八十一石中、食料に充つる分を引去れば、千五百二十五萬八千九百八十六石なり。此剩餘は則酒類釀造、菓子製造、其他の消費及ひ翌年越高なるへし云々明治二十三年、農商務省總務局報告課の調による。

一歲中の食米石數及ひ其殘餘等に就て？

右は元より推算にして、確算せし者にあらざれとも、然れとも本邦常食の如何を概知するの一助たるへし。

一六五　飲用物の種類許多あり。即清酒、燒酎、味淋、濁酒、甘醴の類

飲用物

是あり、皆米を以て釀造す。就中最嗜好せらるゝものは清酒にありとす。近來は洋風に倣ひ、麥酒、葡萄酒の釀造盛に、而して又外邦輸入に係る酒類も尠しとせす。茶は邦人の最愛好する所あるを以て、每家朝夕又は來賓每に、之を喫するの慣習あり。

一六六　菓實の食物に愛用せらるゝ者亦許多あり。就中、梨子、梅子、蜜柑、橙子、柿子、栗子、桃實、無花果、及ひ胡瓜、西瓜の類を最美味ありとす。而して柿子は實に本邦特產の一にして、生柿（キザカキ）乾柿（コロカキ）共に可ありとす。

一六七　之を要するに、本邦食物中其需用最廣きは米にして、之に亞くは大麥小麥とす。蔬菜は大根、蕪菁、葱、芋、甘藷、牛房、胡蘿蔔要用あり。而して砂糖の需用は、人民生活の度日を追て增進し、其供給も亦隨て大あり。

一六八　洋食の調理漸々盛行に至り、羊豚、牛馬諸肉の需用隨て增

飲用物の種類は如何？

一六六　菓實の愛用せらるゝ者に就て

一六七　食物の需用最廣き者及ひ蔬菜類の要用なる者は？

一六八

總論

加せり。又洋食盛行の風に伴はれ、肉食者の數大に增加せしかは、則屠殺の牛羊、年一年と其多きを致すを見る。左に牛馬屠殺數を表示す（但最近三年間平均數。）

牛―十万三千四百四十三頭。　馬―五千三百四十頭。

一六九。烟草は邦人一般嗜んで之を喫す。故に全國到處莨田を見さるはなし。近來は海外所產の品、邦人の嗜好に投じ、其輸入も亦莫大なりとす。

一七〇。家屋―其結搆は概して木造多く、磚瓦或は石材を以てする者少し。而して本邦家屋の製作に二別あり。一は支那より其術を傳へ、而して較々之を改めたる者、一は本邦固有の者是なり。其第一は第二に比すれは、其造搆堅牢優美なるの故を以て、多くは之を寺院宮社殿堂に用ゐ、第二は一般民舍に施す。特に田舍の農家は純然たる第二者なりとなす。

（一六九。烟草に就て？）（屠殺の牛馬頭數を問？）（洋食盛行及び肉食に就て？）（一七〇。家屋結搆の總概及び其製作に就て？）（建築の二種とは何ぞ？）

建築法

一七一。今第一種の搆法に就て畧記すれは、屋蓋の傾面急にして、四方垂木の製多く、之を覆ふに瓦銅を以てし、柱梁は彫刻彩丹を施すあり、廻らすに回廊を以てし、欄杆階段之に附す。第二種は屋蓋の斜面緩にして、之を覆ふに木板を以てす（近來都會の地は、甚くに銅瓦を以てする多し）其草茅を以てする者は斜面急に、四方垂木の搆造なれとも、概して陋あり、床低く、壁は塗るに埴土又は白堊を以てす。又一種別に土藏なる者あり、四傍皆厚壁を用ゐ、以て防火の用に供す。

一七二。要するに本邦の造家術は、其本源全く支那にありと雖、其之を傳ふるや、既に千餘年を經て、而して又特別なる發達をなせしものなれは、今は則東洋一種の建築なりと謂ふへし。然り而して其多くは木造にして、石磚造の發達なかりしは、蓋し地震の災害屢々あるに因る者あらむか。

（一七一。第一種及び第二種の搆法に就て問？）（一七二。本邦造家術の本源は？）（木造多き所以を？）

一七三、又其室内に就て言へは、座するに倚子おく、床上疊を敷き、直に之に平座す故を以て四邊の器具裝飾等は之に順應せり。客室必ず床間を設け、之に書畫幅を裝し、花瓶に花卉を挿み、以て修飾となすを常とす。邦人性甚花卉を愛玩す故に如何ある小庭と雖、餘地あれは必ず花卉草木を植ゆ。

一七四、本邦の修園術に於ける、殆東洋の一美術として西人常に稱賛して措かさる所あり、蓋其起元は是亦支那の啓發にあり と雖、從來内邦山川の景勝に富むの故を以て、斯術の發達を致せる者か。古來公供の庭園おしと雖、昔時封建の諸侯か、豪奢の餘造り設けたる其邸中の庭園、清麗奇雅心目をして喜はしむるに堪へたる者あり。或は數畝の假山、人をして深山幽谷を跋渉するの感あらしむる者あり。近來都會の地公園の設置、日に增加す。

一七三、室内の搆成及ひ裝飾如何？

一七四、本邦修園術に就て？昔時封建諸侯の庭園は如何？

燭具

一七五、諸官衙、及ひ都會の商家、近來其造搆と改め、洋風に摸する者許多あり、乃三層五層の雲に聳ゆるあり、白壁赭磚の眼光を奪ふ者あり、蓋家屋の製方に一變すべきの時あり。

一七六、從來の燭具燭品は甚粗野にして稱道すべきなく、室中は行燈（アンドン）を用ゐ、出るには提灯を用ゐたり、其可燃物は菜子油、魚脂及ひ蠟燭にして、田舍の如きは常に火松を以て明を取れり。

然るに外交以後は頓に其面目を改め、石油及ひランプは一般の燭具燭品となり、殷富ある都會即東京横濱の如きは、ガス電氣燈の不夜街となれり。

人心

一七七、人心（ヒューマニティ）—を陶冶鑄成せし者は、即儒教佛教の二者にして、而して儒教は仁義道德を旨とし、佛教は幽冥の理を說きて現世の行爲を優和おらしむるにあり。故に儒教は概して中人以上の男士に行はれ、佛教は概して中以下、及ひ婦女の間に信せらる

一七五、近來洋風の家屋に就て？

一七六、從來の燭具及ひ燭品に就て？交外後の有樣は如何？

一七七、人心を陶冶せし者とは何ぞ？儒教佛教に就て？

丶の傾向あきにあらす（譯のあれとも、一般の風俗としては論すへからす。）

一七八。右二教より鑄成せられたる人心を形容すれは、則温厚、篤實と評して可あらん。都民の如きは較々輕薄を免れすと雖、亦義俠に富めり。而して之を一般諸外國に比すれは、澹泊と謂ふへし。其天稟は活潑敏捷又鋭進を喜へとも、獨り恨むらくは耐久の忍力乏しく、又摸倣に長すれとも創造に短あり。世の教育者須らく猛省すべきの缺所ありとす。

一七九。外人常に本邦人を評すらく「日本人は目前の小利に敏く、將來の大利に暗し」と。夫或は然らん。然れとも是唯稟性の然るにあらす、蓋昔時封建の餘弊外交と杜絶し、邦人外國貿易の何物たるを知らさるに座するのみ。邦人豈何時まても斯の如き評言を甘する者ならんや。

一七八。儒佛二教より鑄成せられたる人心を形容せよ。

一七九。外人の評言及び其然る所以を論せよ。其天稟は如何？

沿革誌

第五章——沿革誌（地誌沿革は各國誌に於て說く。）

振古

一八〇。振古日本國土に於て、始めて人類の棲息せし狀形に就ては、今得て之を攷ふへからす。然れとも最初の棲民は、現今北海道に潛む所の、彼の被髮跣足にして、即埃乃又は蝦夷と賤蔑せらるゝ粗野なる土人の祖先に在り。而して彼等は日本全洲に延蔓し、此豐ある、此美なる瑞穗國を我物として、顧慮する所あきか如くありき。其當時に在りて、此人種は無數の部落をおし、石を磨し角を削り、互に殺伐鬪爭止むときなく、以て數千歲を夢過したるに似たり。

一八一。此時に方りて所謂、天上人種は、九州又は中國の地方に遷移し、次第に土人を驅逐して、大に其領土を廣めたり。天上人種は純良にして、智力に富み、開化の度も、遙に土人より優りたれ

一八〇。振古に於ける日本の棲民に就て記述すへし。當時の土人は如何なる生活をなせしや？

一八一。天上人種の遷移及び其人種

總論

は、乃、遂には日本の主民となり、茲に初めて本邦の歷史は其發端を開けり。

上古ノ代　神武天皇

一八二。天上人種遷移後、星霜遙遠なるに至り、其九州に於ける一族の君長（即天上人種本統の君家なり）に無前の大畧英偉家を出したり、即神武天皇にておはせり。天皇は其一族及び部下と共に、其住地日向を打立せ玉ひ、海を航して遂に大和に入り、梟雄の土人を平け、茲に始めて大八洲即大日本國の帝位に即かせ賜へり。此歲を以て紀元々年と定め、今や二千五百五十年を經にけり。

一八三。天皇聰明絕倫の資を以て天下を治め、其功臣を各地に分封し、之を國造、縣主とおし、以て封建の制度を創開し玉へり。而して天皇一ひ創開し玉へる制度は、其間多少の改革あきにあらされとも、其餘光は遠く千三百餘年の後世を照し、皇極天皇の御代まで打續けり是を上古と稱す。

一八二。神武天皇の雄圖に就て記述せよ。

一八三。天皇の治世及び其餘績は如何ぞ？

沿革誌

上古ノ出來事

一八四。其間に生したる事件の大なる者は、即八百年代（景行天皇御代）熊襲及ひ蝦夷を征して、邦域を增加し、成務天皇の御代、國造縣主稻置等を增置し、山川阡陌を以て、國界を定め、九百年代には神功皇后の外征ありて、三韓內屬し、千年代（應神天皇御代）には三韓より儒教を齎らし、千三百年代の初め（欽明天皇御代）始めて佛法來り、之に次て曾我氏の僭橫及ひ其滅亡等ありて、政治社會一變せり。

當時國造の數凡百四十四。又國司を交置す。

一八五。要するに上古の代千三百餘年間は、太平無事施政簡易、風俗純樸ありと雖其外交の事あるや、亞細亞大陸の事物頻々として傳來し、工藝、衣食、生活、人心等に非常の增進を促せり。就中佛法及ひ政治上の刺激は、最其烈を加へ、扨は社會の有樣全く別天地の觀をなすに至れり是讀者の須記臆すへき事ありとす。

中古ノ代

一八六。中古の代は我國史中最切要なる時代にして即千三百

一八四。上古に生したる事件の大なる者を記せ。

又國造の總數は？

一八四。外交後社會の增進如何？

佛法及ひ政治上の刺激とは何ぞ？

一八六。

五年、孝德天皇の大化元年より、二千三百年代まで凡そ一千年間を云ふ。而して其間の出來事に就て、更に其時代を分ては、則曰く大化後の王朝、曰く藤氏及ひ平氏の攝政、曰く鎌倉の覇治、曰く足利氏の封建及ひ其戰國擾亂の代是なり。

一八七　夫上古に在りては未々純然たる政治的思想發達せす、君主は神孫なるの故を以て、神威に藉りて尊く、人民は君主に奉仕するの外、私事私權なる者なく、田園を耕す農夫も、器物を造る工人も、皆君主の傭役者たらさるはなし。而して此等諸業を營む人民は、個々皆其種族を分ち、一種族に其族長あり、以て之を統へ、其職を世々にせり、所謂族制の代是なり。

一八八　斯の如き俗なるを以て、其久しきに至り、各族の長とも次第に私慾を恣にし、加之佛法流行後、人心の崇奉自其性質を變し來れり、是大化新制の因て生ずる所以とす。大化の頃は支那

中古とは又其細別は如何？

一八七、上古の君主及ひ臣民の關係に就て？

族制は何ぞ？

一八八、大化新制の因て生ずる所以は？

大化ノ新制

の儒學政治學等を講究する者漸興り、南淵清安、高向玄理等は盛に唐制の美を說けり。

一八九　是に於て中大兄及ひ藤原鎌足等、既に蘇我氏を亡し、朝權自伸張するを機となし、乃南淵高向等の說を採り、大英斷を以て新政體を組織し、之を天下に實施せり。大化の新制即是なり。今新制の概要を記すれは、政府に百官を置き、其族制を廢し、諸國に國司郡司を派して任期交代せしめ、租庸調の法を制して戶籍及ひ班田收授の制を創し、尋て八省を置き、官等を定むる等始めて純然たる政治的政府の存立とありて、世は則郡縣制度とかれ、

一八九、大化の新制に就て記せ。

大寶中始めて畿內七道を分ち、其國司に任期あり、治所を國府と稱す。嵯峨天皇の御代は大國十三、上國三十五、中國十一、下國九、總べて六十八國なり。

大寶中の分國及ひ嵯峨朝の制は？

總論

一九〇。其後律令の改革格式の撰定等屢々之あり、人民は全く畫一律文の配下とありたれとも、然れとも該改革後は、政府の組織徒に誇大に流れ、官人は其無事に苦める者に似たり。去れは是より高等官即公卿縉紳等は遊惰風流に溺れ、人心殆ト氣骨を削し、天下の人心婦女と一般の風あるに至れり。

一九一。人心の虚弱右の如くあれは、則佛教は大に其投合する所とあり、其勢力は殆ト王權を凌き、惑溺狂亂實に國家を荼毒せり。

奈良ノ弊政

奈良朝の弊政即是なり。

一九二。千五百年代の中頃、桓武天皇英邁の資を以て前諸朝の宿弊を一洗し、宮城を平安に奠め、大内裏を造營し、及ひ屢々兵革を動かして地を東北に拓き玉へる等、大に見るへきの舉あり。然れとも所謂敵國外患なき者は國毎に亡ふと云へるか如く、當時社會の有樣を見るに、之か刺衝を與へて其改進を促す者、一も

一九〇。大化改革後の政府の組織に就ては如何？

一九一。佛教の勢力及ひ其毒は？

一九二。桓武天皇の治如何？

當時政綱の弛廢せし所以は何ぞや？

あかりしかは、則政綱は日に弛廢し人心は月に腐敗し、以て藤氏攝政の代とはなりけり。

藤氏攝政

一九三。藤氏の政權を一門に籠むるや、法令私多く、黜陟不明に、庶政の有樣及ひ兵制等に就て？

當時地方の治は如何？

一九四。政令廢亂より生したる地方

庶政後の

庶

藤氏の政權を一門に籠むるや、法令私多く、黜陟不明に、庶政後の有樣及ひ兵制等に就て？

當時地方の治は如何？

一九四。政令廢亂より生したる地方

庶政後の

庶

庶政後の

庶

庶政後の

庶

浮浪盜賊の輩は恣に天下を横行して、顧慮せさる者あり、或は隣境と兵を交えて、地を廣むる者あり。此の如き有樣漸〻積重するに及んでや、千六百年代の末天慶の亂あり、千七百年代の末には長元の役あり、尋て千八百年代に前九後三の役あり。此諸亂は其發する毎に、政府を驚愕せしめ天下を騷亂せしめたり。

一九五、當時源平の二家專兵事を擔當し、既に武門兵家の名を自稱し、以て諸亂を平け、朝廷は一兵をだも損せさりき。然れとも是より其後、兵權は次第に二家に歸し、地方佻逸の輩は自ら好んで二家に隨屬し、始めて隱然二大黨を作るに至れり。

源平二氏

一九六、千九百年代の初め、朝廷に於て皇統の爭を生し、之を干戈に訴ふるに及ひ、互に源平二氏の兵力を藉り、以て雌雄を決せり。保元の亂是あり。此亂に於て源平二氏は始めて頭角を現はし、朝廷の樞機に參するを得たり、而して同時に藤氏は太く其人望を失せり。

一九五、源平二家の兵馬に於ける關係は如何？

一九六、保元の亂及ひ此より生したる結果に就て。

平氏ノ勃興

一九七、源平二氏の起るや、互に又其權を朝廷に爭ひ、乃平治の亂を演出せり。此亂に平氏は全勝を得、其主領清盛の若きは遽に太政大臣に拜し、一族の所領日本半國を占め、其勢旭日の天に昇るに似たり。然れとも忽にして豪奢橫暴至らさる所なし、是を以て天下離叛し、終に其仇家源頼朝の滅亡する所となりて終れり。此に至りて攝政の代終る。

鎌倉ノ代

一九八、頼朝の興る、誠に天下の趨嚮にかなへり、公家一統を廢し、覇府を鎌倉に創開し、實權ある武士を舉けて政權を委任し、自ら總追捕使となりて之を統へ、以て全國六十餘州に守護地頭なる者を配置せり。是より政權全く武家に歸し、王室は有名無實の境遇に陷ち玉へり。

一九七、平治の亂及ひ其結果は？平氏の終りは？

一九八、頼朝の興業に就て？

又其地方制は如何？

守護地頭ハ往々其地を世襲し、復封建の漸を二なす。

總論

一九九。鎌倉覇府は北條氏の力に依りて、百三十餘年の久に持續せり。北條氏の施政は簡易にして虚飾を除き、節儉にして政費を減し、以て小康を得たり。然れども平安城裏に於ては、常に大政の回復を謀り玉へは、即頼朝の死するや承久の亂あり、二千年代の末に至り、北條氏の政畧漸く衰るや、元弘の亂あり。

元弘ノ亂

二〇〇。元弘の亂は後醍醐天皇、北條氏の僭逆を憤慨あらせ、之を討滅して、政權回復を圖り玉ふにありき。幸にして諸國の武士奮慮を賛け、其目的の如く北條氏を滅し、皇室中興の業茲に成ると雖、朝廷の議論と武士の議論と相衝突し、乃武人等足利氏を推して其盟主となし、以て中興政府に叛抗せり。是より所謂南北分爭五十餘年の潰亂となり、終に足利氏の一統に歸せり。

足利氏の時、國郡を分ち、功臣を封して守護と稱し、皆地を以て子孫に傳ふ。是に至りて、封建の制全く成れり。

一九九。北條氏及び其滅亡に就て？

二〇〇。後醍醐天皇の擧及び足利氏の起りたる所以は何ぞ？

足利氏の地方制は？

足利氏ノ一統

二〇一。然りと雖足利氏の一統は、鎌倉の制に摸し、且自ら將軍の榮を保ちて之と統御するに在りと雖、其實は諸侯の權力大に過きて、叛亂攻伐止む時あかりき。其政權益々振はさるや、權臣兵を弄して、應仁の大亂を釀し、次て群雄蜂起、戰國擾亂の世となれり。

戰國擾亂

二〇二。戰國擾亂の最中に方り、織田信長不世出の畧を以て俯起し、天下半ばは平定に歸し、豐臣秀吉又大略を挾みて其功を繼き、茲に初めて一統の世を見るに至れり。然りと雖秀吉の瞑するや否や、好事の梟雄猶亂を思ふて已まず、天下再分裂せんと欲するの勢ありき。

此時諸侯の大なる者六姓、其次き三十餘家皆日本を分領せり。

德川家康

二〇三。是時に方りて德川家康圓滿の材德を備具し、深謀遠慮將に以て裂潰せんとする豐臣氏の天下を撑へ、覇府を江戸に開

二〇一。足利氏一統後の天下の有樣を論せよ。

二〇二。織田信長及び豐臣秀吉に就て記述せよ。

當時の諸侯は？

二〇三。德川家康の爲

き、而して三百年の太平謳歌の基礎を築けり。是に至りて中古史去り、近世史來れり。

總論

德川氏ノ代

二〇四. 凡ソ德川氏の治術は鎌倉及び足利以來、馴致せし制度を利用し、以て封建の美を獨東洋に恋になしたり。加之、其太平は文明的發達の現象に於ける、至大の關係を國家に與へり是實に學者輩の充分講究を費すに足る價値ある者あるを信せり。

二〇五. 夫レ德川氏の政畧は唯社會の發達と期せすして、而して其太平無事を希望するにあり。故に巧に諸侯の權を制して、容易に事を企てしめす、外交を拒絶して其累をさけ、而して以て其豫期即希望の如く三百年間の春夢を貪るを得たり。

德川氏の時大小侯伯二百七十一藩あり。

二〇六. 此時に方り歐米諸國の形勢大に變し、瀛車瀛船の發明ありて、世界を視ると一小球となし、而して海を蔽ふの艨艟は屢

人及其成功は如何？

二〇四. 德川氏の治術及其大平に就て？

二〇五. 德川氏の政畧及び其希望に就て？

德川氏の諸侯は？

二〇六. 外交の關成りし

沿革誌

德川氏大權ヲ放棄ス

々我近海に出沒せり。二千五百十三年即嘉永六年、米使來りて開國互市を强請し、遂に德川政府自家の禁令を轍して、以て各國と交通貿易を約するに至れり。

二〇七. 蓋外交締約の事一度天下に流布するや、長夢未醒めざるの時あれは、則天下の人心喧囂して已まず、德川政府をして鎖攘の方針と取らしめんとを求めり。然りと雖德川政府外交の已むへからさるを以て、輿論を容るゝと能はず是に於てか所謂尊王攘夷黨ある者生し、德川氏は政權を失墜せり。

二〇八. 德川政府は其自ヲ存立すへからさると悟り、最後の將軍德川慶喜は二千五百二十八年即慶應三年、大政を王室に奉還したり。德川氏の天下茲に至れる所以の者は、蓋王室の式微、天下の學者政治家の慨嘆する所とあり、以て鎌倉以來の王權回復を成功したるに相違なしと雖、其封建の敗亡は抑宇内の形勢之を

所以は如何？

二〇七. 外交約束後の政變如何？

二〇八. 慶喜の大政奉還及び德川政府の顚覆せし理由を論せよ。

容れさりしに因りしあり。

王政維新

二〇九. 去れは徳川氏の政權を奉還するや、王政維新の大號令となり、天子萬機を親裁あらせ、尋て郡縣畫一の制度とあり、諸侯諸士の特權を撤し、始めて尊王の大節を實行し得たり。然れども彼の攘夷の事たる、到底天下の大勢に背する者たれは、則以て今日に馴致せり。然り而して一度開國の利を知得するや、世は全く歐米文明的の進歩に伴はれ、頓に舊來の面目を改め、國勢駸々乎として上進せり。

二一〇. 維新後今や二十有餘年を經過し、其間多少の干戈交兵等の事あきにあらされ共、社會は平和的競爭とあり、萬般の事物一として著大の進歩を呈せさるはあし。乃其大要を記すれは憲法を編みて立憲國とあし、國會を開て代議政とあし、兵制を改めて徴兵法とあし、法律裁判法を定めて冤罪を除き、民法を制し

二〇九. 王政維新後の社會及ひ其嚮背に就て問?

二一〇. 維新後著大なる進歩的現像に就て列記せは可なり。

三府誌

結論

三府誌

て人權物權を明にし、地方制を改めて人民自治とあす等是あり。

二一一. 予や既に本邦の沿革を叙し來り、而して文物煥發、民人其業を勵み、國方に宇内に卓立し、以て日本帝國の日本帝國たる所以を表出せんと欲するの今日に擱筆せり。嗚呼、夫れ將來の事鬼神にあらされは、則安〻之を豫知すを得んや。然りと雖、國の盛衰は蓋其人事に因て決するものあり。唯吾人は吾人同朋と共に、此國の無究に光榮を保たんとを努めんとするなり。

本歴史は、則本書と對照する者なり。乞參看せよ。

讀者よ、予か先著新體日

右の地方制に就て?

二一一. 本邦沿革史の結論に於ける讀者の議論を草せよ。

第六章——三府誌。

二一二. 三府の誌は、固是各國誌に係る。故に宜く其條下に於て之を叙すへし。然れとも東京及ひ西京の若き、一は現帝都にして、而も萬機の出る處、一は舊帝都の地あるか故に、其地の事亦廣

く全國に關係おくんはあらす是總論に於て二京の誌を叙する所以なり。大坂は帝都にあらす、首府にあらす、然りと雖其地たる百貨輻輳全國貿易の樞地たり、因て二京に尾すと爾云ふ。

總論

東京

其位置

二一三。東京は我首府にして、武藏國に在り（市街は南足立、北豐島、葛飾、荏原四郡に跨る。）其地たる南は東京灣に臨み、東北及ひ西の三面は遠く關東の平野を控へ、隅田川の洪流は市街を中斷して、南方海にそゝく。

市場

而して貨物四達、形勢宏濶、實に大都に背かす。市街の幅員は東西二里六町、南北二里二十九町、市坊は一千三百七十二、人口は百三十一萬三千二百九十九あり。

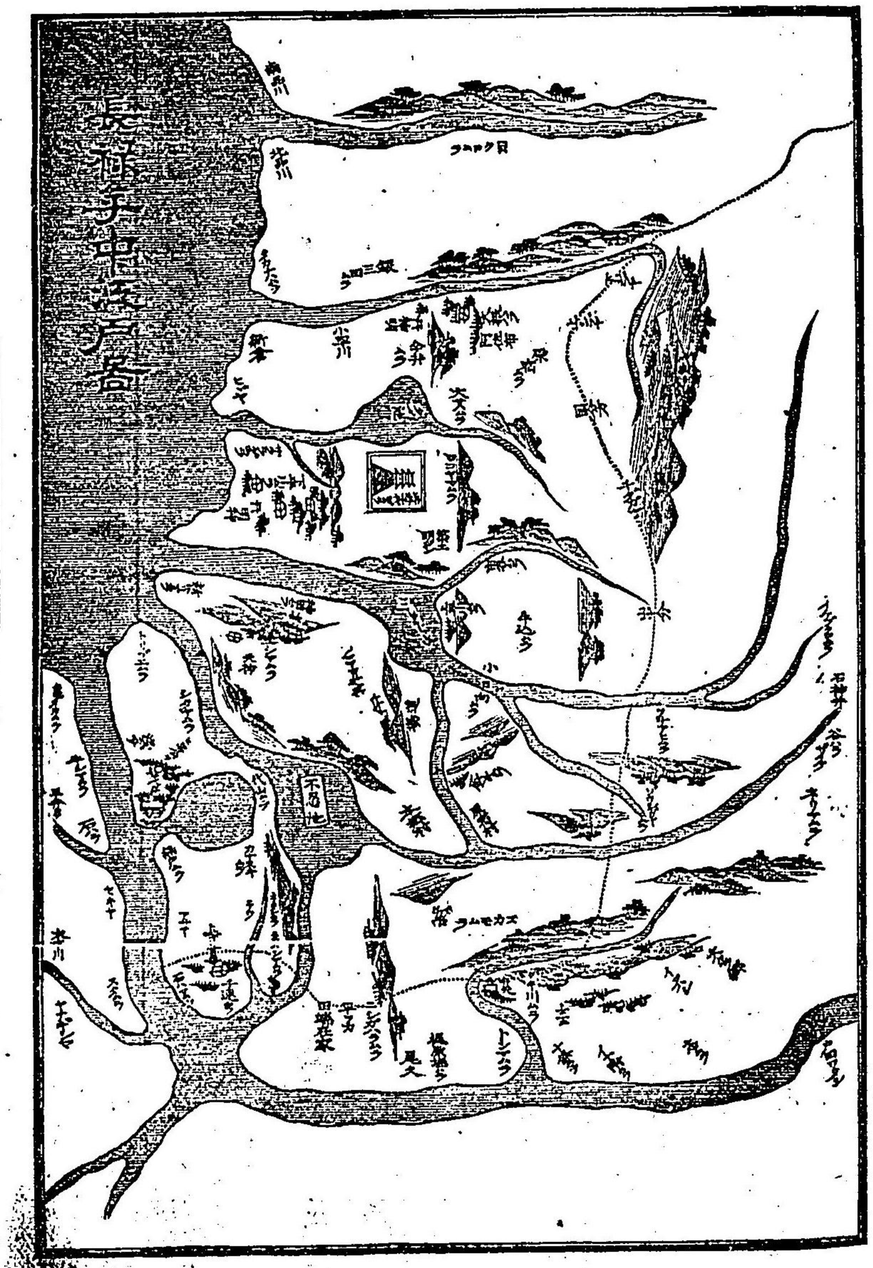
人口

二一四。此地舊名は江戸と稱す。古は叢茅たる一偏土たるに過きさりき。其江戸の名の始めて史上に見え、而して世人の知る所とありしは、即後花園天皇の御代、二千二百年代鎌倉管領上杉定正

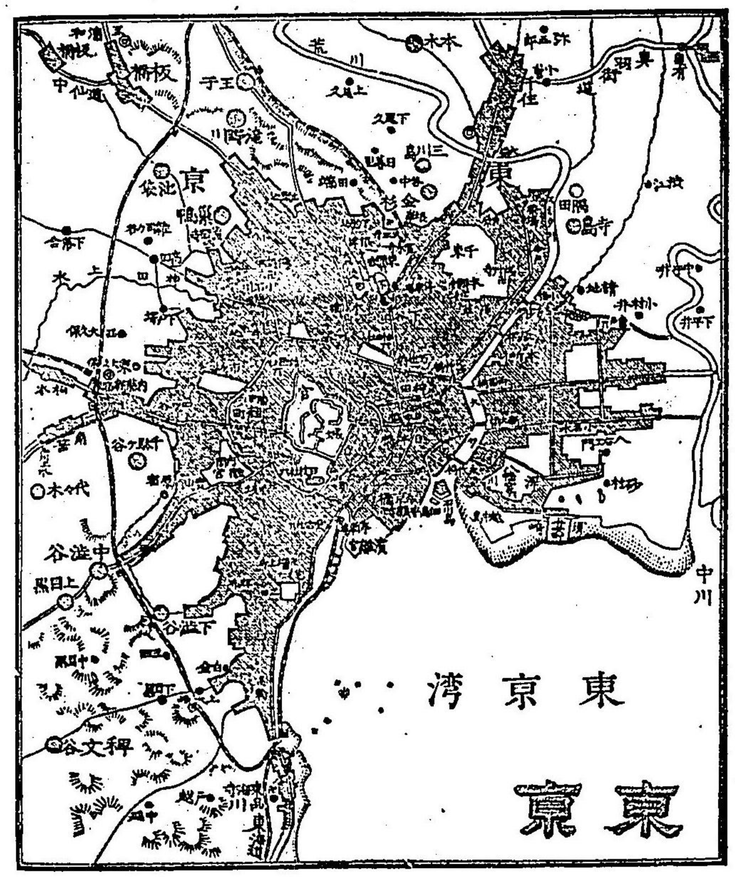
沿革

二一三。東京の「位置地」勢及ひ市坊人口如何？

二一四。東京の舊名及ひ其始めて人



の老臣太田持資、始めて千代田城を此地に築きし時にありき（城墟）は即徳川氏の居城、今の皇居の地なりと云。



二一五、其後、二千二百五十年即天正十八年、徳川家康關東に徙るに及び、千代田城墟を修めて居城となし、地を削平し、渠を疏通し、四方賈人を招致し、頓に一大市街をなせり。是に至りて江戸の名益々現はる。其覇權を握るに及び、天下の侯伯悉く江戸に朝し、其邸宅と商家と相交錯し、以て現今の形勢をなせり。徳川盛時、府内の人口は二百萬に達せりと云ふ。以て其盛大なりしを知るに足る。

二一五、徳川時代江戸の形勢に就て？

三　府誌

區劃

二一六、全市を日本橋、京橋、芝、赤坂、麻布、四谷、麹町、神田、牛込、小石川、本郷、下谷、淺艸、本所、深川の十五區となす。其最繁榮なる地は日本橋區にして、豪戸巨商軒を並べ、百貨の貿易至大なり。之に亞くは京橋、及び神田二區とす。

二一六、市中の各區及び其繁榮なる地は如何？

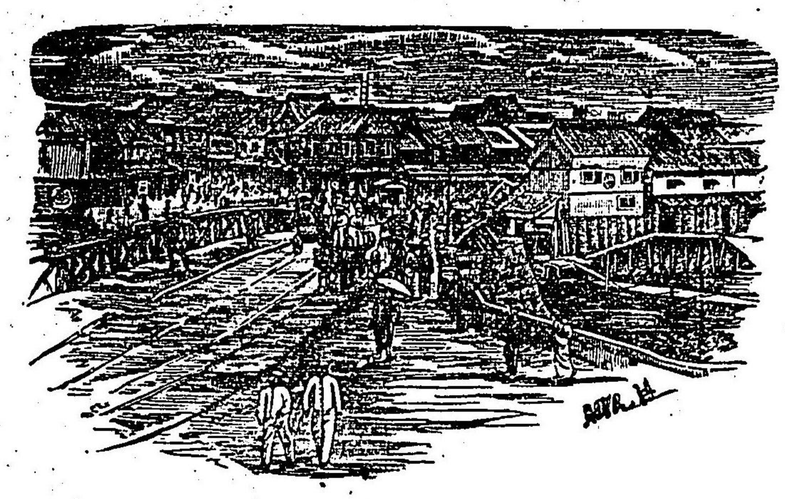
道路

二一七、市中の大路は、南、新橋停車場に起り、京橋、日本橋、及び萬世橋の三橋を經て、上野停車場に達す、之を大通（オホドホリ）と稱す。而して其新橋京橋間は、皆石造磚造の家屋相併列し、宛然歐洲の都府に遊ぶの感あり。其他の大街小市は、或は大通より分れ、或は皇城諸門よりす。要するに本市の街路は不規不律にして制裁なく、

二一七、大通とは？大通中美麗なる市街は何處ぞ？本市區

總論

驛路



日本橋の圖

殊には近來車馬の奔馳絡繹たるの故を以て、其甚狹きを感せり。之を以て當今市區改正に着手中ありとなす。

二一八、又本市より各地方に達する驛路は、重なる者四あり。即千住よりする者を奥羽街道と云ひ、下板橋よりする者を中仙道と云ひ、甲州街道は內藤新宿よりし、東海道は品川よりする等是なり。其他千住より分れて陸前濱街道あり、下板橋より分れて秩父路あり、本所より

改正の起りし所以は？

二一八、本市より發する驛路に就て記せ。

三府誌

鐵道

銀座街の圖

下總路等あり。又日本橋を起點とし、京都に至る三條大橋百三十一里東海道大坂に至る高麗橋京都を經て百四十四里ありとす。

二一九、運輸の便は第一鐵道による。即上野より發する中仙道鐵道は、以て北陸及ひ陸羽地方に達し、新橋より發する東海道鐵道は、横濱を聯ね以て關西に達し、四谷新宿より發する甲武鐵道は、以て八王寺武藏多摩郡に達す。又府西を一周して、中仙道及ひ東海道二線を連絡する者あり。今又總武鐵道起りて、將に下總及ひ常陸地方に達せんとするの計畫あり。

二一九、本市と京都及ひ大坂の距離は？

二一九、鐵道の通過に就て？

水運

二二〇、鐵道に次くは則水運にして、東京灣は以て横濱及ひ總

總論

房地方の航路織るか如く、荒川及び利根川の二流は、武藏及び兩野地方の貨物を運する亦莫大あり。市中又許多の溝渠を鑿通すれば、則舟揖自便を得たり。

商況

二二一、都下の勢況は漸次盛隆に傾向せり。左に東京府の調査に係る商況を摘錄して、其一班を知らしむ。曰く「明治二十一年中各商業組合に於て取扱ひたる商品は、四十六種として、其賣買金高四千七百二萬圓あり。又各市に於て事實を觀察するに明治十一年の賣買金高は、魚鳥類三百四十六萬六千圓、青物類六十二萬六千圓ありしも、仝廿一年には實に魚鳥類三百五十萬圓、青物類六十三萬二千圓增加せり」と云ふ。

二二二、水運は如何？

二二三、都下の勢況及び賣買金高魚鳥類、青物類等の市場は如何？

現住人員ノ職業別

二二二、又東京郡部合算現住人員職業別は、即漁業者一萬二千二百六十八人、農業者九萬四千二百二十三人、無業者及び職業未詳者十七萬七千五百八十九人、心役者十八萬五千八百二十三人、工業者二十二萬七千九十六人、商業者三十六萬五千二人、力役者五十六萬七千八百一人ありと云ふ。東京府廳廿一年調。

二二三、本市現住人の職業別人員は如何？

三府誌

皇城

二二三、皇城皇居及び離宮に就て？諸官省ハ？

二二三、皇城は即舊德川氏城墟を修築せし者にて、較、市街の中央麹町區に在り北緯三十五度三十六分、東經百四十度に位す。廻らすに溝渠を以てし、內郭外郭を分ち、而して諸官衙多くは外郭に在り。皇居は明治二十二年新に竣工を告げ、宏壯偉觀市內に冠たり。殊に地高潔、古松翠裏、參差として仝市之を雲上に仰ぐを得へし。其離宮は青山に華御殿、芝に濱御殿あり。

議事堂府廳學校ノ位置

二二四、國會假議事堂は麹町區日比谷に之を建設せり。他日諸官省も亦仝處に移建すと云ふ。今現に之か建築に從事する者あり。東京府廳は麹町區幸橋內に、帝國大學、高等中學及び高等師範學校は共に本鄉區に在り陸軍士官學校は牛込市ヶ谷に在り。

二二四、議事堂府廳及び諸學校の所在に就て？

房地方の航路織るか如く荒川及び利根川の二流は、武藏及び兩野地方の貨物を運する亦莫大あり。市中又許多の溝渠を鑿通すれば、則舟揖自便を得たり。

總論

商況

二二一　都下の勢況は漸次盛隆に傾向せり。左に東京府の調査に係る商況を摘錄して、其一班を知らしむ。曰く「明治二十一年中各商業組合に於て取扱ひたる商品は、四十六種として、其賣買金高四千七百二萬圓あり。又各市に於て事實を觀察するに明治十一年の賣買金高は、魚鳥類三百四十六萬六千圓、青物類六十二萬六千圓ありしも、仝廿一年には實に魚鳥類三百五十萬圓、青物類六十三萬二千圓增加せり」と云ふ。

現住人員ノ職業別

二二二　又東京郡部合算現住人員職業別は、即漁業者一萬二千二百六十八人、農業者九萬四千二百二十三人、無業者及び職業未詳者十七萬七千五百八十九人、心役者十八萬五千八百二十三人、工業者二十二萬七千九十六人、商業者三十六萬五千二人、力役者五十六萬七千八百一人ありと云ふ（東京府調廿一年調）。

二二三　皇城は即舊德川氏城墟を修築せし者にて、較市街の中央麹町區に在り北緯三十五度三十六分、東經百四十度に位す。廻らすに溝渠を以てし、內郭外郭を分ち、而して諸官衙多くは外郭に在り。皇居は明治二十二年新に竣工を告げ宏壯偉觀市內に冠たり。殊に地高潔、古松翠裏、參差として全市之を雲上に仰ぐを得へし。其離宮は靑山に華御殿、芝に濱御殿あり。

二二四　國會假議事堂は麹町區日比谷に之を建設せり。他日諸官省も亦仝處に移建すと云ふ。今現に之か建築に從事する者あり。東京府廳は麹町區幸橋內に、帝國大學、高等中學及び高等師範學校は共に本鄕區に在り陸軍士官學校は牛込市ヶ谷に在り。

水運は如何？

二二一　都下の勢況及び賣買金高魚鳥等の市場は如何？

二二二　本市現住人の職業別人員は

三府誌

議事堂府廳學校ノ位置

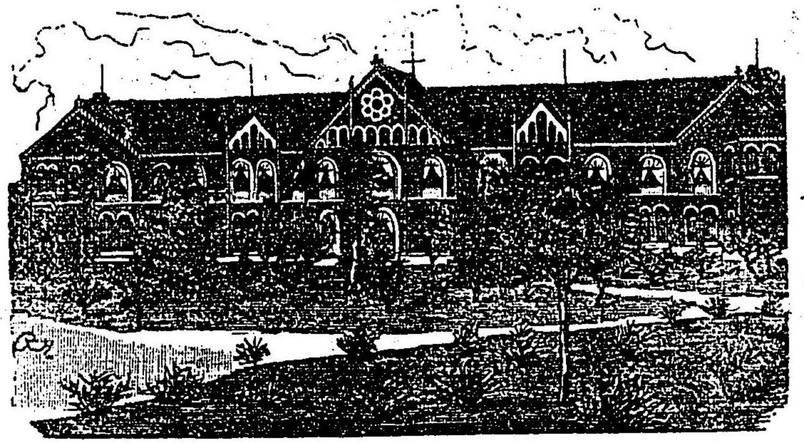
二二三　皇城皇居及び離宮に就て？諸官省ハ？

二二四　議事堂府廳及び諸學校の所在に就て？

總論

公園

二二四 各製造所



帝國大學校の圖

二二五. 府下各種製造所の重なる者を記すれば、麹町區常盤橋内に印刷局（官立、以下私立）王子（郡部）に製紙所、千住に製絨所、向島に紡績所、石川島に造船所、深川にセメンド製造所、及ひ品川に玻璃製造所等あり。是皆府下屈指の者あり。

二二六. 府内公園六所あり。淺艸金龍山、上野東叡山、芝三緣山、深川八滿社内、飛鳥山及ひ墨堤是あり。就中上野飛鳥山墨堤の如き、四時の勝皆住ありと雖、殊に春候櫻花の瀾漫たるに際して、賞客の共に噪く所あり

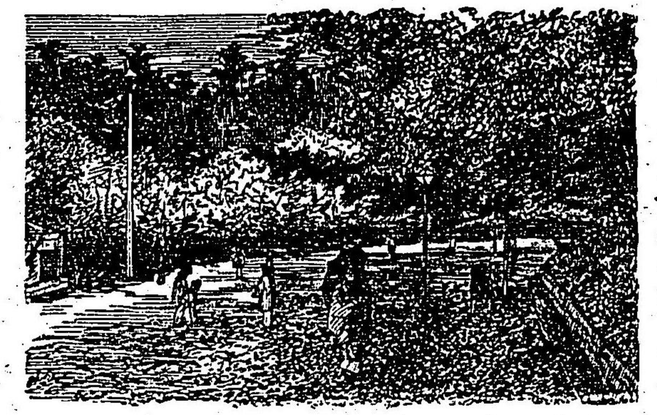
二二五. 府下製造所の重なる者を記せ。

二二六. 府下の公園及ひ勝地に就て？

三府誌

社寺

二二五. 田神社、日枝神社、深川八幡社、龜井戸天神社、靖國神社、東西本願寺、



上野の花景

とす。其他小金井の櫻、品海の月の如き、共に市外に在りと雖、都人の杖を曳く者絶にさるあり。

墨堤の圖

二二七. 社寺の屈指ある者は、即神

二二七. 社寺の著名な

總論

橋梁　水道

靖國神社

增上寺、淺艸寺、傳通院、寛永寺等あり。皆宮觀壯麗、境内廣濶、都人散策の處とあす。且夫都人の風古來鬼神を崇信す故に各種の社寺、到處散在せさるはあし。

二二八. 市内橋梁無數、其著名あるは千住大橋、吾妻橋、廐橋、兩國橋、新大橋、及ひ永代橋にして、以上は隅田川に架し、之を六大橋と稱す。其他日本橋、新橋、京橋、萬世橋、淺艸橋等は長大あらすと雖、亦著名ありとす。

二二九. 東京の地たる、元低淤にして、良水に乏し故に其飲用水は多く

る者を列記せよ。

二二八. 六大橋及ひ其他著名の橋梁は？

二二九. 水道とは何ら？

三府誌

風俗　物産

掘井による、水道是あり。其水道に二あり、一を多摩川上水と云ひ、承應元年二千三百四年多摩郡羽村より、渠を以て多摩川を引く十三里、四谷より陰筧を以て諸區に分注す一を神田上水と云ひ、是亦承應中の起工にして、府北吉祥寺牟禮二村に在る井頭池より渠通し、小石川に至り、又陰筧を以て各區に分派す。現今更に府下水道改良の議起れり。

二三〇. 都下の風俗は諸國人の集合に係れば一樣あらす但從來の士庶は較、輕佻を免れずと雖、甚俠氣の風あり。其言語は近來著しく改まり、上等人士は最優美、全國中訛言少しとあす。要するに本邦の風俗即言語服裝等は、此地を以て流行の中心ありとす。

二三一. 本市の物産は染革、漆器、陶器（今戸町隅田村より出す粘土を以て燒きたる素燒の土器なり）鍋釜、白魚、團扇、錦畫、瓦、煉化石、毛布、紙類等あり。就中蒔繪の

多摩川及ひ神田二上水に就て？

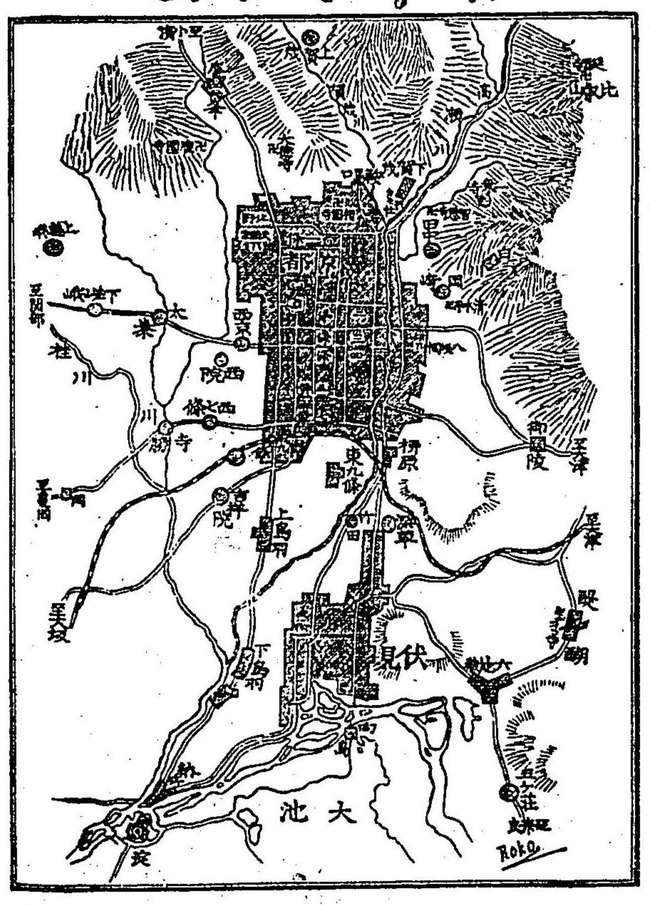
二三〇. 市人の風俗に就て？風俗の中心とは？

二三一. 本市の物産は？

如き、錦畫の如き、本邦他に其比類なき特産なりとす。

西京

其位置　二三二、西京は即京都、市、にして、東京に對して爾稱す。京都は



二三二、西京の名稱位置地勢及び幅員市坊人口等に就て如何？

即古の所謂平安城にして、山城國に在り（葛野、愛宕、紀伊三郡に跨る。）其地たる四面廻らすに山を以てし、賀茂川の一水市東を南北に貫流す。

市坊及び人口　東西凡一里南北一里廿四丁、市坊一千五百五、人口二十七萬五千七百八十ありとす。

沿革　二三三、此地は紀元一千四百五十四年、即延暦十三年、桓武天皇始めて帝都を奠め玉ひしより、維新前までの帝都あり、故を以て本邦歴史上最紛雑を極め、且要用的の關係を有する地なりとす。

中世鎌倉の代、府を六波羅（今の洛東松原通）に置き、足利氏の時は、霸府を室町に置き、德川氏は京都所司代及ひ守護職を二條城（今の京都府廳）に在鎮せしめり。

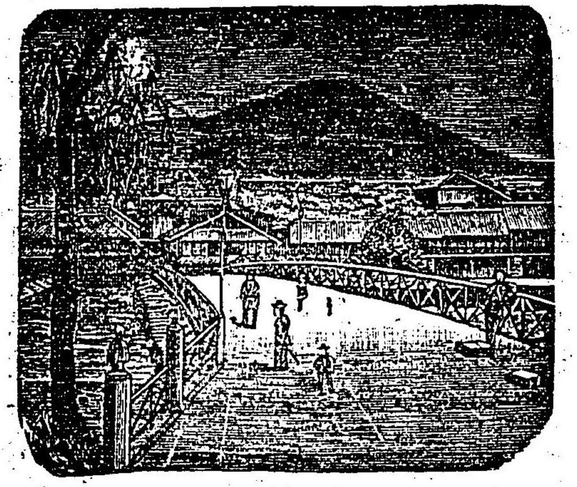
二三三、此地の沿革を畧記せよ。

區劃　二三四、市街を上、京、下、京の二區に分ち（三條通を以て劃す）又賀茂川以東を洛外、或は洛東と稱し、其以西を洛中、又は洛西と稱す。街路は縱横整然碁面の如し、而して其最繁華なるは三條四條五條及ひ

二三四、市中の區劃及ひ道路は如何

總論

驛路



四條橋

寺町の四路となす。而して賀茂川に三條四條五條の三大橋を架し、以て洛の東西を絡ぬ。古は左右二京に分ち、大路九條ありしか。現形は僅に其左京のみにして、道路も六條を存せり。

二三五. 本市より地方に至る驛路の重なる者は、東海道、大坂道、山崎街道、大和路及ひ丹波路等なり。

運輸

其東海道は近江大津に達し、其大坂道は伏見及ひ淀を經て攝津に入り、其山崎街道は山崎を經て攝津芥川に至り、其大和路は伏見より分れて大和奈良に至り、其丹波路は丹波の亀岡に至る。

二三六. 運輸は鐵道近江より來り、府南を横過し、大坂に達し、以

? 古の形勢に就て?

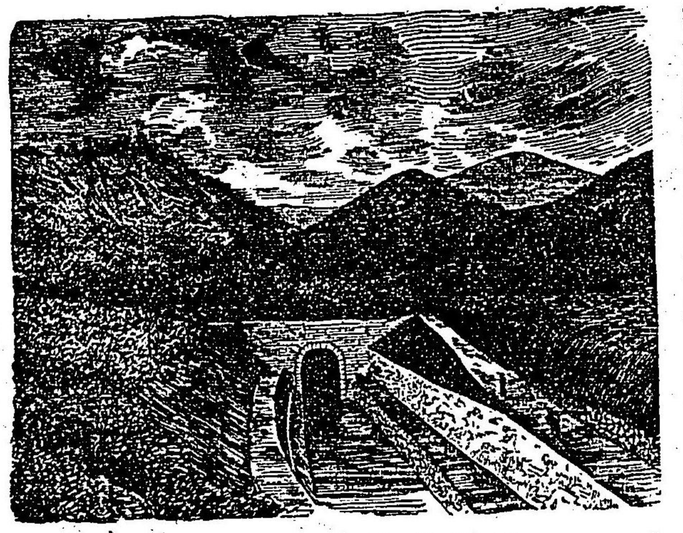
二三五. 本市の驛路を記せ。

二三六.

三府誌

琵琶湖疏水工事

て東京大坂間を連接す。水利は賀茂川及ひ桂川ありと雖、共に舟揖を通するに足らす、然れとも淀に至れは淀は京都三條大橋より凡四里河の洪流直に大坂に通するありて、運輸の便を極む。之を以て地峽間にありと雖、百貨の分配宜きを得たり。



琵琶湖疏水工事の圖

二三七. 近來琵琶湖を疏通し、其水を以て本市に引き、工業及ひ運輸を利せんとせり。即該工事は明治十六年中着手し、本年に至りて其功漸くあれり。

其幹水路は琵琶湖西岸三保ヶ崎(近江滋賀郡)より本市賀茂川に至る延長六千百七間餘あり其間堅

運輸の便如何?

二三七. 琵琶湖疏水の本幹水路に就て記せ。

總論

皇居

道を穿つ三、其最長ある者千三百四十間あり、其他閘門一、架橋十五、水路橋一、舟溜七、又延長三百二十六間のインクラインを設け、鐵軌を布き舟を上下し、以て水路を接續せしむる裝置ありと云ふ。

二三八、其支線水路は宇治郡山城日岡村より、北行して本市小川頭に至る、延長四千六百二十五間餘あり。此水路は運河の用をあさす、電氣機及ひ諸機械運轉等の用に供する者とす。此線路中墜道三所、機橋一所、架橋及ひ堰路各十餘所、水溜四所、伏堰二所を設くと云ふ。又其總經費は八百十九萬九千八十六圓餘あり。

二三九、舊皇居は北緯三十五度一分二十五秒、東京偏西四度一分四十秒に位し、上京一條に在り。古の大内裏は今の大宮に在り、結搆壯麗偉觀、外郭十二門を備へ、其内院省寮府、皇居と廻りて甍を列せりと云ふ。然るに其後皇室式微、之を現地に移し、僅に

二三八、其支線は如何？

二三九、皇居の位置及ひ其沿革？

三府誌

名勝

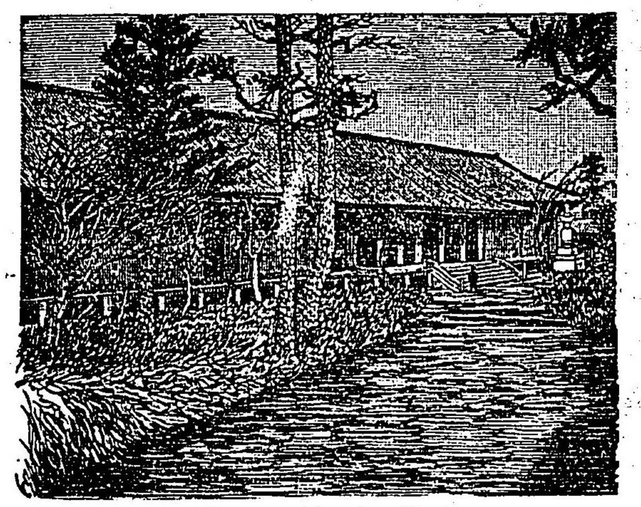
皇居紫宸殿の圖

紫宸温明諸殿を存せるのみ、是亦數回の祝融に罹り、古制の子影たも存するに足らす。

二四〇、京都の地たる山川清絶なるは、世人普く知る所あり、即春風三月は嵐山に櫻花を賞すへく、御室月輪寺之に亞く。嵐山は市外葛野郡に在り滿山皆櫻樹、蒼松之を點綴し、桂川其麓を流る、水を隔てゝ之と望む最佳あり。夏日の苦熱は若王寺、南禪寺、紅林等に洗ふへく、殊に賀茂川の清流は納涼の名全國に布けり。秋日金風

二四〇、京都名勝の地に就て略記せよ。

に乘しては高尾栂尾に紅葉を賞し、冬日浩々の世界は、丸山に於て眺む絶勝ありとす。其他四時の眺望絶佳あらざるはなく、山城一圓は眞に日本の大公園と稱して不可なし。



三十三間堂

二四一・社祠及ひ佛堂の著名なる者は？

二四一・社祠及ひ佛堂伽羅は、則地の舊古なるを以て、結構の偉大あると、古色の欽敬すべきとは、共に他に其比を見す。其著名なる社祠には八坂社、北野神社、上御靈社、下御靈社あり（市外にあるは之を略す）佛寺には福寺、東西本願寺、得長壽院（三十三間堂）本國寺、護國寺、大德寺、建仁寺、清水寺、金閣寺、銀閣寺等あり。

二四二・就中知恩院は淨土宗の總本山、東西本願寺は淨土眞宗の本山、建仁寺東福寺等は禪宗五山の內、金閣寺は足利義滿の所

金閣寺

西大谷親鸞廟所

二四二・知恩院東西兩本願寺建仁寺東福寺金銀兩閣寺及ひ清水寺等に就て？

總論

建、銀閣寺は足利義政の所建、清水寺は坂上田村麿の創建に係る等を以て共に名あり。又西大谷は眞宗開祖親鸞の廟あり。

風俗

二四三、都下の風俗は概して節儉を主とし、美麗を喜ふ。食物は約にして、衣服は修飾に流るゝの風あり。氣質は細愼おれども、豪俠に乏し。又其言語は優雅にして、訛音少し。

物産

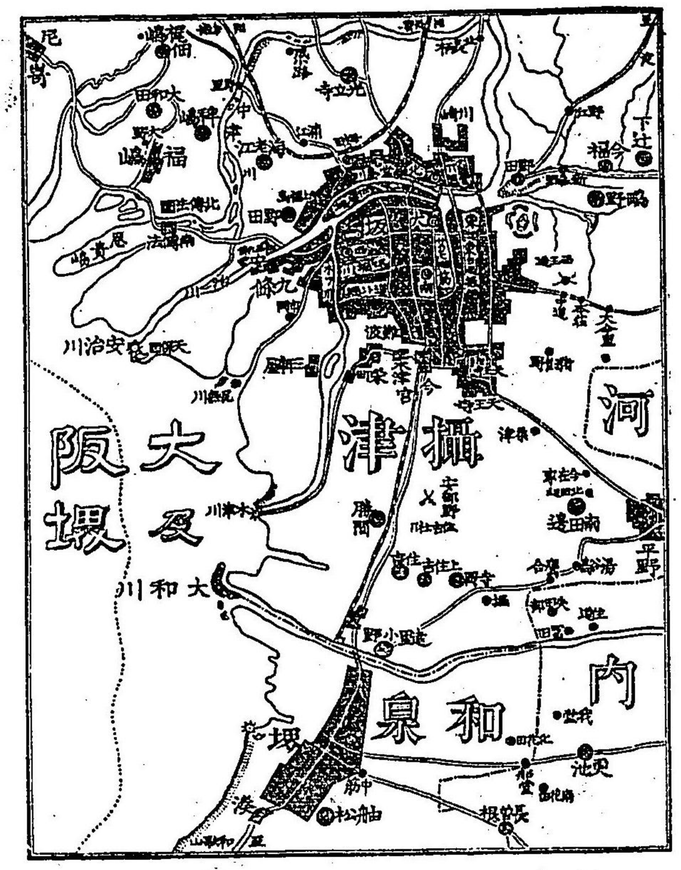
二四四、都下の物産は美術上の製品に精し。是市人の天敏に得たる者の如し。其著名なる者は即賀茂川染、西陣織、清水燒、絲物、漆器、針、扇、紅等あり。而して其賀茂川染は、所謂友泉染にして、畫工友泉なる者畫く所を染たるに因て此名あり。西陣織は上京西陣より出で、其絲錦、大和錦、本紅錦、金錦の如き、天工を奪ふに足り。其他天鵞絨、縮緬、唐織、紅梅織、羽二重等、精好眼を驚すへし。清水燒は府下清水及ひ五條坂等にて製す。其名匠には六兵衛、七兵衛、與兵衛、道八等世々其技を鳴せり。扇は府下御影堂及ひ五條、寺町等より出つ、京扇と云ふ。是なり。他の摸倣し能はさる所と云ふ。

大坂

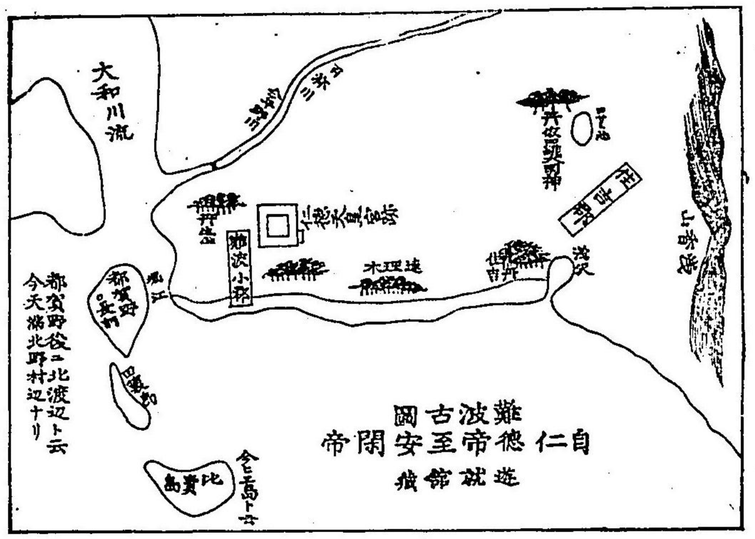
○大坂

位置形勢

二四五、大坂市は攝津國に在り東成西成二郡に跨る。東經百三十五度


大阪及堺
攝津
河内
和泉
堺
大和川
淀川
天王寺
難波
住吉
福島
田野
野田
福島
川治安
川崎
川尻
川口
川口
川口

市坊人口　沿革



の集配い自三府の首にあり。

其東西一里餘、南北三十三町、市坊五百十八、人口四十四萬二千六百五十八あり。

二四七. 此地古は難波津と云ふ。蓋攝津の國古名涙速、此地其津頭に當るを以て、涙速津と稱せり、因て地名となる又涙華とも書く。

仁德天皇始めて此に都し玉へるよりや、難波の名初めて世に現はる。

二四八. 其後天正年中、僧顯如始めて大坂に城くや、是大坂の

廣袤及び市坊人口に就て？

二四七. 本市の古名及び世に現はれし所以は？

二四八. 大坂の名は如何？豐臣氏以後の沿革を記せ。

區劃　驛路

名の初めて人に知らるゝ所あり。當時は實に一小村落の地たるに過ぎざりき。之に尋て豐臣秀吉居城を此に定めて、頓に一大都會とあり、以て德川氏に至れり。德川氏に至ては大坂城代を置く。

二四九. 全市を分ちて四區とす。東區、西區、南區、北區是なり。其最繁榮なるは東西兩區にして、而して心齋橋通、今橋、千日前、堺筋等の諸街は、皆本區中の最雜沓を極むる處とす。要するに市街端正、平坦砥の如くなれども、道路狹隘なるの故を以て、車馬の雜鬧甚し。

二五〇. 驛路の主要なる者は、即京都街道、中國街道、和歌山街道等是なり。其京都街道は淀を經て京都に達し、中國街道は神戸、兵庫を經て播磨姫路に通し、和歌山街道は堺を經て和歌山に至るへし。其他は高槻路、大和路、丹波路等あり。乃心齋橋を起點

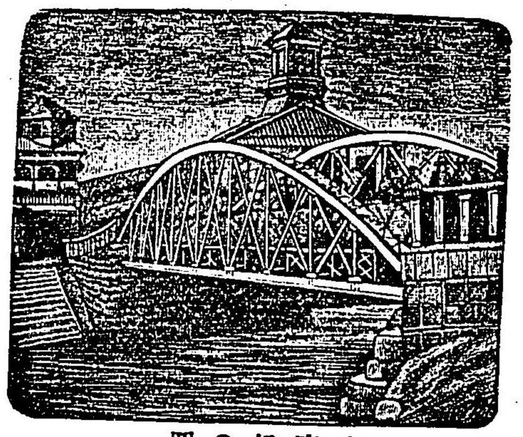
二四九. 全市の區劃及び其繁榮の市街を記せ。

二五〇. 驛路の主要なる者を記せ。近傍市邑の距

鐵道

となし、京都に至る十三里、兵庫に至る十五里、和歌山に至る十七里なり。

二五一. 鐵道は京都より來り、市北を西走して神戸に達する者と、市南難波より堺に至る者と、及ひ湊町より河内柏原に通する者本線は前圖になしと(二道中、前者は和歌山、後者之あり。難波及ひ湊町より發する)は奈良に連續するの目的なり。之を以て陸運の便



心齋橋の圖

離に就て?

二五一. 鐵道は如何?

河渠

捷論を待たす。

二五二. 大坂の地たる所謂淀川の冲積層よりなるを以て、其淀川委口は無數の分流をなす即中津川、安治川、木津川及ひ尻無川等是なり皆共に舟楫の利あり。而して市内亦許多の溝渠を穿ち、以て舟運を便にす即堂島川、土佐堀、堂島及ひ土佐は澱川の分流なり東横堀、西

二五二. 河渠の整通及ひ其舟楫に就て?

橋梁

横堀、長堀及ひ道頓堀等是なり。

二五三. 右の如く河渠の縱横なるを以て、之に架する橋梁の數殆二百に垂んとす。其大川即澱川には天滿、天神、渡邊、肥後の四大橋、木津川には木津川橋あり以上を五大鐵橋と稱す。其他高麗、日本、心齋、及ひ四橋(ヨツハシ)等は長大ならされとも著名なり。

商況

二五四. 本市元より商業地なり故を以て巨商の輻輳は勿論、其安治川口の如きは、帆檣林立して對岸を望むへからさると常あり。其一歳の取引高、常に三府の首に居る特に最盛大なるは米商にして、而して其堂島に於ける米商會社は、殆ト全國米價の中樞を握れり(然れとも該社一歳の賣買は、東京の米商會社に及はさるなり。)

二五五. 要するに本市の港口即安治川口は、風波常に暴く、且澱川の砂泥其河底を沮塞し、繫舶甚宜しからす。之を以て天保中大に河底を浚渫し、其土を以て一丘を築き、之に燈臺を設けて舟

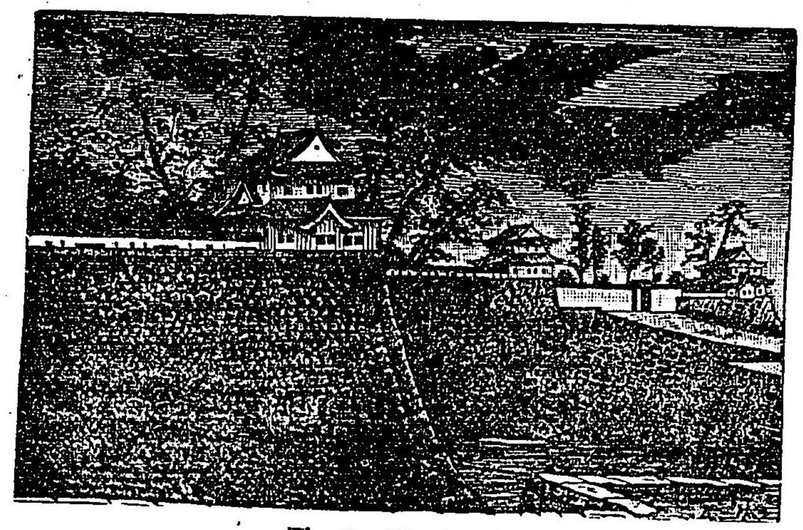
二五三. 橋梁の著名なるは何ぞ。

二五四. 本市の商況を記せ。米商は如何?

二五五. 港口は如何?

總論

大坂城



大坂城の圖

航に便す。天保山是あり。又目下市民築港の議ありと云ふ。

二五六。此地亦東京と等しく、良水に乏しく、市民多くは河水を汲て之を飲用に供す。汚穢堪ふへからす。近來市民又之か改良を企圖せりと云ふ。

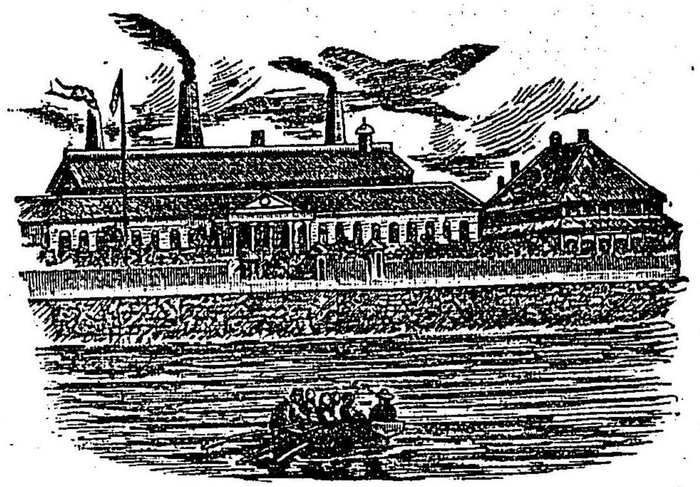
二五七。大坂城は市東に在り。即天正中、豐臣秀吉の築造する所にして、大手、玉造口、及ひ京橋口の三門あり。其京橋口に架するの橋は、古大和川に架する者あり。名古屋百濟橋 本城は其始め金城陽池天下の最たりしも、慶長

二五六。飲用水は？

二五七。大坂城の記事に就て？

三府誌

勝地



造幣局の圖

中城陷り、今形は僅に其牙城を存するのみ。

二五八。大坂造幣局は北區川崎に在り。結構壯麗、本邦通貨鑄造の場とす。大坂府廳は西區江子島にあり。大坂鎮臺は東法圓坂町に在り、即大坂城あり。

二五九。大坂は京都の如く、勝景に富まず。故に山川閑雅の地甚乏しとなす。其遊賞の地は、僅に中ノ島公園、櫻宮等に過ぎすして、其他は社寺の境内、若くは春時近郊の菜園あるのみ。櫻宮は澱川の東畔中野村に在

二五八。造幣局大坂府及ひ鎮臺の所在は？

二五九。本市に於ける遊賞の地如何？櫻宮は？

總論

社寺

り、櫻花を以て賞せらる。

二六〇. 市内社寺の著名なる者は、即生國魂社、高津宮、座摩社、天滿宮、豐國社、及び四天王寺、一心寺、和光寺等あり。就中四天王寺は、千貳百四十七年、用明天皇御代廐戸皇子玉造岸に創營せしを、推古天皇の元年十二年千二百五荒陵の東に移せり、即今の地あり、地は市の東南隅天王寺村是なり。

二六〇. 市内の社寺を記せ。四天王寺は？

舊蹟

二六一. 市内の舊蹟は仁德天皇の宮趾、東區高津村にあり、即彼高津宮は天皇を祭る祠あり。茶臼山は四天王寺の傍にあり、元和中、德川家康大坂城攻圍の時、在陳せし古戰場として著し。

二六一. 本市の舊蹟に就て？

風俗

二六二. 風俗は怜悧なれとも、猾獪を免れず、概して優柔、口腹に奢るの弊あり。婦女の頭髮服裝等は京都に近似すれとも、較、卑野に、言語亦然りとなす。

二六二. 風俗は如何？

物産

二六三. 物産は綿布の紡織最熾にして、之に次くは傘、煙管、一閑張、眞田織、鯨鬚藤竹の細工物、氷砂糖、天王寺蕪等なり。又海魚に鯛、鯧（マナガツヲ）及び鱧（ハモ）等あり、就中鱧は此地の佳品とす。

二六三. 物産を記せ。

新體日本地誌第一編終。

教科摘要 新體日本地誌第二編。

林　善助著述
明石中和校閲

各國。

第七章—畿內誌。

一、畿內は之を五國に分つを以て、又五畿內と稱す。北は山陰、東海、東山、南は南海、西は山陽の五道に接し、而して西南隅は大坂灣に臨む。古來帝都の地なるを以て、之と八道の首に置く。而して西海及ひ北海の二道を除き、他は皆畿內より分道する者の如し。

二、地勢は三面遶らすに山脈を以てし、中央及ひ西南瀕海の地は一帶平坦なりとす。故を以て域內の諸川は、概して西流大坂

畿內誌
境界
地勢

一、畿內の境界を問ふ？
畿內を八道の首とせしは？
二、地勢及び地味氣

灣に注く。地味は豐腴農耕に適し、氣候は温和なれとも、之を概すれは瀕海は寒暑共に中和、山地は冷熱共に酷なり。

三、地形南北に長く、東西に短し、即南北最長三十五里、東西二十五里、面積凡四百四十五方里あり。其住民は凡二百四十四萬餘にして、一方里凡五千四百八十餘人の割合なり。地舊古なるを以て道路四通し、運輸の便を得たり。

地形
人口
面積

四、畿内の稱は唐の畿甸に倣ひ、大化二年、始めて其疆域と定む。即北は近江の逢坂山を限り、東は伊賀の名張川、南は紀伊の背山、西は播磨の明石浦以内を京畿と稱す。後大寶中に至り、今制に改む。

沿革

五、其五國は曰く山城、曰く大和、曰く河内、曰く和泉、曰く攝津是なり。又之を分ちて八區、五十五郡、及ひ四市となす。而して二府二縣之を分轄す。即二府は京都、大坂、二縣は奈良、兵庫、四市は京都、大坂、堺、神戸是なり。

區劃

候は如何？

三、地形面積及ひ人口は如何？

四、畿内の沿革に就て？

五、畿内の國名及ひ區劃府縣等に就て？

山城

六、三面峯巒を以て圍み、中央は較々平坦なり。其隣境は東に近江、西に丹波及ひ攝津、南に伊賀及ひ大和河内あり。東西凡六里、南北凡十五里之を一市八郡に分つ（市は京都郡、は葛野（カドノ）、愛宕（オタギ）、乙訓（ヲツキ）、紀伊、宇治、久世、綴喜（サガラ）、相樂。）人口は四十六萬八千六百餘、田園凡二萬三千八百七十餘町歩あり。

府治

七、府治—は京都府にして、府廳は京都上京二條城中にあり。京都府の所管は、則山城及ひ丹後一圓と、丹波の五郡（南北桑田、船井、天田、何鹿）にして、總へて二區十八郡とす。其一歳の支出は六十一萬九百五十圓なり（二十二年度の豫算、即國庫支出、地方税、國庫補助及ひ寄附金等合算す。以下倣之。）

山岳

八、山岳—の著名なる者を記すれは、概して甚高峻ならす。即近江の境に比叡山（二百七十余丈）あり、有名なる東山は其餘波なり。鞍馬

六、山城の形勢總概に就て？

七、府治は如何？

八、著名なる山岳を

各國

河川

山は北方に聳え、大悲、棧敷、愛宕諸山は丹波を界し、三國嶽は近江丹波の境上に在り、而して鷲峰、笠置等は國の東南隅にあり。比叡山は延暦年中、僧最澄延暦寺を創開し、爾後天台の本山となる。故に其名海内に布けり。笠置山は大和に接近する一小山に過ぎざれども、後醍醐天皇南遷の舊蹟として著し。

九、河川―賀茂川は北部山陬より發源し、鞍馬、貴船、高野の諸溪流を合せ、京都を過ぎ、桂川に入る。桂川は丹波より來り、下鳥羽に至りて、賀茂川を受け、淀に至りて宇治川に會す（其上流を保津又大堰と稱す。）宇治川は所謂琵琶湖の下流にして、東方より來り、伊賀より來る木津川と共に、淀に會す。史上有名なる宇治橋は本流に架せり。淀川は以上諸川を受け、一大河となり、河攝の州界を西南し、大坂灣に注く。畿内第一の濶流なり。

湖沼

一〇、湖沼―の最大なるは巨椋（オグラ）池にして、紀伊久世二郡に跨り、

列記せよ。

比叡山に就て如何なる記事あるや？

九、河川の流通に就て？

名邑

社寺

周圍四里餘、最灌漑の利あり。昔時豐太閤の穿つ所と云ふ。其他納所、六地藏、四谷村、一口（イモアラヒ）等の諸沼は、共に前池の傍近にあり。周圍皆二里を出入す。以上の五沼、又共に淀川に通す。

一一、名邑―には伏見、淀、宇治、八幡、木津及ひ上下鳥羽等あり。伏見は宇治川に臨みて、舟揖の利あり。而して奈良及ひ大坂の要衝に當り、人口二萬餘を有する殷盛の商區なり。然れども鐵道布設後は、其盛舊時に比せすと云ふ（三府誌に地圖あり、合せ考ふへし。）其他は皆人口五千以下の小市街なるのみ。

一二、社寺―の京都近傍に在る者は、既に京都誌に於て、之を記せり。故に今其他の著名なる者のみを列記せは、則社祠には上下賀茂神社、男山八幡宮、松尾神社、平野神社、稻荷神社等なり（以上皆官幣大社。）寺院には泉涌寺、仁和寺、天龍寺、妙心寺、南禪寺、鞍馬寺、醍醐寺等著名なり。

湖沼の大なる者は何ぞ？

一一、此國の名邑に就て？

一二、郡部に於ける社寺の記臆を記せ。

一三. 風俗—人民概して温和儉素、市邑の民は製造と勤め、村落の民は農耕山樵と業とす。且國人皆其業に精勵するの故を以て、物産の饒多なるは他國に冠たり。

一四. 物産—の主なる者は、京都より多く産す（京都の條下に之を記す。）其他は宇治茶、松茸、筍、蕪、水菜、砥石、白川石（建築材）等なり。

一五. 就中宇治茶は宇治より産す故に此名あり。此地最茶に適し、古來名あり其精品年額共に邦内の最にして、近來は多く之を外國にも輸せりと云ふ。

一六. 沿革—上代山代と云ひ、又山背、開木代等に作る桓武帝の御代山城に改む。神武天皇四海一統後、始めて山代國造を置き、大化以後國司を置く。

一七. 桓武天皇遷都以後、左右京職、東西市司ありて、京師を治め、國司は別に京外を管す（國府は乙訓郡河陽離宮）而して此國を以て我首邦となす。鎌倉の代、京都守護あり、又南北六波羅探題あり、畿内以西を兼鎮せしむ。足利氏の時覇府を室町に開き、戰國の世織田氏所司代を京師に設け、尋て豐臣氏伏見に城きて之を護す。

一八. 德川氏は又所司代を二條城に置き、山城、大和、丹波、近江を攝治せしめ、而して伏見に奉行を置き、淀に親藩を封す。王政維新後所司代奉行及び藩を廢し、之を府治となす。

一三. 風俗は如何？

一四. 物産は如何？

一五. 宇治茶に就て？

一六. 上代の沿革は如何？

一七. 中古の沿革を概記せよ。

一八. 德川以後の顛末は？

畿内誌

大和

○大和○

一九. 畿内中の大國にして、南部過半は峯巒重疊し、北部僅に平沃なり。東は伊賀伊勢に界し、西は河内、南は紀伊に隣り、北は山城に接す。東西凡十六里、南北凡二十五里、之を十五郡とす（添上、添下、平群、山邊、宇陀、城上、城下、十市、廣瀬、高市、葛上、葛下、忍海、宇智、吉野。）人口凡四十九萬餘、田園四萬四千五百五十餘町歩あり。

二〇. 縣治—當國一圓奈良縣の所管にして、縣廳は奈良町にあ

一九. 大和國の總概を記せ。

二〇.

各國

山岳

り。其一歳支出の總額は、三十萬四百九十六圓とす。

二一、山岳—南部山地は一圓吉野郡にして、全郡殆ト峻峯高岳ならざるはなし、之を吉野山彙と稱して、本邦著名山脈の一なりとす。其高峯は山上ヶ岳にして世に之を大峯と稱す、郡の中央に聳立し、高六千二百尺、其脈四出して吉野十二峯となる、畿内第一の高峯なり。又紀伊、伊勢の國界に大臺原山あり、最深奥を極め、河内の境上に葛城、二上、信貴、生駒、諸山あり、北部に多武、三笠、春日諸山あり、甚峻高ならざれども著名なりとす、紀伊伊勢の境上は一帶連山屏列、無人の境あり。

河川

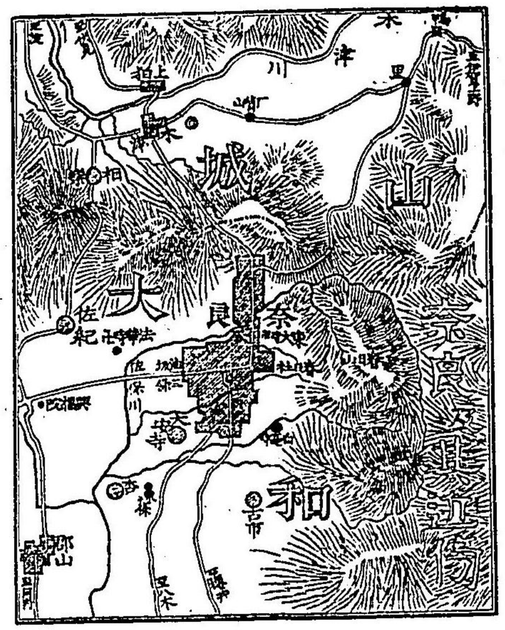
二二、河川—大和川は北部平野の諸水を合せ、西流して河内に入る、初瀬、奈良、龍田、飛鳥、重坂、葛城諸流は乃之に合する者なり。吉野川は大臺原山より發し、西下して紀伊に入り、紀川と稱す、國中最大の流にして、國勢自ラ二分す、其沿岸には吉野、上市、下市、及ひ

縣治は如何？

二一、山岳の著名なる者を概記せよ。

二二、當國の河流に就て其大畧を記せ。

五條等の諸邑あり。十津川は山上ヶ嶽より發し、紀伊に入り、熊野川となる、十津川諸村は則其沿岸にあり。



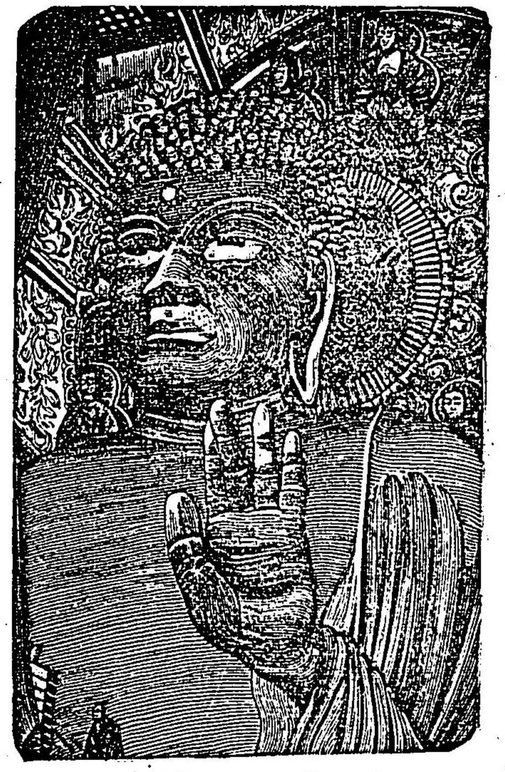
二三、奈良、町、—は國中の都會にして、平野の中央にあり、市坊二百三十五、人口二萬四千七百餘。

此地昔時、元明天皇より七代、八十餘年間の帝都にして、其名夙に現はる故に又南都と稱す。

春日祠、東大寺は其東に在り、世に著はるゝ大佛堂は、即東大寺にあり（大佛殿高十五丈、佛體高五丈余。）東大寺の傍に正倉院あり、二千年前後の御物を藏し、而して史家

二三、奈良町に就て記せ。

此地の宮社及び寺に就て？



大佛の圖

三千に上る者稀なり。即郡山、小泉、龍田、松山、初瀬、三輪、田原本、櫻井、八木、今井、土佐、高田、五條、吉野等なり。就中較繁華なるは郡山、五條にして郡山は柳澤氏の舊城地、五條は南部の一盛市なり。

二五、驛路―は京都路（奈良、山城、大坂路）暗嶺越（奈良、小瀬、河内の豐浦）堺路（奈良、郡山、龍田、木津）亀瀬越（奈良、二階堂、田原本、八河内の國分）同上竹内越（奈良、二階堂、田原本、八木、高田、竹内、河内、古市）伊賀路阿の最尊重する所の材料に富めり。

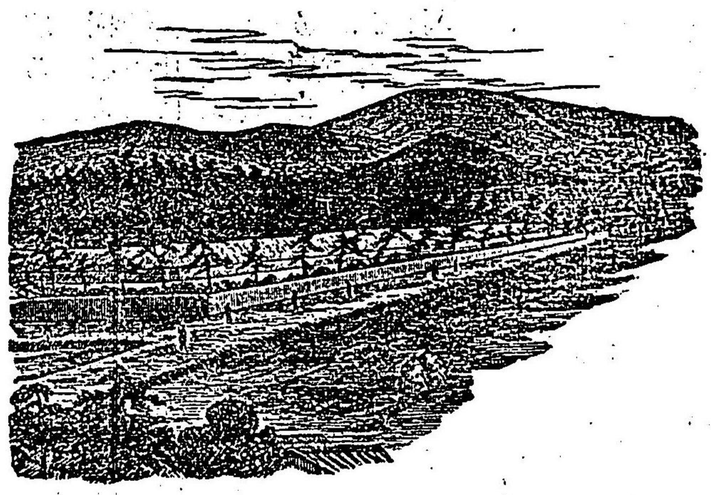
此地京都を距る十里、大坂に十二里。

二四、名邑―には奈良に亞くへき地なく、人口亦

二四、此國の名邑を記せ。

二五、驛路の概略を記せ。

保越（奈良、丹波市、櫻井、初瀬、荻原、伊賀名張）紀伊路（高見越（鷲家、上市、下淵、五條、紀伊橋本）伊勢路（同上伊勢波勢）紀伊別路（待乳越（奈良、二階堂、田原本、八木、戸毛、五條、紀伊橋本）等なり。以上は皆縣道とす。



神武天皇御陵

二六、舊蹟―神武天皇橿原宮跡は、葛上郡柏原村に在り其他歷代の皇居此國に存する者凡四十七所、山陵も亦隨て多し。畝傍山陵は即神武天皇御陵にして、高市郡四條に在り、近年新に造營なり、最壯麗を極む。吉野山は即南朝五十餘年の行在所なり。

舊蹟は如何？

畝傍山を問？

二七、名勝―櫻花を以て世に

各國

鳴る吉野山は、即吉野郡に在りて、吉野川其麓を流れ、巒頭溪脚櫻樹ならざるはなし、其花春に當りては、絶景言語に盡さすと云ふ。

此に亞くの勝地は月ヶ瀬の梅溪にして、奈良の東七里にあり、滿溪梅林、其開花の候は水清く、山白く、風皆馨あり、眞に塵外の境なり、賴山陽の詩に「非親和州香世界、此生何可說梅花」と。

二七、名勝地を問？

風俗

二八、風俗―北部の民は、概ね簡素にして、農耕作業を勤め、南部山村の民は、淳樸にして、農稼山樵及ひ獸獵を事とす。然れども一般の氣風活達せす、隨て民業の見るへき者少し。

二八、風俗を記せ。

物產

二九、物產―の種類は甚多しと雖、其重なる者を舉くれは、則鑛物には、諸石材、陶土、銅、金剛砂、植物には吉野檜、諸材木、野菜、豆、荻、藥艸、諸瓜、木綿、動物には蠶、年魚、製造品には綿布、奈良晒布、醬油、葛粉、奈良漬、漆器、吉野紙、墨、筆等なり。

二九、物產に就て？

山林

三〇、殊に當國は山林に富み、良材を出すに名あり、即吉野、宇陀、

三〇、

添上諸郡に於ける山林は、松杉檜榧の類密生して其幾萬本あるを知らす、就中其吉野郡の如き、有名なる紀州の林區に接續し、其廣袤十數里に亘る者あり。然れとも地運輸の便を缺けるを以て、其伐出紀州の如く盛ならさるあり。

山林は如何？

沿革

三一、沿革―神武天皇橿原奠鼎後、當國を分ちて、大倭及ひ葛城（葛城上下）二國造を置く。孝謙天皇の御代、大倭葛城を合して大和とあす、且平安遷都以前皇都の地たるを以て、五畿八道の首國となせり（國府は高市郡に在り。）

三一、上代に於ける當國の沿革？

三二、南北朝の時、後醍醐天皇吉野を以て皇居となす、國內統屬する所を知らす。足利氏の時、畠山氏世々守護たれとも、戰國に至りて、諸豪之を分領せり。豐臣秀吉其弟秀長を本州に封し、和泉紀伊を併有して郡山に治す。

三二、中世の沿革は如何？

三三、德川氏に至り、郡山、高取、小泉、櫛羅、芝村、柳本、柳生の七藩を

三三、

分封し、又奈良五條に奉行を置けり。王政維新後、諸藩を廢し、奈良縣を置き、尋て之を廢し、大坂府の所轄に歸せしか、今復奈良縣を再置す。

各國

河内

○河内

三四、東南一帶連山を以て山城大和及び紀伊に境し、西北は沃野にして、和泉攝津と相連る。東西は僅に四里、南北凡十三里あり。之を十六郡に分つ。交野、讃良、茨田、若江、河内、高安、大縣、安宿、志紀、澁川、丹北、丹南、八上、古市、石川、錦郡。人口は凡二十八萬、田園は二萬八千三百八十餘町歩。

山岳

三五、山岳―は高峻なる者なし。即大和誌に於て記せし所の信貴、生駒、金剛諸山東界に峙ち、其他は紀伊の境上に藏王峠、紀伊見峠、大和の境に十三峠、暗峠等あり。金剛山は大和に所謂葛城山にして、石川郡に在り、昔時楠正成が築きし千早城は、其山腹にあり。

三四、此國の總概を記せ。

三五、山岳の著名なる者は？

德川以後に就て？

河川

三六、河川―の記すべき者は山城より來る淀川、大和より來る大和川にして、二水の間は灌漑よろしく、地味頗る肥沃なり。又國中の流は石川の一水大和川に落るのみ。

湖沼

三七、湖沼―狹山池は國の西南隅丹南郡にあり、周回里許。此池は上代崇神天皇の御代、穿ちて灌漑を利すと云ふ、今猶其惠に依る者五十餘村。

名邑

三八、名邑―には枚方、星田、豐浦、八尾、國分、古市、富田林、大塚等あり。就中八尾は當國の繁地にして、人口凡四千あり。其他は人口概ね一二千に過ぎざる小市街なりとす。

驛路

三九、驛路―國道は北端に京都路（守口、牧方、山城橋本）あり、是大坂京都の街道にして、古來人馬絡驛たり。縣道は紀伊路國中を縱斷して、最長し（牧方、中甘内、國府、富田林、三日市、紀伊見峠を經て紀伊橋本。）此國大和より堺、大坂に至る要衝なるを以て、其通路四あり、即暗峠、十三峠、龜瀬越、竹内越等あ

三六、河川は如何？

三七、狹山地は？

三八、名邑に就て記せ。

三九、驛路の概畧を記せ。

り。

風俗

四〇、風俗—土壤膏沃なるを以て、居民耕作を勵み、女子は紡織を事とす。氣風は一般淳樸ありと云ふ。

物産

四一、物産—は有名なる河内綿布の産地にして、各郡より之を出す。之に亞くは操綿、打綿、綿絲の類にして、其他は金剛砂、蠶糸、蓮根等なり。道明寺糒、亦名あり。

沿革

四二、沿革—神武天皇始めて凡河内國造を此國に置き玉ふ。其後元明天皇の朝、河内と改稱し、國司の治とあるに及ひ、府を大縣郡に置く（今國府村なり。）

四三、建武中興、楠正成守護となり、足利氏の時、畠山氏之に任し、戰國の時、三好長慶之を併有せり。豐臣氏諸城を除き、攝津に治し、德川氏に至り、丹南狹山に二藩を封す。王政維新後、堺縣之を轄せしか、今は廢して大坂府の所轄となる。

四〇、風俗は如何？

四一、物産は？

四二、上代の沿革に就て？

四三、建武以後の沿革を畧記せよ。

和泉

四四、此國畿内の小國にして、其最長の處東西十里、南北九里とす。東南一帶は山脈並列し、西北は大坂灣に臨む、之を茅停海と稱す。其山脈は河内紀伊を境し、北は平坦、僅に攝津に接す、之を一市、四郡とす（市は堺、郡は大鳥、和泉、泉南、日根。）　人口は二十四萬三千二百餘、田園は凡一萬六千四百五十餘町。

四五、山川—槇尾、七越、葛城、飯盛諸山は河内紀伊の境に聳え、犬鳴、神於、鋒ヶ峯諸山は其餘波なり。川流は皆短小なり。石津、大津、津田、近木、大井關諸川あれとも記するに足らす。

四六、堺市—國の北端大和川河口に在り（大坂圖參看。）　此地は昔時外國互市港にして、畿内第一の商區なりしが、今は衰退せり。然れとも富商、豪戸尚存し、人口四萬四千、市坊百九十四を有し、市街殆ト一里に延長す（大坂に三里、奈良に十一里、和歌山に十五里。）　鐵器及ひ段通は、世に鳴る

四四、和泉の總概を論せよ。

四五、此國の山川を總記せよ。

四六、堺市に就て記せ。

物産なり。

名邑　四七、名邑―岸和田、貝塚、佐野、信達、樽井、尾崎等あり。岸和田は和歌山街道に臨み、人口は一萬餘、堺に亞げる商地なり。

驛路　四八、驛路―國道和歌山街道は、海岸に沿ふて南下す（堺、岸和田、信田、紀伊山口。縣道には河内路三（一は堺、河内國分、即龜瀬越、一は堺、河内古市、即竹内越、一は堺、河内三日市）國内に一あり（堺、長承寺、府中、上瓦屋を經て國道。）又紀州路には、沿岸の別路あり（佐賀、尾崎、淡輪、紀伊加太。）

港灣　四九、港灣―堺港は水淺く、巨舶を繫くに宜からず。然れども内國の商船は、常に輻輳せり（阜頭に燈塞あり、舟行に便す。）谷川港は國の西端にあり、又水淺くして、巨船を容るへからす。岸和田港は舊時水深かゝりしが、漸淺く、五尺に過きすと云ふ。

社寺　五〇、社寺―大鳥神社は官幣大社にして、大鳥郡に在り、日本武尊を祭る。妙國寺、南宗寺は堺にあり、妙國寺堂後の鐵蕉は、世に

四七、和泉の名邑は如何？
四八、驛路の主要なる者は？
四九、港灣に就て？
五〇、大鳥神社は？

名名あり。其他家原寺、法道寺、松尾寺、願泉寺、久米寺等の古寺あり。皆創建千年以上とす。

名勝　五一、名勝―此國沿岸の地は、古松蒼鬱、靜波紋を織り成し、北に攝津の摩耶武庫諸山を望み、淡路島は前面に浮む等、好風畫の如し。故に古人の記行歌咏等之を賞する者少しとせす。所謂茅渟浦、保日浦等の名勝は此間に在りとす。

風俗　五二、風俗―温和にして華奢を好むの風あれとも、山居の民は淳樸なり　生業は土地狹小、山地多しと雖、膏腴なるを以て、耕業を勤め、濱海は魚漁海煮に從事す。

物産　五三、物産―堺の鐵器、庖刀、段通類其他綿布、紋羽織、陶器、櫛、丹類等にして酒醬油亦精良に、其他は魚類とす。

沿革　五四、沿革―元正天皇の朝、河内の三郡（大鳥、日根、泉）を割て始めて和泉監を置き、孝謙天皇の朝、國號となし、府を和泉郡に置く（今國府と云ふ。）

名勝　五一、名勝の地を記せ。
著名なる寺院は？
風俗　五二、風俗は如何？
物産　五三、物産を問？
沿革　五四、沿革は如何？

各國

攝津

鎌倉の時、佐原氏守護となり、建武の時、楠氏守護となりて、其臣和田氏之を代鎮す。足利氏の時、山名大内細川諸氏相尋て守護たりしか、戰國に至り、織田豐臣二氏交々之を領せり。

五五、徳川氏に至り、奉行を堺に置き、岸和田及ひ伯太に二藩を封す。維新後、奉行二藩を廢し、堺縣を置き、當國及ひ河内を兼治せしか後之を廢して大坂府治となれり。

攝津。

五六、東は淀川を以て河内に接し、西は播磨、北は丹波山城に境し、南は一帶大坂灣を抱き、而して僅に和泉に連る。北部は山岳重疊して、深奥を極め、南部沿海は平坦なり、殊に大坂地方は淀河の沖積層地なるを以て、平曠沃美なり。

五七、之を二市（大坂、神戸）十二郡に分ち（東成、西成、住吉、島上、島下、豐島、能勢、河邊、武庫、菟原、八部、有馬）人口は九十一萬二千八百餘、田園は凡三萬五千三百三十餘町歩。

五五、徳川氏後に就て？

五六、攝津の形勢を概記せよ。

五七、市郡人口田園等に就て？

畿内誌

府治

東西凡十二里、南北凡九里あり。

五八、府治—此國大坂府及ひ兵庫縣あり、而して其府廳は大坂市にあり。大坂府所管は河内和泉一圓、及ひ攝津の七郡（住吉、東成、西成、島上、島下、豐島、能勢）凡へて二市二十七郡、其支出は九十三萬九千二百五十圓なり。

縣治

五九、縣治—兵庫縣廳は兵庫町に在り。縣の所管は播磨但馬淡路一圓、及ひ攝津の一市五郡（神戸市、及ひ八部、菟原、武庫、河邊、有馬）丹波の二郡（多紀、氷上）凡へて一市三十三郡、歳出は八十一萬四千八百二十五圓なり。

山岳

六〇、山岳—國の西部に高座、武庫、摩耶諸山あり、播磨の境上に鐵拐峯、帝釋山、丹波の境上に愛宕山、添山等あり、而して武庫摩耶二山最著る。其他妙見、箕面等國中に散立す。

河川

六一、河川—國中の河流皆源を北部に發して南下す、獨淀河東

五八、大坂府治は？

五九、兵庫縣治は？

六〇、山岳に就て？

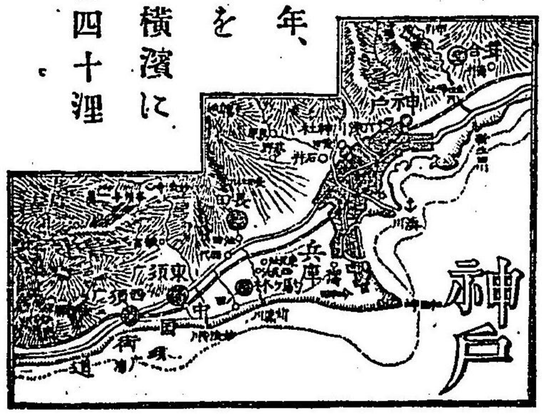
六一、

各國

より來る、而して最大なり。淀川は廣濶緩流、行舟の上下晝夜絶えず、其分流には神崎、中津（古の長柄）二川あり、本流は大坂を貫き、共に海に注く（大坂誌を參看せよ。）池田（下流神崎川に入る）武庫二川は丹波播磨國境の諸水を合し、南流す、然れども舟楫の利なし。其他は記するに足らず。

神戸市

六二、神戸市―は、國の西端に在りて、人口十一萬五千九百餘を有する一大商區なり。市街は神戸兵庫二港に臨み、湊川其間を流れて、其境をなす。此地慶應三年、始めて外國互市場となる、爾來頓に盛昌を來し、横濱に亞ける大貿易地。此地より横濱に至る、海路三百四十七浬、馬關に至る二百四十浬とす。



六二、神戸市に就て記述せよ。

河流は？

名邑

六三、名邑―國中殷賑なる市街最多し。即大坂より神戸に至る沿道に、尼崎、西宮、魚崎、御影等あり、而して尼ヶ崎西宮は共に人口一萬以上を有す。其他高槻、芥川、富田、茨木、吹田等は國の東部に、池田、伊丹は國の中部に、三田は有馬の山間に、平野は國の南隅にある一小繁地とす、而して伊丹、平野は各人口五千餘あり。

驛路

六四、驛路―國道には京都路（大坂、河内、守口）中國街道（大坂、神崎、尼崎、西宮、兵庫、播磨、明石）山崎街道（芥川、郡山、瀬川、昆陽、西宮）和歌山街道（大坂、堺）等なり（大坂誌を看合せよ。）縣道には高槻路（大坂、茨木、宮田、高槻）丹波街道（大坂、神崎、伊丹、小濱、生瀬、道場、川原、丹波、古市）有馬路（神戸、住吉、渦山）等にして其他丹波路五、大和路二あり。

鐵道

六五、鐵道―京都より來り、大坂を經、神戸を過ぎ、山陽に至る者、最長く、凡四十三哩餘あり（休車場―高槻、茨木、吹田、大坂、神崎、西宮、住吉、三宮、神戸、兵庫、須磨）大坂より堺に至る者、六哩餘（休停場―難波、天下茶屋、住吉、堺）大坂より河内に至る者、十

六四、驛路を記述すべし。

六五、鐵道に就て？

哩（休車場―湊町天王寺、平野河内八尾、柏原）以上三泉とす。

六六、港岬―大坂港は安治川口、木津川口の二あり、深四五仞大船を繫くに宜からず（大坂誌參看。）兵庫港、神戸港は小野岬（湊川海口）自然の界をなす深三仞より九仞に至り、大船碇繫に便なり。和田岬は兵庫港の南に在りて、碇泊を便にす（燈臺を設く。）

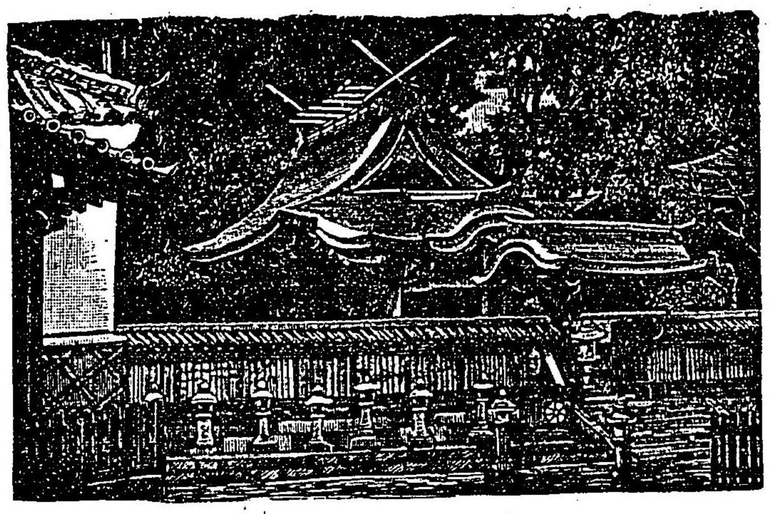
六七、温泉―有馬の温泉は有馬郡湯山町に在り泉質鹽酸を含み、濕瘡脚氣に効ありと云ふ。此場古來有名にして浴舍數十、皆結搆を盡し、春夏の候、最浴客多しと云ふ。

六八、社祠―住吉神社（住吉廣田神社）武庫水無瀬神社（島上）湊川神社（八部）生田神社等にして、就中（住吉、廣田、生田の三社は神功攝政中の創建と云ふ）湊川神社は南朝の忠臣楠正成を祭る。社は其戰死の跡に建つ。

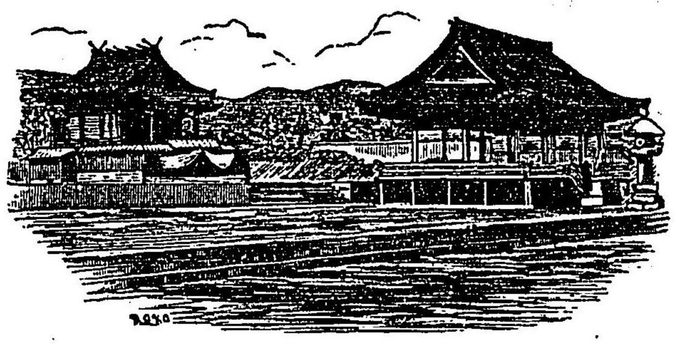
六六、港岬は如何？

六七、有馬の温泉は？

六八、社祠は？



生田神社



湊川神社

名勝

六九、名勝―須磨、浦は八部郡に在りて、播磨明石、浦に續き、海瀕一帶白砂青松相連り、淡路島波間に横る、眞に賞月の幽區なり、背後に鵯越一、谷等の古戰場あり。　住吉は住吉郡に在り、濱海の眺望可あり、殊に大坂に近きを以て、市人の熱鬧を洗ふ所とあす。其他箕面瀑、豐島布引瀑、苑原等共に名あり。

舊蹟

七〇、舊蹟―一、谷は須磨の西六町にあり、壽永中、源平二氏の交戰場なり。　福原は即今の兵庫の地にして、治承中、平清盛、安德帝を奉して遷都せし處とす。　湊川は即正成戰死の地にして、一堆古墳草茅中に在りしか、元祿中、德川光國碑を建て、維新後、朝廷祠宇を賜ふ、湊川神社是なり。

風俗

七一、風俗―は和泉と大同小異にして、其生業都會の民は商賈作業を專とあし、村落の民は農耕を勤む。　然れとも概して土地肥沃、百貨自便なるか爲に、奢美に耽るの弊あり。

六九、名勝に就て？

七〇、舊蹟を記述せよ。

七一、風俗を概論せよ。

畿內誌

物產

七二、物產―花剛石（御影より出つ、故に御影石と云ふ）池田炭、有馬の諸紙、神戸の洋紙、西成郡の帆木綿共に名あり。　特に著しきは酒にして、其產地は伊丹、池田、灘等なり、之を諸國に輸出し、其品本邦第一と稱せらる。

沿革

七三、沿革―古、浪速と云ふ、仁德及ひ孝德二帝の都し玉へるとあり。　天武天皇の御代、攝津職を設け、桓武天皇の御代、國司に改め、府を西生郡に置く（府跡今未詳。）

七四、鎌倉の時、大內氏守護となり、建武中興、楠氏之を兼守す。　足利氏の時、佐々木細川諸氏交々之を領せしか、織田氏に至り、荒木村重を守護となし、尋て池田信輝に賜ふ。　豐臣氏に至り、大坂に城き全治す。

七五、德川氏の時、大坂に城代を置き、攝河泉及ひ播磨を統べしめ、兵庫に奉行を置き、又尼崎、高槻、三田、麻田等四藩を封す。　維新

七二、物產は如何？

七三、上代の沿革は？

七四、鎌倉以後に就て？

七五、德川以後は？

後、大坂府及び兵庫縣を設く。

第八章。—東海道誌。

七六。東海道—は則太平洋沿岸諸國の總稱にして、畿內の東より起り、北は山脈を以て東山道と相並馳し、東南一帶海に面し、而して西隅僅に南海道紀伊に接す。東西延長凡百二十里、其幅員三十里に出入し、平面二千六百五十八方里、人口九百七万三千余あり。

七七。本道を分ちて伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相摸、武藏、安房、上總、下總、常陸の十五國となす。又邦制上の區劃は凡へて十七區、百四十八郡、一府八縣七市ありとす。府は東京、縣は三重、愛知、靜岡、山梨、神奈川、埼玉、千葉、茨城、市は東京、横濱、名古屋、水戸、靜岡、津とす。

七六。東海道の境域は如何？人口は？

七七。本道の國數及び邦制上區劃に就て？

七八。古來東海道を大別して關西、關東と稱す。即駿河以西を關西、相摸以東及び東山道の兩野を併せて關東と稱す。故に又關東八州と云ふ。箱根嶺は乃其分界なり（昔時嶺上に關門あり、故に爾云ふ。）其風俗に於ても、亦關東關西自ラ別あり。即關西諸國は較々柔薄を帶び、關東諸國は豪直ありとす。其氣候に於ける、關西は溫暖、關東は較々冷寒を加ふ。然れども本道は概して溫和ありとす。

七九。文武天皇の朝、畿內七道の制あるや、始めて東海道と稱し、十一國に分ちしか、後天武天皇の朝、伊勢を分ちて伊賀及び志摩とし、駿河を分ちて伊豆とし、上總を分ちて安房とし、武藏を東山道より割きて本道に併せ、以て十五國とす。

七八。關東關西の別に就て記せ。

七九。本道の沿革を叙述せよ？

伊賀

八〇。東は伊勢、西南は山城大和、北は近江に境し、東西凡七里、南北凡九里、四境山峯圍繞し、中央較々平地あり。人口凡十萬四千

八〇。伊賀の地概に

二百、田園一萬三千八百五十餘町歩あり。

山岳

八一、山岳、―御齋峠、笹ヶ嶽、栂峠、五位ノ木峠、内保越、伊賀越、油日山等近江の境に峙ち、伊勢の境上に深切嶽、長野峠、布引山、大峠、元取嶽、尼ヶ嶽、國見山（伊勢大和）等並列せり。就中最高峻なるを尼ヶ嶽とす。其他國内に靈山寺山、瀧山等あり。

山川

八二、河川、―名張川は水源大和（字陀）及び南境より發し、北流して復ヒ大和に入る。伊賀川は國中の諸水を合せ、山城に入りて名張に會す、之と山城川と稱す、即木津川の上流なり。

名邑

八三、名邑、―上野は伊賀越の要路に當り、國中の都會にして、市場三十五、八口は一萬二千八百あり（京都に十五里、伊勢津に十二里、奈良に十里余。）之に次くは名張にして、上野より大和櫻井に至る通路とす、八口三千以上あり。

驛路

八四、驛路、―山城路（上野、島原、山城、大北川原）大和路（上野、古山、名張、大和三本松）伊勢路（上野、佐那具、上柘植、伊勢加太）全上別路（上野、平田、平松、伊勢長野）等あり。此國古來東海畿内の要路に當ると雖、土地羊腸、往來不便なるを以て、行人繹驛たらず。

就て？

八一、此國の山岳は如何？

八二、川流に就て？

八三、名邑を記せ。

八四、驛路は如何？

風俗

八五、風俗、―一般輕浮にして專ら農耕を事となし、山間の居民は薪炭を業とす。

物産

八六、物産、―は稱道すべき者少く、但僅に石炭、磨砂、伊賀燒（阿拜郡丸柱村を最とし、茶家の愛觀する所なりしが、今は粗器のみ產する）雲母、五倍子（キブシ）、柿、茶、蒟蒻等あり。

沿革

八七、沿革、―成務天皇の朝、伊賀國造あり、後伊勢に合す。復ヒ伊賀國を置くや、國府を阿拜郡に置く（今の西條村。）鎌倉の時、平賀、大内諸氏守に任し、足利氏の代、仁木氏伊勢より兼知し、後北畠氏に歸す。戰國に至りて瀧川、脇坂諸氏受封せしか、德川氏に至り、藤堂氏之を賜はる。維新後三重縣に併す。

伊勢

八八、此國西南峯巒を遶らし、東伊勢ノ海に臨み、南は太平洋に面

八七、沿革は？

八八、

す其伊勢海に臨むの地、平坦肥沃、諸川皆之に並注す而して西は近江伊賀大和、東南端は志摩、西南は紀伊、北は美濃尾張に接す。南北凡二十七里、東西最長十二里あり。人口は凡六十八萬餘にして、田園凡七萬四千四百四十餘町歩之を一市十三郡に分つ（市は津、郡は桑名、員弁、朝明、三重、河曲、鈴鹿、アノ、アケ、ナベ、カワ、ノベ、ケタ、ワタラビ、奄藝、安濃、一志、飯高、飯野、氣多、度會。）八九。此國二大部に分ち、北を北伊勢、南を南伊勢と云ふ。其地勢を較ふるに、北勢は較〻狹小なれとも、平地多く、五穀豐熟し、殷賑なる市邑に富めり南勢は廣大なれとも、山地多く、隨て地味も北勢に若かすと云ふ。

九〇。縣治―三重縣は當國津市に其廳を置き、伊賀伊勢志摩一圓及び紀伊の二郡（南北牟婁）總へて一市二十一郡を轄す。其支出は四十九萬千五百四十圓なりと云ふ。

九一。山岳―西境に峙つ諸山は、御池、藤原、龍ヶ岳、八風、釋迦、御在所、

縣治

山岳

伊勢國は？

人口田園郡數は？

八九。南勢北勢とは？

九〇。縣治は如何？

九一。

川河

八道、合縣、鈴鹿、高畑諸嶽美濃を限り、深切、布引、元取、尼ヶ嶽等伊賀を限り、大洞、高見、池木屋諸山を經て、大臺原山となり、以て大和を限り、其脈東方に屈し、紀伊の境上には舟津、仙千代、春日、荷坂諸嶺となる。而して朝熊、山伏、逢坂、築地諸山志摩を境す。

九二。内地諸山は鷲峯、龍仙、東宮等は南端に局ヶ岳、白猪堀坂、矢頭諸山は中部に横列す以上南勢に在り。北勢に於ては錫杖、尼ヶ嶽、經峯等高峻にして、其他は記するに足らず筆捨山は甚高峯ならされとも、東海道に臨み、奇景を以て名あり。

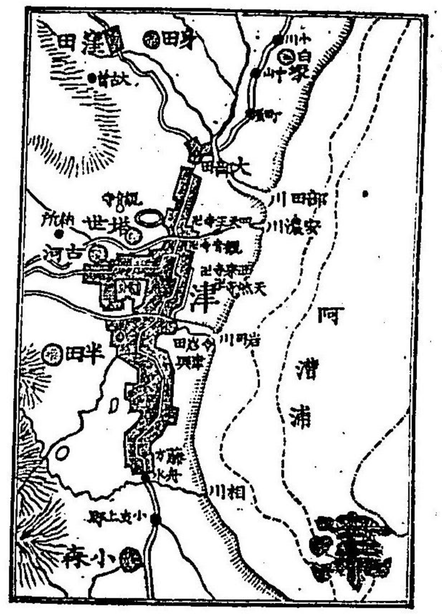
九三。河川―國の北端に木曾の大川あり是其委口にして、數條に分流し、無數の三角地をなす支流に鍋田川あり、即國界とあす。内地の川流には大なる者なし即町屋、朝明、三岳、内部、鈴鹿、安濃（下流分れて岩田川と云）雲出（下流分れて新川と云）矢櫛田、稻木及び宮等あり就中宮川最大にして大臺原山より發し、内海に注く、長凡三十里あり。

山岳の概略に就て？

九二。内地に於ける山岳は如何？

九三。川流の主なる者は？

津市



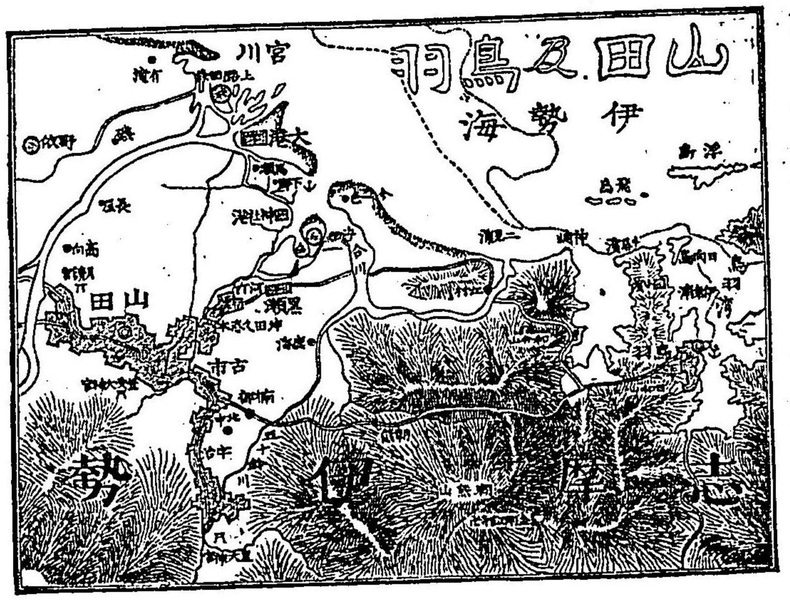
り、藤堂氏三十餘萬石の舊城市なり。

九五、名邑――には山田、桑名、四日市、神戸、龜山、白子、松坂等あり。就中山田は南勢の都會にして、其繁華津に匹敵し、人口二萬二千あり。此地宮川に臨み、古市、川崎等の諸市街を連ね、皇大神宮及ひ豐受大神宮に接近するを以て、諸國人の兩宮に詣する者、概ね此に宿す、故に繁華を致すと云ふ。

九四、津市――は北勢の一都會にして、參宮道に當り、安濃岩田二川市街を横斷し、東阿漕浦に臨む人口二萬五千、市坊八十七、南北一里二十町あり。此地安濃郡に在ると以て、安濃津と稱す、津は其畧な

九五、名邑及ひ山田は？

九四、津は如何？

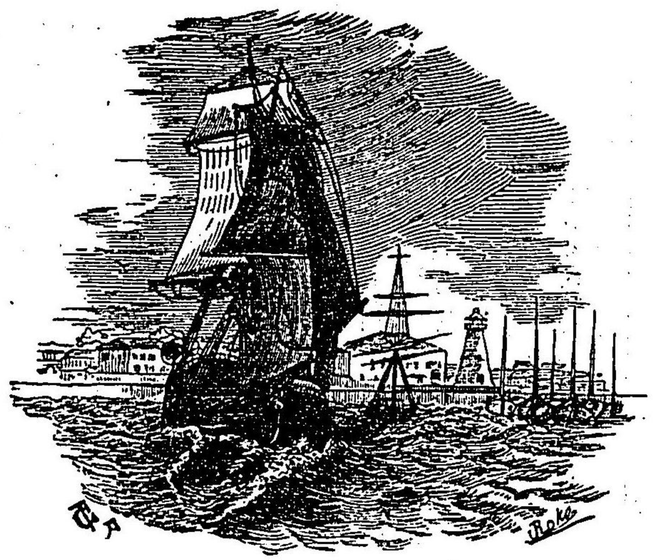


九六、港灣――には四日市、贄崎又阿漕浦と云大口、大港以上内海五箇所灣、礫港、慥浦、古和浦以上外洋等あり。贄崎に燈臺あり。四日市港は國中の良港にして、東西二十町、南北三十四町、深四五仞、大舶を泊すへし。凡ソ當國及ひ尾張地方の航客貨物は、本港に依て東西に致す。故に郵船會社の定期線を設く。人口一萬二千七百餘ありて、市街漸次盛行ならんとせり。

九六、港灣は如何？四日市は？

各國

驛路



四日市港

に入る 長島、桑名、富田、四日市、追分、石山、薬師、庄野、亀山、関、近江土山、

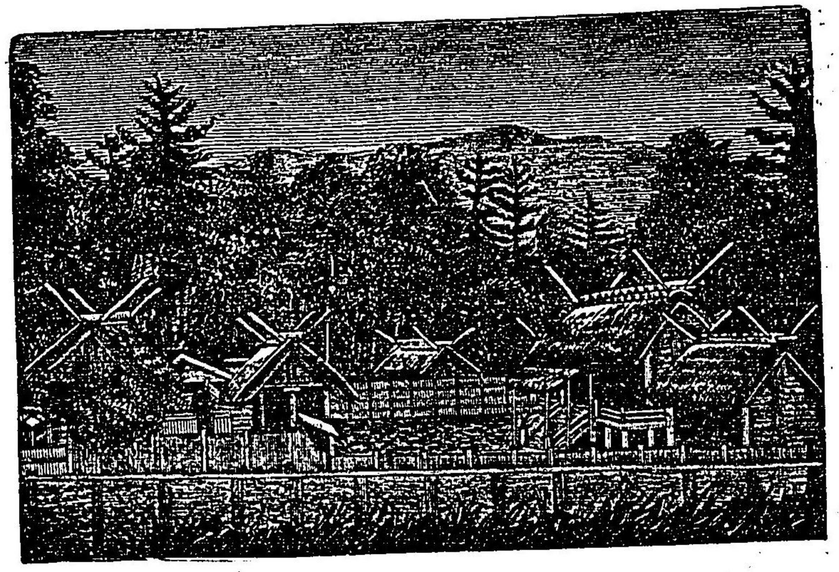
太神宮に至る 追分、神戸、白子、上野、津、小野江、三渡、松坂、高宮、山田。

九七。 **岬角**—内海には渡會郡に神崎ありて、内海に突出す。其傍に二見ヶ浦の勝あり。三崎、赤石鼻、シドノ鼻、大石鼻、小山崎、鉄崎、蘆浦崎等皆同郡の南端外洋に臨めり。此邊暗礁多く、海波荒く、其沖は所謂熊野灘にして、舟行極めて惡し。

九八。 **驛路**—東海道は北端より斜に鈴鹿峠を經て、近江參宮道は東海道より分れて、縣道には志摩路（山田、志摩、島羽）

九七。岬角に就て？

九八。當國の國道縣道等に就て？



内宮の圖

伊賀路（興賀、加太、伊賀上、柘植）同別路（津、北長野、伊賀平、松）大和路（山田、田丸、丹生、宮前、七日市、波瀬、大和、鷲家）紀伊路（山田、田丸、野後、間弓、紀伊長島）美濃路（桑名、香取、美濃高須）等あり。天武帝の朝置せられし鈴鹿關は、今の伊賀路加太の地なりと云ふ。

九九。 **社祠**—皇太神宮は垂仁天皇二十五年（六百五十年）大和笠置邑より、此國の宇治に奉遷し、是を内宮と稱す。即度會郡宇治五十鈴川上に鎮座す。實に天照皇大神の荒魂（アラミタマ）を奉

九九。皇太神宮は？

祀す、我邦の總廟あり。境内廣濶、老杉古檜蒼々鬱々、二千年の古靈場、仰瞻すへし。

一〇〇. 豐受大神宮は同郡山田にあり、雄畧天皇二十二年千三百十七年丹波の眞名井原より此處に遷し王ふ、之を外宮と稱す。以上宇治山田二鄕は宮川の以南に在るを以て、川内と稱し又神都と云ふ。而して二宮に詣する者毎歲數萬に下らず。

一〇一. 風俗—此國は東海道及ひ參宮道に當るを以て、市街の居民は多く旅客に依て生業を營む、故に巧敏輕薄の風を免れず、と雖、能く儉素を尙ふ。又一般の生業は海陸の產饒あるを以て、漁鹽、農作共に盛あり。

一〇二. 物產—は米を第一とす、即一志米（一志郡を最とす）の名高し。之に亞くは菜子油、蠟、木綿、津綟子、染形紙、漆器（春慶塗）陶器（萬古燒と云ふ朝明郡小向村にて產す）等にして、礦屬には石炭、木炭あり、魚貝には時雨蛤（桑名產）

一〇〇. 豐受太神宮は？

一〇一. 風俗生業等は如何？

一〇二. 物產は？

蝦、鮑、海菜類を最名ありとす。近來四日市より洋紙、及ひ綿絲を出す盛にして、廣大なる該製造所あり。

沿革

一〇三. 沿革—神武天皇の御代、始めて伊勢國造を置く。國司の治となるに及ひ、國府を鈴鹿郡に置き（今の國府村）鎌倉の時、平賀、大内諸氏相繼き守護たり。建武以後、北畠氏世々國司たりしか、戰國の時織田氏の滅す所となり、土地亦併有せらる。豐臣氏に至り、之を分割して諸臣に與ふ。

一〇四. 德川氏の時、諸藩の分合廢置一ならさりしか、關原役後、安濃津、桑名、薦野、長島、龜山、松坂、上野等大小七藩、別に山田奉行を置く。維新後之を廢し、安濃津、度會（山田）二縣を置きしが、既にして度會を廢し、安濃津を三重と改稱す、乃現制なり。

志摩

一〇五. 此國三面海を受け、西は伊勢に境す。全地山骨を以て

一〇三. 上代より中古までの沿革に就て？

一〇四. 德川以後は？

一〇五.

成り、平地殆んど之なし、其瀕海は屈折甚雜駁を極め、東西三里南北七里に過ぎざる小國なるも、其海岸線は、九十里に垂んとせり。之を分ちて二郡となし、英虞（アゴ）答志（タフシ）人口凡五萬五千六百、田園三千七百九十餘町あり。

山川　一〇六、山川―伊勢の境に峙つ者は、即和合、朝熊、山伏、逢坂、築地諸山にして、國内に青峯、淺間諸山あり。川は大なる者更になく、鳥羽港に注く池田川の溪流あるのみ。

名邑　一〇七、名邑―鳥羽は此國の都會にして、答志郡にあり、鳥羽灣に臨む。人口四千七百餘あり。此地伊豆の下田港と遙に相對し、昔時に在りては、遠州灘の通船は、必ず本港に繫船するを常とせしかば、市街頗繁華ありとす。

港灣　一〇八、港灣―鳥羽港は方凡五町餘、深三仞より五仞に至り、日和山其背を擁し、答志、菅及び坂手三島前に横り、大船巨艦の碇泊に宜し。的矢港は答志郡に在りて、稍々國の中央に位す。東西九町、南北四町、深六仞餘、東に向ふ、其前方は的矢灣なり。

一〇九、岬角―手尋濱岬は北端にあり、權現崎は鳥羽港を抱き、其東端に加布良古崎あり、安乘崎（燈臺あり）は的矢灣の門口をおす（以上答志郡）。大王崎、麥崎、御座崎等は共に南端に在りとす（以上英虞郡）。此邊一帶波荒く、暗礁多く、舟航甚危險とあす。

一〇、島嶼―の最大なるを答志島とおし、周回六里餘、其東端は三河伊良古崎と相對す（北端を白崎と云ひ、燈臺を設く）。菅島は其南に在り、

志摩は如何なる地ぞ？

一〇六、山川を記せ。

一〇七、鳥羽は如何？

一〇八、港灣を記せ。

岬角

鳥羽の港

島嶼

一〇九、岬角は？

一一〇、島嶼に就て？

各國

周回凡三里とす。其他は大築島、海島、神島、坂手島、渡鹿野島港の前面等枚擧すべからざる小島あるのみ。

風俗

一一一。風俗―此國遍陬に在るを以て、風俗樸忸且地味瘦薄あるの故を以て、生計儉素を主とし、漁業に從事する者多し。就中婦女の如きは、海中に沒し、巧に貝藻を採收すると云ふ。

物産

一一二。物産―は即海産物にして、和布、荒布、鹿尾藻、鹿角菜、石花菜、鯛、鰹、鰹節、鰯、海蝦、海參、眞珠、貝類等あり。

沿革

一一三。沿革―成務天皇の朝始めて島津國造を置く。當時は伊勢三河の間に在る一島國ありしあり、然るに其後海中に陷沒せしかば、伊勢二郡を割きて當國を存すと云ふ。中古國府を英虞郡に置く（今の府村。）國建武以後北畠氏當國を兼治せしが、戰國に至り九鬼氏之を領し、以て德川氏の時に至る。

一一四。德川氏の時數々其領主を變し、享保以後稻垣氏之を世襲せしが維新後改て鳥羽縣を置き、既にして之を廢し、度會縣に併せ、今又三重縣に合す。

一一二。風俗は？

一一二。物産は？

一一三。德川氏以前の沿革は？

一一四。德川氏以後に就て？

尾張

一一五。地勢平衍にして高山なく、只僅に北方及び南方半島地に、丘陵山岡起伏するあるのみ。土質沃美にして灌漑に富み、運輸隨て便を極む。然れども時に或は泛濫の害あき能はず。其隣邦には北に美濃、西南に伊勢、東に三河あり。而して南は遠く海中に突出す。東西凡八里、南北二十里あり。

一一六。域内を一市八郡に分ち（市は名古屋、郡は愛知、知多、東春、東春日井、西春日井、丹羽、葉栗、中島、海東、海四）人口八十八萬一千六百餘、田園凡十萬三千三百餘町歩あり。

一一五。尾張は如何なる國柄なるや？

一一六。域内の區劃は？

一一七。縣治は如何？

縣治

一一七。縣治―當國及び三河一圓は、即愛知縣の所轄にして、縣廳は名古屋市にあり。其一歲の費額は六十七萬四千五百七十

各國

九圓とす。

山岳

一一八、山岳—東北隅の國界を此國の高峻地とおせども、記すべきの山岳を見ず、小富士山及び三國峠（三河美濃）あるのみ。内地に於ては小牧山甚高からずと雖、昔時豐臣德川兩氏の古戰場を以て世に著る。南部半島は則知多郡にして、全地皆丘陵なり、然れども亦著山おし。

河川

一一九、河川—木曾川は美濃の界を彎流し、伊勢、海に注く、當國第一の洪流にして、其最濶の處數十町あり。凡木曾山林の木材は、皆此流に資て其價を鳴らし、且舟筏を通すると五十餘里に達して、當國及ひ美濃の運輸を利し、又當國の肥田は皆其水を引用す。其他域内に庄内、天白、日光、諸川あり、木曾川の分流に五條、佐屋（木曾に入る）、筏、鍋田諸川あり、遠江の境に境川あり、皆南流して海に注く。

一一八、此國の山岳は？

一一九、河川は如何？

名古屋

一二〇、要するに當國及ひ美濃の平地は、木曾揖斐二大川の會流する處に當るを以て、其搬運する所の土砂、古來間斷おく堆積してある者とす（總論天然誌を參考せよ。）故を以て兩川の流域は、今尚砂泥之を塞塡して止まず、平時灌漑の利多しと雖、若し霖雨增水の時に方り、之が泛濫の害を被ると兩國共に大あり。今や官民協力、之が堤防浚渫に從事し、毎歲爲に巨萬の資を投すと云ふ。

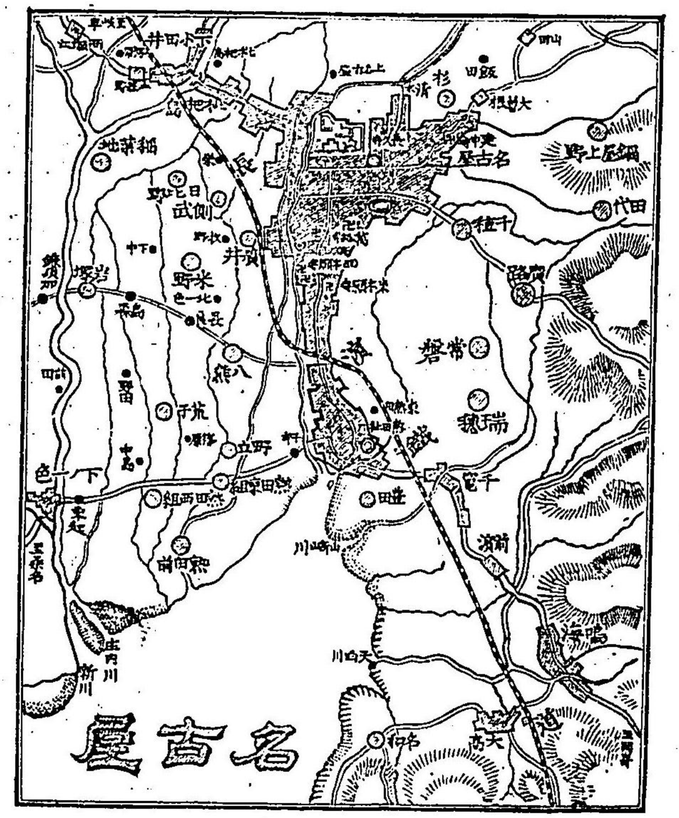
一二一、名古屋市—は國の中央愛知郡に在り、三府に亞く市場にして、市坊三百十九、其最長各一里に餘り、人口十五萬五千を有せり。市街は南熱田の驛を連ね、北枇杷島及ひ下小田井の町村に續き、鐵道は市西を廻り、而して百貨四達、商業甚盛大に、物産も亦許多あり。（東京九十五里、京都一東海道四十里、中山道三十八里。）

一二二、市中最雜沓おる處は本町榮町等にして、其榮町は近來兩傍樹木を植え、家屋亦潔清なりとす。名古屋城は市北に在り、

一二〇、當國及ひ美濃に於ける流水を論せよ。

一二一、名古屋は如何なる地ぞ？

一二二、同處の市街及



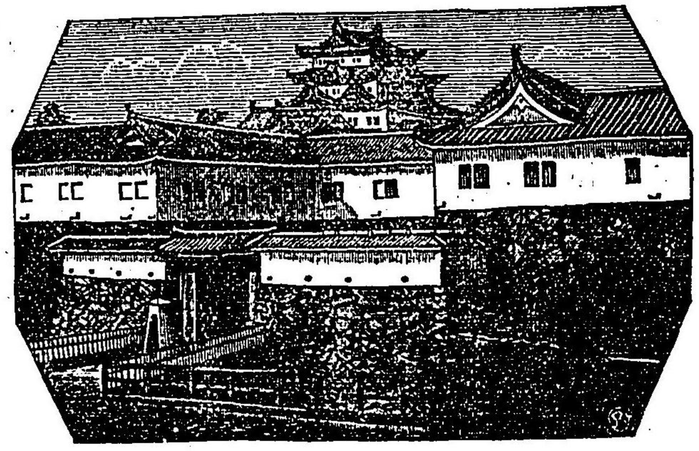
慶長中、德川義直尾張侯の爲めに築造せし者にて、本邦名城の一なり。天主閣甍上の金魚は、世人の普く知る所とある、今名古屋鎮臺の營所なり。

一二三、市人は概して巧慧勤儉、而して京畿の風に近似する所あり。其物産には七寶燒、採瀨（シボリ）、織物、扇、鐵器等にして、殊に名古屋扇古來名あり。

（び城油に就て？）

（一二三、名古屋市人の風及び其物産は？）

名邑



名古屋城

一二四、名邑—には熱田（愛知）鳴海（全上）下小田井（西春日井）江本町（海東）津島（全上）一宮（中島）稲置（舊犬山と稱す）岩倉（全上）龜崎、半田、成岩、常滑、內海（以上半田）等あり。熱田は宮と通稱し、熱田神社あるを以て市街海灣に臨み、伊勢航渡の津頭に衝るを以て、旅人雜沓す。人口は一萬七千餘あり。一宮、津島、江本、成岩、常滑等は共に人口五千以上を有す。

（一二四、名邑に就て？）

一二五、驛路—國道には東海道（名古屋、清洲、稻葉、萩原、起（オコシ）、美濃墨股）大垣路（名古屋、小牧、稻置、美濃鴉沼）半田路（熱田、鳴海、熱田、下一色、西福田、前ヶ須、伊勢桑名）岐阜路（名古屋、清洲、一宮、美濃笠松）之あり。驛道の主要なる者は美濃路（名古屋、美濃鴉沼）

（一二五、驛路は如何？）

各國

鐵道

結川、鹽崎、半田、河和、師崎、常滑、路熱田、鳴海、名和、横須加、大野、常滑等なり。

一二六、鐵道―三河より來り、斜に國中を通過して美濃に入る、東海道線及ひ知田半島の東岸を南下する、半田線の二あり。其東海道線は凡二十九哩餘、停車場―大府、大高、熱田、名古屋、清洲、一宮、木曾川、其半田線は凡十二哩餘あり。大府、龜崎、半田、武豐。

港灣

一二七、港灣―熱田港は熱田を距る一里、方凡二十町許、之を保田と云ふ、深三仞餘、船舶此に碇す。半田港は衣ヵ浦に臨み、港内深廣、郵船會社の定期航海を設く。其他龜崎、大井、師崎等の諸港あり、龜崎、大井二港の間は、則知多灣にして、灣の北頭は衣ヵ浦なり。

岬角

一二八、岬角―には日長崎、鬼ヶ崎、富貝崎、鳶ヶ崎、海田鼻、羽豆崎國の南端師崎とも云ふ等あり、共に知多郡に在りとす。

社祠

一二九、社祠―熱田神社は愛知郡熱田にあり、景行天皇御代の創建にして、正殿には日本武尊及ひ天照太神、素盞嗚尊、宮簀媛、稻種宿禰を合祀し、別

一二六、鐵道は？

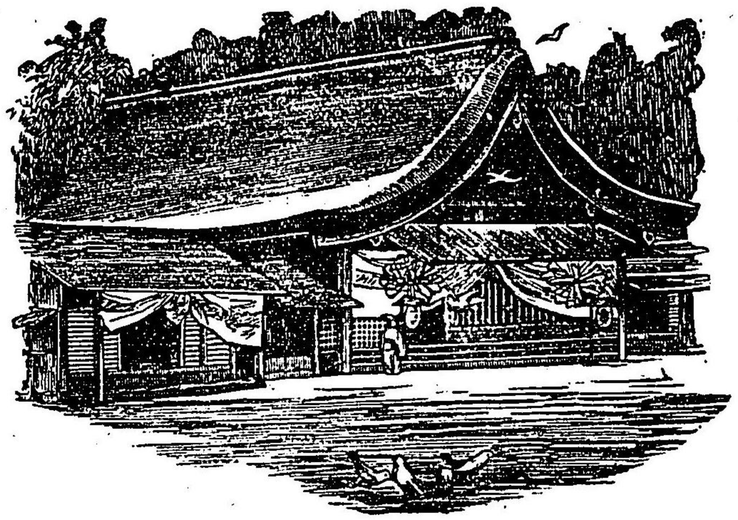
一二七、港灣は？

一二八、岬角は？

一二九、熱田神社は？

東海道誌

舊蹟



熱田神社

に草薙の寶劍を祭る、官幣大社なり。其宮觀は甚華美ならされとも、蒼古欽敬すへしと云ふ。

津島神社は津島邑に在り、素盞嗚尊を祭る、縣社なれとも、其祭日には華船を佐早川に浮べ、頗る美觀の名あり。

一三〇、舊蹟―此國織田及ひ德川氏の故地なるを以て、二氏の舊蹟に富めり。即清洲城は織田氏世々の居城地、長湫は鳴海驛の西南に在り、德川氏が、織田信雄の爲に豐臣秀吉の軍を

津島神社に就て？

一三〇、當國の舊蹟如何？

破りし地桶狹間は鳴海の東南に在り、織田氏が今川義元を酣りたる故戰場あり。

風俗

一三一、風俗―は温和にして、能く農耕作業を力む。就中北部諸郡の婦女は、工職を勵み、一歳出す所の綿布の類莫大なりと云ふ。

物産

一三二、物産―此國著名の物産は、所謂瀨戸燒と稱する陶器にして、東春日井郡瀨戸村より產す。後堀河天皇の朝、加藏四郎右衛門なる者、宋に到り、陶窯の術を學び、歸朝後、瀨戸村に於て之を試みたるより、爾來次第に發達し、各種の器物製らさるはなし。之に亞くは七寶燒名古屋、常滑燒、鳴海絞纈、諸織物、酒、錯、醬油、蘿蔔等最名あり。

沿革

一三三、沿革―此國上代小治田と稱す。成務天皇の朝、始めて尾張國造を置く。中古國府を中島郡に置き今國府宮、村なり鎌倉の時、大屋氏守護に任し、足利氏の時、土岐斯波諸氏交々之に任す。

一三四、戰國に至り、織田信長興りて一圓を領し、尋て美濃を併せ、近畿二十餘州を平け、足利氏に代て兵權を握れり。豐臣氏に及び、織田信雄に賜ひしが、既にして之を奪ひ、豐臣秀次を封し、又福島正則を封す。

一三五、德川氏に至り、福島氏を移封し、德川義直封を受け、名古屋に城きて之に居り、世襲し、犬山に成瀨氏を封して、本藩の相となす。維新後、諸藩を廢し、名古屋縣を置き、尋て之を愛知縣と改め、當國及び三河一圓を兼治す。

一三六、參河。東部は山地多く、西部は平野多し。地味は肥瘠相半すと云ふ。東は遠江、西は尾張、北は美濃信濃に境し、南は海に面す。其海中に突出せる半島を、渥美郡となす。東西凡十六里、南北凡十七里。

一三七、人口は凡五十五萬一千七百餘、田園は凡六萬六千五百

一三一、風俗生業に就て？
一三二、物產を問？
一三三、上古及び中古の沿革に就て？
一三四、戰國は如何？
一三五、德川氏以後に就て？
一三六、參河は？
一三七、

各國

餘町歩とす。而して域内を十郡に分つ碧海（アヲミ）、額田（ヌカダ）、東加茂（シガモ）、西加茂（ニシガモ）、幡豆（ハヅ）、寶飯（ホイ）、南設樂（シタラ）、北設樂、八名（ヤナ）、渥美（アツミ）。

山岳

一三八、山岳―の最峻嶮なるは信濃の境上にして、日原山、滝間山、栃木峠等並列し、遠江の境には尾々山、大森山、澁間山、吉祥山、本坂峠、石卷及び石神諸山連綿し、以て海岸に達せり。其内地に蟠踞する者は、即御殿山、川合山、月山、明神山、寶來寺山等攢立して、設樂郡の山彙をなし、之より山勢西南に走り、御嶽、本宮、宮地諸峯とありて、國の中央に起伏せり。又渥美半島の中央に聳ゆる者を大山と云ふ。

河川

一三九、河川―國中に三大川あり、故に國名を得ると云ふ。其三川は即矢作（矢知とも）太平豐川にして、其矢作川は美濃より來り、南流して足助大平諸川を合せ、海に入る、國中最大なり。豐川は北設樂郡の諸水を受け、寒狹川を合せ、豐橋を過きて海に入る。太

一三八、山岳の著名なる者を概舉せよ。

一三九、此國の三大河とは？

人口田園郡數は？

東海道誌

名邑

平川は尾張の國境を流る、故に境川と稱す、苅谷に至りて海に注ぐ（今の大平川は古の大屋川也。）

一四〇、名邑―豐橋は舊名吉田と云ふ、國の東南隅（渥美）に在り、人口凡一萬一千餘、市坊九十、此國東部の都會にして、名古屋分營を置く。岡崎は西部の都會にして、矢作川に枕む（額田）人口一万貳千七百餘、昔時德川氏の城地なり。其他刈谷（碧海）大濱（全上）池鯉鮒（全上）舉母（西加茂）西尾（幡豆）赤坂（寶飯）御油（全上）二川（渥美）等の市邑あり。

一四〇、岡崎豐橋の記事を問？

驛路

一四一、驛路―東海道（二川、豐橋、御油、赤坂、岡崎、池鯉鮒、尾張鳴海）は國の東隅より、國中を横過し、尾張に入る。縣道には本坂越（御油、北金屋、遠江三ヶ日）信濃路（豐橋、玉川、富岡、大野、本郷、信濃且開）全別路秋葉路（豐橋、小坂井、豐川、新城、大海、横川、海老、田口、上津具、信濃根羽）全岡崎よりする者（岡崎、九久平、足助、明川、稻橋、信濃根羽）及び豐橋より平坂に通する者（豐橋、小坂井、御馬、蒲郡、深溝、上横須賀、西尾、平坂）等あり。

一四一、驛路は如何？

鐵道

一四二、鐵道―は國の南部を横過す、其長凡三十六哩あり（停車場は

各國

港岬

豐橋、御油、蒲部、岡崎、刈谷。

一四三、港岬―渥美郡の抱ける內海を、渥美灣と稱す。知多灣は則其西に在り。灣の沿岸に大濱衣浦に面す平坂、御馬等の諸港あり。岬角には碧海郡に權現岬、賓飯郡に端田鼻（ハセダガハナ）、渥美郡に伊良古岬、中山鼻、大洲岬等あり。

島嶼

一四四、島嶼―には大なる者なく、渥美灣內に篠島、日間賀島、佐久島、姫島、辨天島等あれとも佐久島獨周圍里餘、其他は皆一小點に過きす。

寺院

一四五、寺院―鳳來寺は鳳來山腹にあり、此國の巨刹にして、結搆壯大、藥師佛を安置す。創建は大寶中に在りと云ふ。妙嚴寺は豐川村に在り（豐橋の北二里）、寺中吒枳尼天を安置す。宮觀莊麗賽人多し。

風俗

一四六、風俗―質樸溫厚、北部山間の民は較々慓悍あるか如し。生業は專農耕を勉め、北部の居民は山樵を兼ね、南部は工織及

鐵道は？

一四三、港岬に就て？

一四四、島嶼は？

一四五、寺院に就て問？

一四六、風俗生業は？

物產

ひ漁鹽に從事す。

一四七、物產―は紙（八名加茂）木綿（各郡より出つ）漆器（岡崎豐橋）砥石（設樂）雲母等にして、海產は干鰒、海鼠腹（コノワタ）等あり。就中木綿は三河綿布と稱して、堪久に名あり。砥石は名倉村より出で、名倉砥の名稱せらる。雲母は古來の名產ありと云ふ。

沿革

一四八、沿革―成務天皇の朝、始めて參河國造を置き、雄略の朝、穗國造あり（今の寶飯郡）。中古併せて三河國となし、國府を寶飯郡に置く（今の國府村）。鎌倉の時、源範頼守たり。既にして安達氏之に代はる。

一四九、足利氏の時、吉良氏守護となり、吉良氏衰へ細川氏代る。戰國に至り、今川氏本州を畧せしが其亡ふるや、德川氏之を領有す。豐臣氏に至り、池田氏を吉田に、田中氏を岡崎に分封し、而して德川氏と關東に徙す。

一四七、物產は如何？

一四八、國造國司の沿革を問？

一四九、足利氏以後に就て？

一五〇。德川氏に至り、之を復し、岡崎、西尾、田原、刈谷以下九親藩を分封せしか維新後之を廢し、額田縣を置きて州事を治せしめ、尋て又之を廢し、愛知縣に併す。

遠江

一五一。北は信濃山脈の餘波を受けて、頗る嶮阻、南は瀕海平坦沃土なり。東は駿河、西は參河、北は信濃に境し、南は則太平洋に面す、遠江灘是なり。東西十八里、南北二十里。

一五二。全國を十二郡に分つ（渡名、敷智、引佐、麁玉、長上、豐田、磐田、山名、周智、佐野、城東、榛原）其田園は凡五萬五千二百七十町歩にして、人口は四十五萬二千餘あり。

山岳

一五三。山岳—北部山地は即周知、榛原二郡にして、信濃の境上に貴崩峠、栃山、椹山（駿信）等あり。駿河の國界に大無間（七千六百九十二尺）風不入諸山あり。域内著名の高山には黒帽子、朝日、馬背諸山北部

一五〇。德川氏以後は如何？

一五一。遠江は？

一五二。郡數人口田園は？

一五三。國境の山岳は？内地の

に龍頭、不動、秋葉、光明諸山中央に在り。其餘脈は大日、八高（二千七百四十二尺）淡諸山となり、東部海岸に小笠、高天神（七百十九尺）等小山あり、而して西部湖北に御鷲山あり。

河川

一五四。河川—は皆南流して海に注く。國中の大河は天龍川にして、信濃諏訪湖より發し、國の中央を貫流すること二十七里、流域廣濶なる處七町に餘り、下流は無數の分派をなして委口す。其無數の分派をなす處は、所謂天龍川沖積層にして、土地沃饒なれ共、水害なきにあらず。

一五五。天龍川に亞く者は、所謂大井川にして、水源は駿河より發し、南流して駿河の國界を劃し、駿河灣に入る。官道に木橋あり、大井川橋と云ふ（長六百九十三間）鐵路に鐵橋あり（長三千二百英尺）。本流は全長凡四十六里、流域最濶十八町あり。然れとも平時は水少く、一朝雨水の滂漲するあれば、急湍猛浪里餘の河身に達すると云ふ。

一五四。天龍川は如何？

一五五。大井川に就て？